菓子稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セス

菓子稅

第一條　菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人（菓子ヲ製造シ之ヲ菓子業者ニ賣渡ス者ヲ云フ）

菓子卸賣人（菓子ヲ買入レ之ヲ菓子業者ニ賣渡ス者ヲ云フ）

菓子小賣人　菓子ヲ需要人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條　菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條　菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶スヘシ

第四條　鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

營業鑑札料　一枚ニ付金貳拾錢

仕入鑑札料　一枚ニ付金拾錢

出賣鑑札料　一枚ニ付金拾錢

第五條　鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條　菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條　鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

雇人十人以上アル者　一箇年金貳拾圓

雇人六人以上アル者　一箇年金拾五圓

雇人三人以上アル者　一箇年金拾圓

雇人二人以下アル者　一箇年金五圓

雇人ナキ者　一箇年金壹圓

卸賣營業稅

雇人十人以上アル者　一箇年金貳拾圓

雇人六人以上アル者　一箇年金拾五圓

雇人三人以上アル者　一箇年金拾圓

雇人二人以下アル者　一箇年金五圓

雇人ナキ者　一箇年金壹圓

小賣營業稅

雇人三人以上アル者　一箇年金七圓

雇人二人以下アル者　一箇年金參圓

雇人ナキ者　一箇年金壹圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノトス

露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條　營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條　營業稅前半年分ハ其年一月一日後半年分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又ハ新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人增加シタルトキハ該期ノ增稅ヲ納ムヘシ

第十一條　菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

第一期　一月一日ヨリ六月三十日迄賣上金高ニ係ル分　其年八月三十一日限

第二期　七月一日ヨリ十二月三十一日迄賣上金高ニ係ル分　翌年二月二十八日限

半年分ノ賣上金高三十圓未滿ノ者及ヒ露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其製造稅ヲ免除ス

第十二條　菓子營業者ハ每年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ屆出ヘシ但增員アルトキハ其時々之ヲ屆出ヘシ

第十三條　菓子製造人ハ每年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ屆出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分　其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分　翌年一月十五日限

第十四條　菓子製造人ハ菓子竝ニ其製造原品ノ賣買ヲ帳簿ニ記載シ置ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

第十五條　菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ檢查スルコトアルヘシ

第十六條　主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入リ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其主任タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第十七條　第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス

第十八條　第十二條第十三條ノ屆書又ハ第十四條ノ帳簿ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第五條第六條第十二條第十三條ノ屆出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十二條　菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

斯クテ菓子稅則ハ同年七月一日ヨリ實施セラルヽコトヽナレルヲ以テ同年五月大藏省達第二十四號ヲ以テ菓子稅則取扱心得書ヲ定メ同法施行ニ關スル細則ヲ定メタリ卽左ノ如シ

大藏省達第二十四號（明治十八年五月十六日）

本年五月第十一號布告ヲ以テ菓子稅則被定候ニ付取扱心得書別冊之通相定ム

菓子稅則取扱心得書

第一項

菓子營業免許鑑札用紙ハ豫メ授與スヘキ員數ヲ見積リ收稅長ヨリ主稅官長ニ宛テ之ヲ請求スヘシ

第二項

免許鑑札面ノ記載方ハ第一號雛形ニ倣フヘシ

第三項

菓子仕入鑑札出賣鑑札ハ第二號雛形ニ倣ヒ管廳ニ於テ調製シ下渡スヘシ

第四項

免許鑑札臺帳ハ第三號雛形ニ倣ヒ調製シ管廳ニ備ヘ置クヘシ

第五項

稅則第五條ニ依リ鑑札ヲ再渡若クハ書換ヲ爲スカ或ハ稅則第六條ノ廢業ヲ屆出ルトキハ臺帳ニ其事由ヲ記入シ又臺帳記載ノ廉ニ變更アルトキハ之ヲ訂正シ主任官吏之レニ檢印スヘシ

第六項

露店又ハ呼賣專業ノ者ニハ出賣鑑札ヲ下付スルノ限ニ在ラス

第七項

左ノ諸項ニ該ル者ハ免許鑑札ヲ下付スルノ限リニ在ラス

一 航行中船內ニ於テ船客ニ販賣スルモノ

一 料理屋又ハ旅籠屋茶店等ニ於テ茶菓子トシテ來客ニ出スモノ

第八項

甲管下ノ營業者ニシテ乙管下ニ移轉スル者ハ免許鑑札ヲ添ヘ甲管廳ニ出願セシメ甲管廳ハ左ノ諸項ヲ記シタル添輸ヲ作リ之ヲ下渡シ乙管廳ハ其添輸ニ據リ書換鑑札ノ下渡方ヲ爲スヘシ但シ乙管廳ニ於テ鑑札下渡濟ノ上ハ其旨ヲ甲管廳ニ通知スヘシ

一 營業ノ種類

一 雇人ノ員數

一 移轉前月迄ノ賣上高及納稅ノ濟否（製造人ナルトキハ）

第九項

營業者不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ此場合ニ於テハ委任狀寫ヲ添ヘ其人名ヲ屆出シムヘシ

第十項

製造人廢業ノ節ハ納期ニ拘ハラス製造稅ヲ完納セシムヘシ

第十一項

營業者ハ第四號雛形ニ倣ヒ各自標札ヲ調製シ營業場戸外ニ掲出セシムヘシ

第十二項

製造人ヨリ差出スヘキ製造高及賣上金高届書ハ第五號雛形ニ據リ調製セシムヘシ

第十三項

菓子營業者ニハ左ノ通帳簿ヲ調製セシムヘシ

製造人

菓子製造帳

製造ノ年月日種類數量及代價等ヲ記シ毎月合計ヲ附シ置クモノトス

菓子賣上帳

賣渡ノ年月日種類數量及代價竝買主ノ住所氏名等ヲ廉毎ニ記入シ毎月合計ヲ附シ置クモノトス

但小賣ヲ兼タルモノニシテ自製ノ菓子ヲ需用者ニ賣捌キタル分ハ其日締高ヲ以テ記入シ買主ノ住所氏名ヲ記入スルニ及ハス

製造原品買入帳

製造原品ノ種類數量及代價竝買入先ノ住所氏名等ヲ記入シ毎月合計ヲ附シ置クモノトス

卸賣人

菓子買入帳

買入ノ年月日種類數量及代價竝買入先ノ住所氏名等ヲ廉毎ニ記入シ毎月合計ヲ附シ置ク

モノトス

菓子賣渡帳

賣渡ノ年月日種類數量及代價竝買主ノ住所氏名等ヲ廉毎ニ記入シ毎月合計ヲ附シ置クモノトス

小賣人

菓子買入帳

卸賣人ノ買入帳記載方ニ同シ

第十四項

郡區長ハ製造人ヨリ差出シタル賣上金高届書ニ據リ製造稅ノ額ヲ定ムヘシ但檢查員ヨリ送致セシ檢查報告書ト照查スルコトアルヘシ

第十五項

左ノ諸表ハ各其雛形ニ照準毎半期之ヲ調製シ翌月二十五日差立主稅局ニ送付スヘシ

菓子營業稅表　第六號雛形

菓子製造稅表　第七號雛形

營業鑑札受拂計算表　第八號雛形

仕入出賣鑑札下渡高表　第九號雛形

菓子營業人員調查表　第十號雛形

（雛形畧）

尋テ同年六月十一日菓子稅ニ關スル檢查手續ヲ各府縣知事令ニ內達セリ該手續ノ全文左ノ如シ

菓子稅檢查手續

第一項

菓子稅ハ明治十八年五月第十一號布告菓子稅則竝ニ同年大藏省第二十四號菓子稅則取扱心得書ニ依リ檢查ヲナスヘシ

第二項

管內ヲ數部ニ區畫シ每部其擔當檢查員ヲ定メ隨時其檢查ヲ爲サシムヘシ

第三項

前項檢查員ノ處分ヲ監督スル爲メ臨時監督員若干名ヲ派出スルコトアルヘシ

第四項

檢查員ハ別紙樣式ノ如ク營業人ノ氏名ヲ記シタル檢查簿ヲ製シ置キ常ニ之ヲ提携シテ其檢查セシ月日及其他ノ事項ヲ記載シ之ニ檢印ヲ爲シ置クヘシ但諸帳簿附込金高ハ其前月末迄ノ合計高ヲ檢查シテ記載スヘキモノトス

第五項

第二項ノ檢查ノ外每年一月七月ノ兩度ニハ成ルヘク製造人一般ノ賣上高檢查ヲ爲スヘシ

第六項

檢查員隨時ノ檢查ヲ爲ストキハ其部內營業者町村ノ列次家竝ノ順序等ニ拘ハラス臨檢スヘシ

第七項

檢查ハ力メテ便捷ヲ主トシ人民ノ營業ニ障害ナキヲ圖ルヘシ

第八項

檢查員第五項ノ檢查ヲ了スルトキハ各製造人一人別賣上高檢查報告書ヲ作リ郡區長ニ送付スヘシ

第九項

檢查上ニ關スル尋問應答等ハ營業者ニ就キ之ヲ爲スヘシ若シ營業者不在ナルトキハ代理ノ責任アル者ニ就キ之ヲ爲スヘシ

第十項

檢查上最モ精細ニ視察スヘキ要領ハ左ノ如シ

一 製造原品ノ數量及其買人金額等ヲ製造高ニ參看シ其數量適當ナルヤ否

一 製造人菓子賣上高ハ製造高及其店舖ノ商況雇人ノ員數等ニ相應スルヤ否

一 雇人ノ員數竝ニ住所氏名等ハ其屆出正確ナリヤ否

一 諸帳簿記載方正確ナリヤ否

一 露店又ハ呼賣專業ノ名義ヲ以テ鑑札ヲ受ケタル者其資格ヲ犯ス者ニアラサルヤ否

一 免許ヲ受ケスシテ營業ヲ爲スモノナキヤ否

第十一項

前項記載ノ廉又ハ其他ノ事項ニシテ若シ疑フヘキコトアルトキハ相當ノ取調ヲ爲スヘク若シ取調上不明瞭ノ廉アリ檢查ヲ了シ難キ場合ニ於テハ監督員ニ通知シ立會ノ上詳細ノ取調ヲ爲

スコトアルヘシ

第十二項

稅則第十六條ノ場合ニ於テ家宅內ニ立入リ取調ヲ要スルトキハ十六年大藏省第七十七號達ニ依リ取扱フヘシ

第十三項

帳簿ノ檢查ヲ了シタルトキハ其箇所ニ年月日檢查員何府縣官氏名檢了ト書記シ檢印スヘシ尙ホ同年七月訓示シテ菓子營業者カ死亡其他ノ事故ニヨリ俄カニ廢業セル場合ニ於ケル殘品ノ取締方ヲ明ニセリ該訓示ノ全文ハ左ノ如シ

大藏省訓示（明治十八年七月八日）

菓子營業者廢業セントスルトキハ其所持ノ菓子ヲ廢業前ニ於テ悉皆賣捌クヘキハ勿論ノ處萬一不得止事故アリテ俄ニ廢業スル時營業中ノ殘品ハ三十日以內相當ノ日限ヲ定メ左ノ區分限リ賣捌ヲ爲スヘキ旨其時々本人ニ示達シ戶長奧印ノ請書ヲ出サシメ不取締無之樣取計フヘク但此場合ニ於テ其菓子ハ店頭ニ排列セシメサルモノトス

一　廢業ノ製造人所持ノ菓子ハ其見積リ代金ニ依リ製造稅ヲ納メタルトキハ卸賣人又ハ小賣人ニ賣渡ス事

一　廢業ノ卸賣人所持ノ菓子ハ卸賣人又ハ小賣人ニ賣渡及ヒ製造人ニ賣戻ス事

一　廢業ノ小賣人所持ノ菓子ハ製造人又ハ卸賣人ニ賣戻ス事

而シテ同年八月二十二日大藏省訓示ヲ以テ菓子營業權ヲ有スル資格ノ件ヲ定メ菓子營業者ノ內同居ノ家族ニハ製造小賣或ハ卸賣營業ヲ許可セサル旨ヲ訓示セリ越テ明治二十一年二月二十四日勅令第八號ヲ以テ菓子稅ノ負擔ヲ公平ナラシメ稅額決定ノ方法ヲ鄭重ニシ併セテ檢查手續上ノ缺點ヲ補ハンカ爲メニ菓子稅則中ニ左ノ如ク改正ヲ加ヘ此年七月一日以降實施スルコトヽナセリ

勅令第八號（明治二十一年二月二十四日）

明治十八年五月第十一號布告菓子稅則中左ノ通改正シ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

第八條中

製造營業稅第四項雇人二人ノ下「以下」ノ二字ヲ削除シ其次ニ左ノ一項ヲ追加ス

雇人一人アル者　一箇年金參圓

卸賣營業稅第四項雇人二人ノ下「以下」ノ二字ヲ削除シ其次ニ左ノ一項ヲ追加ス

雇人一人アル者　一箇年金參圓

小賣營業稅第二項雇人二人ノ下「以下」ノ二字ヲ削除シ其次ニ左ノ一項ヲ追加ス

雇人一人アル者　一箇年金貳圓

第十四條　菓子製造稅額ハ前條ノ屆出ニ據リ郡區長之ヲ調查シ府縣知事之ヲ定ム

第十六條　削除

第十八條中「又ハ第十四條ノ帳簿」ノ九字ヲ削除シ記載ヲ爲シノ下「又ハ第十五條ノ檢查ヲ拒ミ」ノ十二字ヲ加フ

第二十條中「及ヒ第十四條ノ帳簿ニ記載ヲ怠リタル者」ノ十八字ヲ削除ス

而シテ菓子稅則ノ改定ニ伴ヒ同稅則ノ取扱方ヲ定ムル必要アルヲ以テ同年三月三十日左ノ如ク內訓ヲ發セリ

本年二月勅令第八號ヲ以テ菓子稅則中改正之件有之就テハ本年七月以後該稅則取扱方要領左ノ通心得ヘシ

第一項　郡區長ニ於テ菓子製造稅額ヲ調査スルニ當リテハ前記ノ製造高賣上高等ヲ參照シ尙ホ爾後營業上ノ盛衰ヲ商量シテ其期屆出ノ當否ヲ調査スヘシ

第二項　前項ノ場合ニ於テ郡區長ハ租稅檢查員ノ意見ヲ聽キ其屆出ノ當否ヲ審案スルヲ要ス

第三項　郡區長ハ豫メ各製造人ノ原品仕入高製造高賣上高及其分限高ヲモ視察シ置キ第一項調查ノ資ニ供スヘシ

第四項　郡區長ハ租稅檢查員ノ報告書ヲ參照シテ賣上高ノ當否ヲ考察スルハ勿論當時宜ニ應シ收稅長ニ協議シテ更ニ實地檢查ヲ求ムルコトアルヘシ

第五項　賣上高屆書ニ對シ郡區長之ヲ不當ト思料スルトキハ先ツ營業人ヲ懇篤說諭シテ之ヲ訂正セシムルコトヲ要ス

第六項　租稅檢查員ハ常ニ菓子營業人ノ分限幷ニ其正否ニ注意シ資力アリ且正業ト認ムル者ニ對シテハ務メテ之ヲ寬待シ其不正業者ト思料スル者アル場合ニ於テハ稅則第十五條ニ依リ隨時臨檢シ其製造高賣上高ノ調方ヲシテ正實ナラシムルヲ要ス

尋テ此年十月五日菓子營業者雇人現在人員ノ屆方ニ付キ訓示ヲ發シ菓子稅則第十二條同業者雇人現在員數幷ニ氏名屆ハ新規開業及員數氏名異動ノ場合ヲ除クノ外自今其屆書ヲ省クモ妨ナキ旨ヲ訓示シ更ニ明治二十三年三月ニ至リ大藏省訓令第三十二號ヲ以テ明治十八年大藏省達第二十四號菓子稅則取扱心得第三項中「第二號雛形ニ倣ヒ」ノ八字ヲ削除シ管廳ニ於テノ下ニ「適宜」ノ二字ヲ加ヘタリ蓋シ從來第三號雛形ニ於テハ木製ト爲スノ規定ナリシヲ地方ノ便宜ニヨリ紙製ト爲スモ妨ナキノ趣旨ニ改メタルナリ

斯クテ菓子稅ハ其後別段ノ變革ナクシテ存續シタリシカ遂ニ二十九年四月六日法律第六十五號ヲ以テ此年限リ廢止セラルヽコトヽナレリ蓋シ菓子稅ノ一部タル製造稅ハ其收入寡少ナルニ拘ラス課稅上ノ手數繁雜ニ涉リ且ツ種々弊害多クシテ國稅トシテ適當ナラサルノミナラス菓子稅ハ明治二十九年法律第三十三號一般營業稅法ノ制定ト共ニ重複ノ課稅ヲ避ルノ必要アリタルニ由ルナリ

菓子稅收入額

年度	製造稅	營業稅	鑑札料	合計
明治十八年度	一四九、六六四・二四一円	二八八、二二八・七五三円	円 〇	四三七、八九二・九九四円
同　十九年度	三一二、一一一・七六三	二〇三、六九六・一六九	二八、五六四・九〇〇	五四四、九〇一・一三二
同　二十年度	三五七、八四九・三二一	二一一、二三四・八二八	二六、六五三・七七三	五九五、七三七・九二四
同　二十一年度	三八四、三五八・〇〇〇	二一八、九五三・〇〇〇	二四、九三一・〇〇〇	六二八、二四二・〇〇〇
同　二十二年度	三七八、五六二・〇〇〇	二三九、三七二・〇〇〇	二九、〇九九・〇〇〇	六四七、〇三三・〇〇〇
同　二十三年度	三六一、七〇五・五七七	二六五、七四六・五〇〇	三五、〇五〇・〇九八	六六二、五〇二・一七五

同	二十四年度	三一七、〇八四、四六六	二六八、八七九、五五八	二八、二二七、六五〇	六一四、一九一、六七四
同	二十五年度	三〇五、〇六二、〇七二	二八一、九一二、五四六	二六、五〇〇	五八七、〇〇一、一一八
同	二十六年度	三〇二、九八七、四〇五	二九〇、八二一、六七九	〇	五九三、八〇九、〇八四
同	二十七年度	三三四、七七〇、八七一	三〇二、八五五、二三〇	〇	六三七、六二六、一〇一
同	二十八年度	三七三、七三七、九二五	三一五、三九四、五七五	〇	六八九、一三二、五〇〇
同	二十九年度	三八四、〇〇二、五〇三	一六二、一三二、一一八	〇	五四六、一二五、六二一

第十一節 砂糖消費稅

砂糖消費稅ハ明治三十四年法律第十三號砂糖消費稅法ヲ以テ新設スル所ナリ蓋シ該稅法ハ明治三十年清國事件ノ爲ニ要スル經費ノ支辨ニ充テ併テ軍艦水雷艇補充基金災害準備基金教育基金ノ三基金ヲ補充シ又從來公債支辨ニ屬セシメタル計畫ヲ變更シテ租稅收入ノ支辨ニ屬セシムル等歲入增加ノ必要ヲ生シタルヲ以テ比較的稍ヤ奢侈ニ屬スル砂糖ニ課稅シ以テ是等ノ財源トナスヲ相當トシ遂ニ第十五期帝國議會ノ協贊ヲ經以テ之ヲ公布スルニ至リシナリ今同法ノ規定ニ依レハ內地ニ於テ消費スル砂糖、糖蜜及糖水ニ對シテ消費稅ヲ課スルモノニシテ其課稅ノ時期ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ取引ヲナス際ニ於テシ又其稅率ハ和蘭標本色相ヲ標準トシテ四種ニ分チ百斤ニ付壹圓、壹圓六十錢、二圓二十錢、二圓八十錢ノ四等トナセリ其法律ノ全文左ノ如シ

法律第十三號（明治三十四年三月三十日）

砂糖消費稅法

第一條　內地消費ノ目的ヲ以テ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルヽ砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス

第二條　製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其消費ト看做ス

第三條　消費稅ノ割合左ノ如シ

第一種	砂糖色相和蘭標本第八號未滿ノ砂糖及糖蜜	百斤ニ付　金一圓
第二種	砂糖色相和蘭標本第八號以上第十五號未滿ノ砂糖	百斤ニ付　金一圓六十錢
第三種	砂糖色相和蘭標本第十五號以上第二十號以下ノ砂糖及糖水	百斤ニ付　金二圓二十錢
第四種	砂糖色相和蘭標本第二十號ヲ超ユル砂糖及氷砂糖	百斤ニ付　金二圓八十錢

第四條　前條ノ消費稅ハ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徵收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六ケ月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得

前項ニヨリ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還附ス

擔保ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　內地消費ノ目的ニ非ラスシテ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルヽ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供スルコトヲ要ス擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニヨリ擔保ヲ供シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月內ニ外國ニ輸出セラレタルノ證明ナキモノハ內地消費ニ供セラレタルモノト看做シ擔保ヲ以テ消費稅ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ附シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ擔保提供者ニ還附ス

第六條　消費稅納附前又ハ擔保提供前ニ於テハ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス

第七條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費稅納附前又ハ擔保提供前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ得スシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス

第八條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第九條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十條　收入官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水其他ノ製造出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其他ノ物件ヲ檢查シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　政府ノ承認ヲ得消費稅ヲ課セラレタル砂糖又ハ糖蜜ヲ原料トシテ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタル者ハ原料トシタル砂糖又ハ糖蜜ノ消費稅ニ相當スル金額ノ下附ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

製造後一年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條　第六條又ハ第七條ノ禁令ヲ犯シタルモノハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第十三條　政府ニ申告セスシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者又ハ之ヲ販賣スル者砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　收稅官吏其職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十六條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用キス但シ刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限リニ在ラス

第十七條　砂糖、糖蜜又ハ之ヲ販賣スル者ノ代理人、戶主、家族同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

附則

第十八條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　本法施行前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ本法施行後一箇月以內ニ其旨ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ニ違反シタル者ニハ第十三條ヲ適用ス

右砂糖消費稅法ノ制定ニ伴ヒ明治三十四年八月勅令第百六十九號ヲ以テ砂糖消費稅法施行規則ヲ公布シ其細則ヲ定メタリ右施行規則ニ於テハ砂糖製造者ノ申告義務、收稅官吏ノ製品又ハ書類ノ檢查、製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ル者ノ申告義務、消費稅徵收猶豫ニ關スル手續、金庫所在地外ニ於ケル特別徵稅法、消費稅法ニヨリ提供スル擔保ノ提供公賣、消費稅ノ下戻手續、製造者販賣者ノ帳簿記載ノ義務等ノ規定ヲ爲セリ卽左ノ如シ

勅令第百六十九號（明治三十四年八月二十三日）
砂糖消費稅法施行規則

第一條　砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二條　製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條　所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ砂糖製造場ノ圖面又ハ製造用器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス

第四條　砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

製造休止後更ニ著手セムトスルトキ亦同シ

第五條　第一條及第四條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條　砂糖、糖蜜、糖水製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條　收稅官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水其ノ原料品製造用器具、器械又ハ帳簿書類ヲ檢查スヘシ

第八條　收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水製造者ノ貯藏ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水其ノ貯藏場又ハ其ノ製造用器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第九條　砂糖、糖蜜、糖水製造者砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキハ其ノ種類、量目及移出先ニ付收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ砂糖、糖蜜、糖水ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第十條　製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ內地消費ノ目的ヲ以テスルモノト否トヲ區別シ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十一條　砂糖消費稅法第四條第一項但書ニ依リ消費稅ノ徵收猶豫ヲ請ハムトスル者ハ前條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

第十二條　第十條ノ申告アリタルトキハ所轄稅務署ハ砂糖消費稅法第三條ノ種別及斤數ヲ查

定シ其ノ直ニ消費稅ヲ徵收スヘキモノハ其徵收ノ手續ヲ爲シ消費稅ノ徵收猶豫ノ申請アルモノ又ハ直ニ消費稅ノ徵收ヲ要セサルモノハ提供スヘキ擔保額ヲ指定スヘシ

第十三條　收稅官吏ハ金庫所在地外ニ限リ自ラ消費稅金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得

納稅義務者ハ金庫所在地外ニ限リ收入印紙ヲ以テ砂糖消費稅ヲ納ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ砂糖消費稅查定書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ニ消印スヘシ

第十四條　收入官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十五條　砂糖消費稅法第四條及第五條ニ依リ提供スヘキ擔保物ノ種類ハ金錢及有價證券ニ限ル

擔保ヲ提供セントスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十六條　有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ增擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十七條　砂糖、糖蜜、糖水製造者稅關又ハ保稅倉庫砂糖、糖蜜、糖水ノ引渡ヲ爲ストキハ引取者ヲシテ消費稅納付濟又ハ擔保提供濟ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス

第十八條　砂糖消費稅法第五條ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付シテ所轄稅務署ニ提出スヘシ

一　輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類

二　外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ其ノ他外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第十九條　砂糖消費稅法第四條第二項及第五條第二項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ

之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ

第二十條　前項ノ公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱、證券ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第二十一條　公賣決行前ニ消費稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第二十二條　砂糖消費稅法第四條第二項但書及第五條第二項但書ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二十三條　砂糖消費稅法第十一條ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ原料トスヘキ砂糖又ハ糖蜜ヲ製造場ニ移入スルトキ其ノ種類量目及使用ノ時期ヲ當該官吏ニ申出豫メ使用ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ承認ヲ得テ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造シタルトキハ其ノ種類量目ヲ當該官吏ニ申告スヘシ

第二十四條　前條ノ承認ヲ受ケムトスルトキハ消費稅ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ提出スヘシ

第二十五條　砂糖消費稅法第十一條ニ依リ金額下付ヲ請求スルトキハ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二十六條　砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、量目、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、量目及其ノ製造ノ日
三　製造シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目及其ノ製造ノ日
四　他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十七條　砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ
一　引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
二　販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱
小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十八條　收稅官吏砂糖、糖蜜、糖水製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十九條　本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅務支署ノ設アル地方ニ於テハ稅務支署之ヲ行フ

附　則

第三十條　砂糖消費稅法第十九條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

又砂糖消費稅法施行上ニ付其取扱方ニ關シ內訓ノ必要アルヲ以テ大藏省ハ明治三十四年九月第七四四號ヲ以テ左ノ訓令ヲ發セリ

砂糖消費稅法施行取扱方左之通心得ヘシ

第一條　砂糖消費稅法ニ於テ稱スル糖水トハ液體ヲ爲ス砂糖ヲ謂フモノニシテ糖蜜ノ水ニ溶

解シタルモノ例ヘハ氷蜜水蜜等ト稱スルモノノ如キハ之ヲ包含セス隨テ氷蜜水蜜等ト稱スルモノノ如キハ之ヲ糖蜜トシテ取扱フヘキモノトス

第二條　白下ハ流動狀ヲ爲スモ砂糖ノ一種ニ過キサルヲ以テ砂糖トシテ取扱フヘシ仍白下ノ色相ハ上部ト下部トニ依リ同シカラサルカ故ニ其ノ色相ヲ鑑定スルニハ容器ノ上部中部及底部ヨリ各一定ノ量ヲ採リ能ク之ヲ混合シタル後和蘭標本ニ比較スルヲ相當トスヘキモ常時ノ取扱ニ於テハ上部表面ニ現ハレタル色相ニ依リ判別シテ妨ナシ

第三條　砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セムトスル者ハ其ノ自用ニ供スルモノタルト販賣ニ供スルモノタルトヲ問ハス總テ所轄稅務署ニ申告スヘキモノナルモ元來製造者ヲシテ申告ヲ爲サシムルハ之ニ依テ當該官廳ヲシテ其ノ糖蜜、糖水ノ引取ラルル際課稅ヲ爲スノ機會ヲ有セシメムトスルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ自用ノモノノミヲ製造スル者ニシテ申告ヲ爲ササルカ如キコトアルモ强テ稅法ノ規定ヲ勵行スルニ及ハス

第四條　製造場ノ範圍ハ實地ノ狀態ニ於テ一製造場ト認メラルル以上ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハサルモノナルヲ以テ之レカ認定ヲ爲スニ當テハ狹隘ナル見解ニ陷ラサルコトニ注意スヘシ農業ノ傍ラ砂糖ヲ製造スル者カ其ノ住家ノ附近ニ於テ製造スル砂糖ヲ其ノ住家ニ於テ貯藏スルカ如キ場合ニ於テハ現實砂糖ヲ製造スル場所及其ノ住家ハ一製造場ヲ爲スモノト認メ其ノ間ニ於ケル砂糖ノ持運ハ之ヲ製造場外ノ移出ト認メサルコトヲ要ス

第五條　砂糖製造場ノ圖面又ハ製造用器具、器械ノ目錄ハ必要ノ場合ニ於テノミ其ノ提出ヲ命スヘキモノナルヲ以テ大製造場等ニ在テ當該官吏容易ニ其ノ內部ノ狀況ヲ知悉スルコト能

ハサルカ如キ場合ニ於テ始メテ之レカ提出ヲ命スルコトトシ其ノ他ノ場合ニ於テハ成ルヘク之レカ提出ヲ命セサルコトト爲スヘシ

第六條　製造用器具、器械ノ目錄ヲ提出セシムル場合ニ於テハ製造上主要ノモノノミヲ記載セシムヘク製造力ニ關係ヲ有セサルカ如キモノハ之ヲ記載セシメサルコトトスヘシ

第七條　砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘキモノナリト雖監視上差支ナシト認メタルトキハ豫メ種類、量目及移出先ニ付承認ヲ受ケシメ移出ノ都度承認ヲ受ケシメサルモ妨ナシ

第八條　移出承認ヲ與ヘタル場合ニ於テハ移出先ヨリ直チニ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラシムルモ妨ナシ此場合ニ於テハ移出先ヨリ引取ラルルトキ消費稅ノ納付又ハ擔保ノ提供ヲ爲サシムヘシ

第九條　砂糖、糖蜜、糖水引取ノ申告アリタルトキハ成ルヘク速ニ査定ヲ爲シ時機ヲ誤リ營業者ニ迷惑ヲ與フルカ如キコトナキコトニ注意スヘシ

第十條　査定ハ成ルヘク簡便ノ方法ニ從ヒ大體ニ於テ數量ニ誤謬ナキコトヲ期スヘシ徒ラニ些末ノ計算ニ重キヲ置キ爲メニ長時間ヲ費スカ如キコトナキコトヲ要ス

第十一條　收稅官吏自ラ消費稅ノ領收ヲ爲シ又ハ納稅者收入印紙ヲ以テ消費稅ノ納付ヲ爲スト キハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲シ其ノ他ノ場合ニ於テハ納稅告知書ヲ發スヘキモノトス

第十二條　消費稅ノ領收證書ハ之ヲ以テ砂糖消費稅法施行規則第十七條及第二十四條ノ證明ニ充用スルコトアルヘキモノナルヲ以テ成規記載事項ノ外便宜課稅物件ノ種類、數量等ヲ記

載シ該目的ニ充用スルノ便ヲ失ハシメサルコトニ注意スルコトヲ要ス

第十三條　消費稅ノ徵收猶豫ハ引取者ヲシテ納稅上ノ便宜ヲ有セシムルノ旨趣ニ出テタルニハ相違ナシト雖引取者カ課稅物件ノ種類又ハ數量ニ付收稅官吏ノ查定ニ服セサル場合ニ於テモ其ノ指定スル所ニ於テ擔保ヲ提供シテ砂糖、糖蜜、糖水ノ引取ヲ爲シ之ニ依テ商機ヲ失セサルト同時ニ徐ニ不服ノ點ニ付異議ヲ主張スルコトヲ得セシムルモ亦其ノ規定ノ旨趣ノ一ナルヲ以テ引取者ニ於テ不服アル場合ニ於テハ徵收猶豫ノ規定アルコトヲ說示シ其ノ申請アルトキハ見本ヲ採取シタル上速ニ之ヲ許スコトト爲スヘシ

第十四條　徵收猶豫ノ期間ハ六箇月以上ニ涉ルヲ得スト雖法定ノ期間ヲ超ヘサル限リハ申請者ノ希望スル所ニ從ヒ之ヲ許スヘシ

第十五條　砂糖、糖蜜、糖水ノ引取者ニシテ消費稅納付濟又ハ擔保提供濟ナル旨ノ證明ヲ請求シタルトキハ其ノ事實ヲ確メタル上之レカ證明ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ證明ヲ與フルノ基礎ト爲シタル書類又ハ帳簿ニ證明ヲ與ヘタル事實ノ要領ヲ記載シ置クヘシ

第十六條　製造場內ニ現在スル砂糖、糖蜜、糖水及其ノ原料ハ常ニ帳簿ノ現在高ト符合セサルコトナキヤ否ニ注意シ收稅官吏ヲシテ定時又ハ隨時ニ帳簿ト現在品トノ照合ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第十七條　砂糖消費稅法施行規則第二十三條ニ依リ使用承認ヲ爲シタル砂糖又ハ糖蜜、糖、糖水又ハ酒精ノ製造ニ使用セラレスシテ更ニ製造場ヨリ引取ラルルトキハ他ノ砂糖、糖蜜ト同シク納稅又ハ擔保提供ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第十八條　砂糖糖蜜糖水製造者ノ貯藏ニ係ル砂糖糖蜜糖水其ノ貯藏場又ハ其ノ製造用器具器械ハ必要アルトキハ之レニ封印ヲ施スコトヲ得ト雖此事タル全ク製造上ノ監督ヲ完クスルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ成ルヘク製造者ノ業務ヲ妨ケサル範圍ニ於テ適宜ノ處分ヲ爲スコトニ注意スヘシ

第十九條　大製造場ニシテ多量ノ砂糖糖蜜糖水ヲ製造スルモノニ在テハ常ニ一人以上ノ收稅官吏ヲ製造場內ニ駐在セシメテ檢查查定又ハ承認等ノ事ニ當ラシメ製造者ニ不便ヲ與ヘサルコトヲ期スルヲ要ス

第二十條　小規模ノ製造者例ヘハ農業ノ傍ラ砂糖ヲ製造スルカ如キ者ニ對シ頻繁ニシテ煩細ナル監視ヲ加フルハ實益ナクシテ却テ惡感ヲ買フノ嫌ナシトセス宜シク實地ノ狀況ヲ斟酌シ相當ノ監視ヲ爲スコトニ注意スヘシ

第二十一條　砂糖糖蜜又ハ糖水ヲ販賣スル者ニ對シ檢查ヲ爲スハ法令上差支ナシト雖元來直接製造ニ關係ナキ販賣者ニ對シ檢查ヲ爲スコトヲ許シタルハ全ク製造者ニ對スル監督ヲ完クスルノ旨趣ニ出テタルモノナルヲ以テ販賣者ニ對シ檢查ヲ爲スハ之ヲ爲スニアラサレハ製造者ノ監督ヲ完クスルコト能ハサルカ如キ必要アル場合ニ限ルコトニ注意スルコトヲ要ス

第二十二條　檢查ヲ執行シ又ハ監督上ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

右內訓ス

砂糖消費稅法第十一條ノ規定ニ依レハ製造シタルカ砂糖糖蜜ニ對シ戾稅ヲ爲スコトヽナレリト雖モ斯ノ如キハ手續頗ル煩ニ失シ官民ノ共ニ不便ヲ感スル所ナルニ依リ其原料タル砂糖糖蜜ニハ初メヨリ砂糖消費稅ヲ課セサルノ必要アリ故ニ明治三十五年三月十一日法律第二十一號ヲ以テ砂糖消費稅法中左ノ通リ改正セリ

法律第二十一號（明治三十五年三月十一日）

砂糖消費稅法中左ノ通改正ス

第十一條ヲ左ノ如ク改ム

第十一條ノ一　政府ノ承認ヲ受ケ砂糖糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル砂糖及糖蜜ニハ消費稅ヲ課セス

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リタル後六箇月以內ニ砂糖糖水又ハ酒精ヲ製造セサルトキハ消費稅ヲ徵收ス

第四條第二項及第三項ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十一條ノ二　第六條及第七條ノ規定ハ前條ノ砂糖又ハ糖蜜ノ引取及引渡ニ之ヲ適用セス

附　則

本法施行前ニ於ル消費稅ヲ課セラレタル砂糖及糖蜜ヲ本法施行後ニ於テ砂糖糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ使用スルトキハ仍從前ノ規定ニ依ル

前揭ノ如ク砂糖消費稅法ノ改正ニ伴ヒ其施行規則中改正ノ必要アルヲ以テ明治三十五年三月二

十五日勅令第五十一號ヲ以テ左ノ如ク改正セリ

勅令第五十一號（明治三十五年三月二十五日）

砂糖消費稅法施行規則中左ノ通リ改正ス

第十一條　砂糖消費稅法第四條第一項但書及同法第十一條ノ一第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ申告ト同時ニ其旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前項申請ノ際砂糖又ハ糖蜜ノ種類、製造ノ場所及時期ヲ申出ツルコトヲ要ス

種類、量目、引取ノ場所及時期、製造スヘキモノノ又ハ直ニ消費稅ノ徵收ヲ要セサル」ヲ「其ノ擔保ノ

砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依リ收稅官吏ノ承認シタル砂糖又ハ糖蜜ニ付テハ第九條第二項ヲ準用ス

第十二條中「消費稅ノ徵收猶豫ノ申請アルモノ

提供ヲ要スル」ニ改ム

第十五條中「第四條及第五條」ヲ「第四條第五條及第十一條ノ一」ニ改ム

第十七條中「消費稅納付濟又ハ擔保提供濟」ヲ「消費稅納付濟擔保提供濟又ハ無擔保引取承認濟」ニ改ム

「第十八條」ヲ「第十八條ノ一」ニ改メ同條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十八條ノ二　砂糖消費稅法第十一條ノ一ニ依リ提供シタル擔保ノ解除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ擔保提供濟ナルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付シ擔保ヲ提供シタル稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ申請スヘキ稅務署カ、製造場所轄稅務署ニ異ルトキハ砂糖糖水又ハ酒精ヲ製造シタルコトヲ證スヘキ書類ヲモ添付スルコトヲ要ス

第十九條中「第四條第二項及第五條第二項ヲ」「第四條第二項及第五條第二項但書ヲ」ニ改ム

第二十二條中「第四條第二項但書及第五條第二項但書ヲ」「第四條第二項但書第五條第二項但書及第十一條ノ一第四項ノ一第四項」ニ改ム

第二十三條　砂糖糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖、糖蜜ハ他ノ砂糖又ハ糖蜜ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ

第二十四條　砂糖糖水又ハ酒精ノ原料トシテ引取リタル砂糖又ハ糖蜜ヲ使用セムトスルトキハ豫メ收稅官吏ニ申告シテ其ノ檢查ヲ受クヘシ

第二十五條　前條砂糖糖水又ハ酒精ノ製造ヲ終リタルトキハ相當期間內ニ其ノ使用シタル原料ノ種類、量目及製造シタルモノノ種類、量目ヲ收稅官吏ニ申告スヘシ

附　則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年法律第二十一號附則ノ規定ニ依ル

而シテ本邦ニ於テ精製糖製造業ノ起ルヤ年尙淺シト雖モ已ニ輸入精糖ノ六分一强ハ我國ニ於テ現ニ製出スル所ニシテ原料ハ皆之ヲ外國ニ仰クノ狀態ナルヲ以テ將來斯業ノ發達ヲ期センカ爲メ外國ヨリ輸入ニ係ル原料砂糖ニ對シ輸入稅ヲ戾稅スルノ必要アリ明治三十五年三月二十五日

法律第三十三號ヲ以テ輸入原料砂糖戻稅法ヲ發布シ次テ同年四月二十五日勅令第百四十六號ヲ以テ其施行規則ヲ發布セリ

法律第三十三號（明治三十三年三月二十五日）

輸入原料砂糖戻稅法

第一條　輸入ノ砂糖ニシテ和蘭標本色相第十四號以下ノモノヲ原料トシ政府ノ承認ヲ得テ精製糖及氷砂糖ヲ製造スル者ハ其ノ原料ニ對シ納付シタル輸入稅ニ相當スル金額ノ下付ヲ政府ニ請求スルコトヲ得

輸入後一箇年ヲ經過シタルトキハ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第二條　前條ニ依リ金額ノ下付ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ輸入稅ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

附則

第三條　本法ハ明治三十五年十月一日ヨリ施行シ同日以後輸入稅ノ賦課ヲ受ケタル原料砂糖ニ之ヲ適用ス

第四條　本法ハ明治四十年三月三十日迄其ノ效力ヲ有ス

右輸入原料砂糖戻稅法ノ施行ニ伴ヒ其施行規則ヲ定ムルノ必要アルヲ以テ明治三十五年四月勅令第百四十六號ヲ以テ輸入原料砂糖稅法施行規則ヲ左ノ如ク定メタリ

勅令第百四十六號（明治三十五年四月二十五日）

輸入原料砂糖戻稅法施行規則

第一條　輸入原料砂糖戻稅法ニ依リ金額下付ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ砂糖消費稅法施行規則第十一條ニ依リ提出スル申請書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第二條　輸入原料砂糖戻稅法ニ依リ金額ノ下付ヲ請求スルトキハ原料砂糖ノ種類、量目、輸入稅額輸入年月日及製造シタル砂糖ノ種類、量目、製造年月日ヲ記シタル申請書ヲ其ノ製造場所轄ノ稅務署ニ提出スヘシ

第三條　本令ニ定ムルモノヽ外總テ砂糖消費稅法施行規則ヲ準用ス

前述シタル如ク砂糖消費稅ハ明治三十四年十月一日ヨリ實施セラレタリシカ其徵稅ノ方法トシテ現金收入ヲ原則トシ特定ノ場合ニ印紙貼用ノ法ヲ用フルヲ以テ本稅ノ收入額ハ各年度歲入決算額中砂糖消費稅決算額ヨリ多キハ言ヲ俟タサル所ナリ故ニ本稅實施以後ニ於ケル現金ニ依ル收入及印紙貼用ニ依ル收入ヲ合計セル賦課額ヲ左ニ示スヘシ

年度	砂糖消費稅收入額 金額
明治三十四年度	一、四八二、九五二円
同　三十五年度	〇〇〇
	六、六九三、九八三
	〇〇〇

第十二節　登錄稅

登錄稅ハ明治二十九年法律第二十七號登錄稅法ヲ以テ創定スル所ニ屬ス是ヨリ曩キ個人ノ利益

ノ爲メ國家ニ於テ登簿ノ手續ヲ爲セル場合ニ於テ或種ノ事項ニ對シテハ既ニ登記料又ハ手數料ヲ徵シ來レルモノ約百七十七萬圓アリト雖モ明治二十七八年戰役後國費ノ膨脹ニ伴ヒ其財源ヲ增稅ニ求ムル必要アリ登錄稅ハ納稅者ノ負擔極メテ輕ク其徵收費亦僅少ニシテ好箇ノ財源ナルヲ以テ政府ハ第九期帝國議會ノ協贊ヲ以テ登錄稅法ヲ制定シ從來手數料登記料等ニシテ登錄稅法ト重複スルモノハ總テ之ヲ廢止セリ登錄稅法ハ登記法、商法、版權法、特許法、戶籍法、地租條例、土地臺帳規則其他ノ法令ニ依リ特定事項ノ登記ヲ請フ者ニ對シ登錄稅ヲ課スルモノニシテ登記事項ハ大要財產事項、身分事項、特權事項ノ三種ニ分チ其課稅ノ方法ハ或ハ定額稅ニ依リ或ハ比例稅ヲ採ル又徵稅方法ハ原則トシテ印紙貼用ノ法ヲ用ヒ勅令ヲ以テ定メタル場合ニハ現金ヲ以テ徵收スルコトヽセリ其法律ノ全文左ノ如シ

法律第二十七號（明治二十九年三月二十七日）

登錄稅法

第一條　登錄稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス

第二條　地所建物ノ登記ヲ請フトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　買受人　賣買代價千分ノ二十

二　家督相續人（戶主死亡、失踪、離緣、跡相續人共）　時價相當價格千分ノ五

但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ時價相當價格千分ノ十トス

三　遺產相續人　時價相當價格千分ノ十

四　贈與又ハ遺贈ヲ受クル者　時價相當價格千分ノ二十

五　質入人又ハ書入人　契約金額千分ノ五

六　強制競賣ノ申立人　價格千分ノ五

七　強制管理ノ申立人又ハ假差押假處分ノ申請人　價格千分ノ三

八　登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者　每一件金十錢

六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニ依ル

第三條　船舶ノ登記ヲ請フトキ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　買受人　賣買代價千分ノ十

二　家督相續人（戶主ノ死亡、失踪、離緣、跡相續人共）　時價相當價格千分ノ二

但相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ時價相當價格千分ノ五トス

三　遺產相續人　時價相當價格千分ノ五

四　贈與又ハ遺贈ヲ受クル者　時價相當價格千分ノ十

五　質入人又ハ書入人　契約金額千分ノ五

六　強制競賣ノ申立人　價格千分ノ五

七　假差押假處分ノ申請人　價格千分ノ三

八　登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者　每一件金十錢

九　從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲メ登記ヲ請フ者　時價相當價格千分ノ一

六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサル者ハ時價相當價格ニ依ル

第四條　船籍ノ登簿ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄　十五噸未滿ノ船舶　金五十錢
　　十五噸以上ノ船舶　每十噸金五十錢

二　轉籍　十五噸未滿ノ船舶　金十錢
　　十五噸以上ノ船舶　每十噸金十錢

三　除籍　十五噸未滿ノ船舶　金五錢
　　十五噸以上ノ船舶　每十噸金五殘

四　登簿事項ノ變更　每一件金十錢

一號二號及三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登錄スルトキ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

第五條　土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登錄スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄　地價千分ノ二十
二　地價ノ設定（復舊共）　地價千分ノ十
三　地價ノ修正　地價千分ノ十
四　開墾　地價ノ千分ノ十
五　鍬下年期付與　地價千分ノ十

六　地價据置年期付與　地價千分ノ十
七　鍬下年期ノ繼年期付與　地價千分ノ十
八　新開免租年期ノ繼年期付與　地價千分ノ十
九　低價年期ノ付與　地價千分ノ十
十　段別ノ增減　地價千分ノ五
十一　分裂又ハ合併　地價千分ノ五

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類似地價ノ比準ニ依ル

第六條　左ノ事項ニ付登記ヲ受クル商事會社ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　合名會社合資會社設立　資本金額千分ノ二
二　合名會社合資會社資本增加　增加資本金額千分ノ二
三　合名會社合資會社支店設置　會社資本金萬分ノ二
四　株式會社設立　設立初度ノ拂込資本金額千分ノ三

五　株式會社設立後ノ資本金ノ拂込　每拂込金額千分ノ三
六　株式會社支店設置　現在拂込資本金額萬分ノ三
七　登記事項ノ變更（資本ノ增加及拂込登記ヲ除ク）　追加每一件金三圓
八　解散　每一件金一圓

第七條　左ノ事項ニ付辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄　金二十圓

二　登錄換　金十圓
三　取消ノ請求　金一圓

第八條　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ醫師藥劑師獸醫蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄
醫師　金二十圓
藥劑師　金十二圓
獸醫　金五圓
蹄鐵工　金五圓
假開業醫師　金三圓
假免許獸醫　每一件金五十錢

二　登錄事項ノ變更

第九條　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄
甲種船長　金十五圓
甲種一等運轉手　金十圓
甲種二等運轉手　金六圓
甲種一等機關手　金十五圓

甲種二等機關手　金十圓
乙種船長　金十圓
乙種一等運轉手　金六圓
乙種二等運轉手　金四圓
乙種一等機關手　金十圓
乙種二等機關手　金六圓
小形船機關手　金四圓
水先人　金二十圓

二　登錄事項ノ變更　每一件金五十錢

第十條　版權ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　普通ノ文書圖畫　一種每ニ金五圓
二　冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書圖畫　一冊每ニ金二圓
三　雜誌ノ類　一冊每ニ金五十錢
四　興行權ヲ併有スル脚本　一種每ニ金五十錢
五　興行權ヲ併有スル樂譜　一種每ニ金二十圓
六　寫眞　一版每ニ金五圓

第十一條　特許ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄

五年ノ特許　金二十圓
十年ノ特許　金三十圓
十五年ノ特許　金四十圓

二　賣與讓與又ハ共有　每一件金十圓
三　書入契約　每一件金五圓

第十二條　意匠ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄
三年ノ專用　物品一類每ニ金三圓
五年ノ專用　物品一類每ニ金五圓
七年ノ專用　物品一類每ニ金七圓
十年ノ專用　物品一類每ニ金十圓

二　賣與讓與又ハ共有　物品一類每ニ金二圓
三　書入契約　物品一類每ニ金一圓

第十三條　商標ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規竝續用登錄　商品一類每ニ金二十圓
二　賣與讓與又ハ共有商品　一類每ニ金十圓

第十四條　鑛業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　試掘　金五十圓
二　採掘　金百圓
三　試掘增區及增減區ニ係ル訂正　金二十五圓
四　採掘增區及增減區ニ係ル訂正　金五十圓
五　買受讓受　金五十圓
六　採掘權書入又ハ試掘延期　金十五圓
七　減區ニ係ル訂正　金五圓
八　鑛區ノ合併又ハ分割　金十圓
九　廢棄　金五圓

第十五條　左ノ事項ニ付キ戶籍ニ登記スルトキハ屆出人ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　左ニ列記スルモノ　金一圓
身分變換
復姓
改名
家督相續
相續人入籍
廢戶主
廢嫡

分家
廢嫡者復立
絕家再興
離婚送籍
相續人送籍
私生子引受

二　左ニ列記スルモノ
養子女入籍
結婚入籍
相續人離緣送籍
養子女離緣送籍
轉籍
私生子引渡
戶內離婚
庶子私生子ヲ嫡出トナスモノ

三　左ニ列記スルモノ
戶籍訂正
戶內結婚

金七十錢

金五十錢

緣女入籍
結婚送籍
緣女送籍
養子女送籍

四　左ニ列記スルモノ
同家者復歸入籍
養子女離緣復籍
相續人離緣復籍
離婚復籍
緣女離緣復籍

五　左ニ列記スルモノ
出生
失踪者ノ復歸
失踪者所在不明

六　左ニ列記スルモノ
携帶者入籍
親族入籍
附籍者入籍

金三十錢

金二十錢

金十錢

携帶者送籍
親族送籍
附籍者送籍

第十六條　國債證券ノ記名登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規記名　額面金額千分ノ二
二　左ニ列記スルモノ　額面金額千分ノ一

記名變更
枚數變更
記名除却

第十七條　登錄稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條　登錄稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未滿ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條　無資力ニシテ左ニ揭クル者及窮民ニシテ公ノ救助ヲ受クル者ハ戶籍ノ登錄稅ヲ免除ス

一　一定ノ職業ナク臨時日雇等ニ依リ生活スル者
二　十三年未滿六十年以上ニシテ一定ノ職業ナキ者
三　婦女ニシテ一定ノ職ナキカ又ハ他人ニ雇使セラルヽ者

附則

第二十條　本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條　現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手數料等ニシテ本法ニ規定スル登錄稅ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢ス

登錄稅法ハ右ノ如ク規定セラレタルニ依リ同月三十日大藏省令第六號ヲ以テ登錄稅法施行細則ヲ制定シ又大藏省訓令第五號ヲ以テ登錄稅免除取扱手續竝ニ收稅署市役所區役所町村役場戶長役場日本銀行等ニ於テ登錄稅法ニ依リ印紙ヲ貼用セル書類ヲ受理シタル場合ノ整理方及貼用印紙消印ノ件ヲ訓令セリ其全文ハ左ノ如シ

大藏省令第六號（明治二十九年三月三十日）

登錄稅法施行細則

第一條　印紙ヲ以テ納ムル登錄稅ハ登錄ニ關スル書類ニ登記印紙ヲ貼用スヘシ

第二條　登錄稅法第十九條ニ該當スル者ハ登錄ニ關スル書類ニ其該當スル事項ヲ附記シ公署ニ差出スヘシ

第三條　貼用シタル印紙ニハ書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ其名下ノ印ヲ以テ消印スヘシ

大藏省訓令第六號（明治二十九年三月三十日）

登錄稅法施行手續

第一條　公署ニ於テ登錄稅法第十九條ニ依リ登錄稅ヲ免除スヘキ者ノ書類ヲ受理シタルトキハ法第十九條第一項後段ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ救助人名簿ニ照シ其相違ナキヲ認メ

其前段ニ該當スル者ニ對シテハ其實際ヲ精査シ付記ノ事項相違ナキヲ認メ處理スヘシ

第二條　收稅署市役所區役所町村役場戶長役場若クハ日本銀行等ニ於テ登錄稅法ニ依リ印紙ヲ貼用セル書類ヲ受理上司ヘ差出スタメ經由スルモノヲ除ク シタルトキハ別ニ編綴セシメ置キ其貼用印紙ノ額面金額登錄稅法第二條乃至第十六條ノ各條每ニ區別シ每年度分集計ヲ爲シ四月末日迄ニ當省ニ報告スヘシ

第三條　官衙公署若クハ日本銀行ニ於テ印紙貼用シアル書類ヲ受理シタルトキハ其貼用印紙ニ黑肉ヲ以テ消印スヘシ又免稅ニ屬スル書類ヲ受理シタルトキハ其書類ヲ以テ免稅印ヲ押捺スヘシ

斯クテ登錄稅法ハ翌四月一日以降實施セラレタリシカ右稅法中戶籍ノ登錄ニ登錄稅ヲ課スルコトハ之ヲ經驗ニ徵シテ戶籍ノ不正確ヲ來タシ人事統理ノ基礎ヲ紊亂スルノ虞アルヲ認メタルヲ以テ翌明治三十年三月二十九日法律第三十一號ヲ以テ登錄稅法中戶籍登錄ニ關スル第十五條及第十九條ヲ削除セリ尋テ明治三十二年三月法律第六十號竝ニ同月法律第八十三號ヲ以テ登錄稅法中改正ヲ加ヘタリ蓋シ同年法律第三十六號特許法同第三十七號意匠法同第三十八號商標法ノ制定ニ依リ特許意匠商標ノ登錄ニ關シテハ別ニ特許料意匠料商標料ヲ徵收スルコトヽナリタルヲ以テ其重複ヲ避ケサルヘカラサルノ必要ヲ見ルニ至リタルト民法商法不動產登記法其他之ニ關聯セル諸法律ノ實施又ハ改正セラレタル結果官簿ニ登錄スヘキ事項ニ增加又ハ異動ヲ生シタルヲ爲メ登錄稅法ノ規定ヲシテ之ニ適應セシムルノ必要生シタルト同時ニ國家財政整理ノ爲メ明治三十二年度以降ニ於テ歲入ノ增加ヲ要スルモノアリタルトニ依ルナリ特ニ右ノ法律第八十三

號ニ於テ注目スヘキハ政府自己ノ爲メニスル登記又ハ公用ニ供スル不動產ノ登記ハ之ヲ免稅セル點ナリトス改正法律左ノ如シ

法律第六十號（明治三十二年三月十三日）

登錄稅法中左ノ通改正ス

第十一條　特許ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　讓渡又ハ共有　　每一件金十圓

三　質入　　每一件金五圓

第十二條　意匠ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　讓渡又ハ共有　　物品一類每ニ金二圓

一　質入　　物品一類每ニ金一圓

第十三條　商標ニ關シ左ノ事項ノ登錄ヲ受クル者ハ左ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

讓渡又ハ共有　　商品一類每ニ金十圓

附　則

此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

法律第八十三號（明治三十二年三月二十二日）

明治二十九年法律第二十七號登錄稅法中左ノ通改正ス

第二條　不動產ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一	法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得	不動產價格	千分ノ七
二	第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得	不動產價格	千分ノ十五
三	遺言贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得	不動產價格	千分ノ四十
四	第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得	不動產價格	千分ノ二十五
五	從來保有セル所有權ノ保存	不動產價格	千分ノ二
六	共有物ノ分割	不動產價格（分割ニ因リテ受クル不動產ノ價格）	千分ノ五
七	永代ノ地上權ノ取得	不動產價格	千分ノ二十五
八	地上權、永小作權ノ取得		
	存續期間十年未滿	不動產價格	千分ノ二
	存續期間二十年未滿	不動產價格	千分ノ三
	存續期間三十年未滿	不動產價格	千分ノ四
	存續期間三十年以上	不動產價格	千分ノ五
	存續期間ノ定メナキモノ	不動產價格	千分ノ五
	但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス		
九	賃借權ノ取得		

	存續期間十年未滿	不動產價格	千分ノ一
	存續期間十年以上	不動產價格	千分ノ二
	存續期間ノ定メナキモノ	不動產價格	千分ノ一
	但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス		
十	地役權ノ取引	要役地價格	千分ノ一
十一	華族世襲財產ノ創設	不動產價格	千分ノ二十
十二	先取特權ノ保存又ハ取得	（債務金額又ハ不動產工事費用豫算金額）	千分ノ六
	但シ債務金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノヽ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス		
十三	質權抵當權ノ取得	債權金額	千分ノ六
	但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノヽ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノヽ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス		
十四	競賣強制管理ノ申立	債權金額	千分ノ六
	但シ競賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノヽ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノヽ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス		
十五	假差押、假處分	債權金額	千分ノ四
	但シ假差押假處分ニ付スヘキモノヽ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノヽ價		

格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十六　抵當アル債權ノ差押　債權金額　千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノハ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノハ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十七　相續財產ノ分離　不動產價格　千分ノ六

所有權ニ付テハ　不動產價格　千分ノ一

所有權以外ノ權利ニ付テハ

十八　請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

不動產每一箇　金二十錢

不動產每一箇　金二十錢

不動產每一箇　金二十錢

不動產每一箇　金二十錢

不動產每一箇　金十錢

十九　假登記

二十　豫告登記

二十一　附記登記

二十二　登記ノ更正變更又ハ抹消

第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條　船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ三

二　第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ六

三　遺言贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ二十

四　第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ十五

五　從來保有セル所有權ノ保存　船舶價格　千分ノ一

六　貸借權ノ取得

存續期間十年未滿　船舶價格　千分ノ一

存續期間十年以上　船舶價格　千分ノ二

存續期間ノ定メナキモノ　船舶價格　千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

七　質權抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノハ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノハ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

八　競賣ノ申立　債權金額　千分ノ六

但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其モノハ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

九　假差押假處分　債權金額　千分ノ四

但シ假差押假處分ニ付スヘキモノハ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノハ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十　抵當アル債權ノ差押　　債權金額　千分ノ六
但シ差押ニ付スヘキモノヽ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其モノヽ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
十一　登記ノ更正變更又ハ抹消　　船舶每一箇　金十錢
第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル
第四條　船籍ノ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
一　新規登錄　　每十噸　金五十錢
二　轉籍　　每十噸　金十錢
三　除籍　　每十噸　金五錢
四　登錄ノ變更　　船舶每一箇　金十錢
船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス
第五條　土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登錄スルトキハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス
土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
一　新規登錄　　地價　千分ノ二十
二　地價ノ設定　　地價　千分ノ十
三　地價ノ修正　　地價　千分ノ十
四　開墾　　地價　千分ノ十五

五　鑛下年期付與　　地價　千分ノ十
六　地價据置年期付與　　地價　千分ノ十
七　鑛下年期ノ繼年期付與　　地價　千分ノ十
八　新開免租ノ繼年期付與　　地價　千分ノ十
九　低價年期ノ付與　　地價　千分ノ一
十　地租條例第二十二條ノ修正　　地價　千分ノ一
十一　地價ノ復舊　　地價　千分ノ一
本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル
第六條　商事會社其他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額十圓未滿ナルトキハ十圓
一　合名會社合資合名會社設立　　財產ヲ目的トスル出資ノ價格　千分ノ三
二　合名會社合資會社出資增加　　財產ヲ目的トスル增加出資ノ價格　千分ノ三
三　株式會社設立　　拂込株金額　千分ノ四
四　株式會社資本增加　　增資拂込株金額　千分ノ四
五　株式會社第二回以後ノ株金拂込　　每回拂込株金額　千分ノ四
六　株式合資會社設立　　拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ四
七　株式合資會社資本增加　　增資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ四

八　株式合資會社第二回以後ノ株金拂込　毎回拂込株金額　千分ノ四

九　合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立　拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ一
　　增資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格　千分ノ一

十　合併ニ因ル會社資本ノ增加　債權總金額　千分ノ一

十一　債券發行　每一箇所　金十圓

十二　支店設置　每一件　金五圓

十三　本店又ハ支店ノ移轉　每一件　金五圓

十四　支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅　每一件　金五圓

十五　登記事項ノ變更消滅又ハ廢止　每一件　金五圓
　　但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス

十六　登記ノ更正又ハ抹消　每一件　金五圓

十七　解散　每一件　金三圓

十八　清算人ノ選任解任又ハ變更　每一件　金一圓

十九　清算ノ結了　每一件　金一圓

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金一圓ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　法人ノ設立（民法施行法ニ依リ法人ト認メラレタルモノヽ新ニ受クル登記トモ）　每一件　金五圓

二　法人設立後ノ事務所設置　每一件　金三圓

三　事務所ノ移轉　每一件　金二圓

四　登記事項ノ變更消滅又ハ廢止　每一件　金一圓

五　登記ノ更正又ハ抹消　每一件　金一圓

六　解散　每一件　金一圓

七　清算人ノ選任解任又ハ變更　每一件　金五十錢

八　清算ノ結了　每一件　金五十錢

主タル事務所ニアラサル事務所所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第六條ノ二　左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　商號ノ新設又ハ取得　每一件　金五圓

二　支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅　每一件　金五圓

三　船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅　每一件　金五圓

四　商法第五條第七條ニ依ル登記　每一件　金二圓

五　民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記　每一件　金二圓

六　登記事項ノ變更消滅又ハ廢止　　每一件　金一圓

七　登記ノ更正又ハ抹消　　每一件　金一圓

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金五十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第八條中「假免許獸醫　金三圓」ノ次ニ「假免許蹄鐵工　金一圓」ヲ追加ス

第九條　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄

甲種船長　　金十五圓

甲種二等運轉士　　金十圓

甲種二等運轉士　　金六圓

乙種船長　　金十圓

乙種一等運轉士　　金四圓

乙種二等運轉士　　金三圓

丙種船長　　金六圓

丙種運轉士　　金二圓

機關長　　金十五圓

一等機關士　　金十圓

二等機關士　　金六圓

三等機關士　　金三圓

水先人

二　登錄事項ノ變更　　每一件　金五十錢

第十條　著作權ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　文藝、學術、美術ノ著作物　　每一種一回　金十圓

但シ演劇脚本及寫眞ヲ除ク

一　新聞紙及定期刊行物　　每一號　金五十錢

一　演劇脚本　　每一種一回　金五十錢

一　寫眞　　每一版　金五圓

一　著作權ノ讓渡又ハ質入　　每一件　金五圓

一　無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登錄　　每一件　金五圓

第十四條　鑛業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　試掘　　金七十五圓

二　採掘　　金百五十圓

三　試掘增區及增減區ニ係ル訂正　　金三十圓

四　採掘增區及增減區ニ係ル訂正　　金七十五圓

五　買受讓受　　金七十五圓

六　採掘權書入又ハ試掘延期　　金二十圓

七　減區ニ係ル訂正　　金五圓
八　鑛區ノ合併又ハ分割　　金十五圓
九　廢業　　金五圓

第十六條　國債ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄　　債權金額　千分ノ二
二　登錄變更　　債權金額　千分ノ一
三　登錄除却　　債權金額　千分ノ一

第十九條　左ニ揭クルモノニハ登錄稅ヲ課セス

一　政府自己ノ爲ニスル登記
二　公立ノ學校、病院及養育院ノ所用ニ係ル不動產ノ登記
三　公園、社寺、堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記
四　明治六年第十八號布告地所質入書入規則及同八年第百四十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記

第十九條ノ二　登記所ニ於テ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不當ト認ムルトキハ二名ノ評價人ヲ選定シ之ヲ評價セシム評價一致セサルトキハ其平均ヲ以テ之ヲ定ム
前項ノ評價申請價格ヨリ多キトキハ評價人ニ給スル旅費手當ハ登記申請者ノ負擔トス
官吏及當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者ハ評價人トナルコトヲ得ス

附則

此法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス但シ第十條ハ著作權法施行ノ日ヨリ施行ス
尋テ同年五月十八日勅令第二百五號ヲ以テ登錄稅法施行規則ヲ制定シ同月二十日大藏省令第二十一號ヲ以テ明治二十九年大藏省令第六號登錄稅法施行細則及從來登錄稅法ノ施行ニ關シ北海道廳府縣ニ於テ發シタル命令ハ登錄稅法施行規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止シタリ其施行規則ノ全文ハ左ノ如シ

勅令第二百五號（明治三十二年五月十八日）
登錄稅法施行規則

第一條　印紙ヲ以テ納ムル登錄稅ハ登錄ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
第二條　登錄稅額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得
第三條　官廳又ハ公署ヨリ登記又ハ假登記ヲ登記所ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登錄稅ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其官廳又ハ公署又ハ登錄囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所ニ送付スヘシ
第四條　土地臺帳ノ登錄ニ付登錄稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セサルトキハ稅務署ノ通知ニ依リ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘシ
第五條　土地臺帳ノ登錄ニ付登錄稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若ハ提出セス又ハ現金納付ノ手續ヲ爲ササルトキハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得
第六條　登錄稅法第十九條ノ二ニ依ル評價人ノ旅費ハ實費トシ手當ハ一日金五十錢以上二圓以下ノ範圍內ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ支給ス

尙ホ同月二十日大藏省訓令第三十八號ヲ以テ該則第四條所定ノ土地臺帳ノ登錄ニ付登錄稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セス稅務署ノ通知ニ依リ印紙ヲ提出スル者アルトキニ於ケル取扱方ヲ定メ及ヒ同令第三十九號ヲ以テ登錄稅額報告ノ件ヲ訓示セリ其條項ハ左ノ如シ

大藏省訓令第三十八號（明治三十二年五月二十日）

登錄稅法施行規則第四條ニ依リ印紙ヲ提出シタル者アルトキハ左ノ通取扱フヘシ

一　稅務署ハ印紙ノ提出者ニ對シ其領收書ヲ交付スヘシ但提出者ノ面前ニ於テ以下三項ノ手續ヲ爲シタルトキハ領收書ノ交付ヲ要セス

二　土地ノ異動ニ關シ土地所有者ヨリ願出又ハ屆出アリタルニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ要スル場合ニ至リタル場合ニ於テハ土地ノ異動ニ關スル願書又ハ屆書ニ其印紙ヲ貼付シ置クヘシ

三　土地ノ異動ニ關シ官廳ヨリ通知アリタルニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ要スルニ至リタル場合ニ於テハ其ノ通知書ニ其ノ印紙ヲ貼付シ置クヘシ

四　前二項ヲ除ク外ノ場合ニ於テハ土地所有者ノ住所氏名登錄ヲ要スル土地ノ所在地地番地目地價及ヒ登錄稅法第五條中該當事項ヲ記シタル調書ヲ作リ之ニ其ノ印紙ヲ貼用スヘシ

五　貼付シタル印紙ニハ書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケ黑肉ヲ用ヒテ消印ヲ押捺スヘシ

六　二項乃至四項ニ依リ印紙ヲ貼付シタル書類ハ少ナクトモ毎月一回上司ニ於テ檢閱シ貼付印紙及ヒ消印ノ有無當否ヲ調查スヘシ

大藏省訓令第三十九號（明治三十二年五月二十日）

登錄稅法第五條及第六條ノ登錄額ハ各條各號毎ニ印紙ト現金收入トニ區分シ毎年度分ノ集計

ヲ爲シ翌年四月三十日マテニ報告スヘシ

明治二十九年大藏省訓令第五號ハ自今之ヲ廢止ス

既定ノ登錄稅法中登錄稅ヲ免除スヘキモノヽ範圍ニ於テ廣狹其當ヲ得サルモノアリシカ故ニ明治三十三年三月九日法律第四十四號ヲ以テ登錄稅法第十九條第二號ヲ改メ「府縣郡市町村其他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動產ノ登記」ト爲シ同條第三號中「公園」ノ二字ヲ削除セリ而シテ北海道屯田兵ニ給與シタル土地ニ對シ登錄稅ヲ免除スルハ尤モ必要ナルカ故ニ明治三十四年四月九日法律第二十五號（明治三十四年四月九日）ヲ以テ左ノ如ク規定セリ

屯田兵土地給與規則ニ依リ屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ニ付給與ノ日ヨリ六箇月以內ニ登記ヲ請求シ又ハ土地臺帳ニ登錄スルトキハ其登錄稅ヲ免除ス本法施行前ニ給與ヲ受ケタル土地ニ付本法施行後六箇月以內ニ登記ヲ請求シ又ハ土地臺帳ニ登錄スルトキ亦同シ

附　則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年四月法律第二十六號ヲ以テ登錄稅法中改正ヲ加フ蓋シ同法第二條第一項第二十二號及第三條第一項第十一號ハ不動產又ハ船舶一箇毎ニ過クルノ場合ヲ生スルコトナシトセス依テ最高限ヲ定メ稅額ヲシテ之ヨリ上ルコトナカラシムルノ必要アルニ由ル改正法律ノ公文左ノ如シ

法律第二十六號（明治三十四年四月十二日）

登錄稅法中左ノ通改正ス

第二條第一項第二十一號及第二十二號ヲ左ノ如ク改ム

二十一 附記登記	不動產每一箇 金十錢
	但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス
二十二 登記ノ更正變更又ハ抹消	不動產每一箇 金十錢
	但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第三條第一項第十一號ヲ左ノ如ク改ム

十一 請求又ハ申立ニ依リ抹消セラレタル登記ノ回復	船舶每一箇 金二十錢

同條第一項第十一號ノ次ニ左ノ四號ヲ加フ

十二 假登記	船舶每一箇 金二十錢
十三 豫告登記	船舶每一箇 金二十錢
十四 附記登記	船舶每一箇 金十錢
但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス	
十五 登記ノ更正變更又ハ抹消	船舶每一箇 金十錢
但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス	

官有地ヲ開拓シテ民有地ニ歸シ土地臺帳ニ登錄ヲ請フ者ニハ新規登錄トシテ登錄稅ヲ課スルカ故ニ其鍬下年期付與ニ付テハ新開免租年期付與ト同シク登錄稅ヲ課セサルモノナルモ明文上明

瞭ヲ缺クモノアリ又明治三十四年法律第三十號ヲ以テ鍬下年期新開免租年期地價据置年期延長ノ許可ヲ規定シ地租條例第十八條ヲ廢止シタルカ爲メ改正ヲ加フルノ必要アルヲ以テ明治三十五年二月法律第八號ヲ以テ登錄稅法中左ノ如ク改正ヲ加ヘタリ

法律第八號（明治三十五年十二月二十二日）

登錄稅法中左ノ通改正ス

第五條中第五號第七號及第八號ヲ左ノ如ク改ム

五 開墾鍬下年期附與	地價千分ノ十
七 新開免租年期延長	同 千分ノ十
八 鍬下年期地價据置年期ノ延長	同 千分ノ十

而シテ登錄稅ハ其徵稅方法トシテ原則トシテ印紙貼用ノ法ニ依ルヲ以テ各年度ニ於ケル本稅收入額ヲ知ラントセハ課稅物件タル登錄行爲ノ種類及數額ヲ調查シ之ニ對スル課稅額ヲ算出スルノ外ナシ故ニ此方法ニ依リ計上セル金額ヲ示セハ左ノ如シ

登錄稅收入額

種類	明治二十九年度	同三十年度	同三十一年度	同三十二年度	同三十三年度	同三十四年度	同三十五年度
	円	円	円	円	円	円	円
第二條 不動產	四、一五二、六一三、六四〇	四、三四三、九三三、八〇〇	四九七、五四二、六三〇	五、九九五、四八九、〇〇〇	六、八四二、二三四、〇〇〇	四、四八四、八四二、〇〇〇	七、三七二、二三五、〇〇〇
第三條 船舶	七九、四〇〇、五八〇	三六、七四三、三二〇	二八、五七六、三六〇	六四、四八六、〇〇〇	六四、四二九、〇〇〇	四、八一六、〇〇〇	四八、〇〇二、〇〇〇
第四條 船籍	九七七、九五〇	三、七四二、〇五〇	一〇、二二九、四五〇	八、三一七、〇〇〇	七、四六九、〇〇〇	三、四三三、〇〇〇	四、〇九六、〇〇〇
第五條 土地臺帳	六六、四六四、七九〇	一一八、四三二、五七〇	一四六、二一六、六四〇	四九七、五四二、六三〇	四八、一三二、〇〇〇	七八四、〇八八、〇〇〇	四〇、二〇四、〇〇〇

第六條 商事會社共他	三三六、五八二・三六〇円	四二八、七三八・五二〇円	三二八、五六三・六〇〇円	四八五、五七七・〇〇〇円	五四二、二九〇・〇三〇円	二七、一八四・〇〇〇円	四〇二、九三八・〇〇〇円
第六條ノ二 商號ノ新設取得其他	〇	〇	〇	一六、〇四〇・〇〇〇	六、〇九九・〇〇〇	一、七五四・〇〇〇	六、六四五・〇〇〇
第七條 辯護士	一、二九二・〇〇〇	一、二六五・〇〇〇	三、八五八・〇〇〇	三、〇五五・〇〇〇	三、七七二・〇〇〇	二四八・〇〇〇	三、三六五・〇〇〇
第八條 醫師藥劑師獸醫等	一八、四八四・〇〇〇	二六、五六七・〇〇〇	三〇、一〇一・〇〇〇	二九、七七六・〇〇〇	三〇、八六六・〇〇〇	三、五八四・〇〇〇	三七、〇二九・〇〇〇
第九條 海員	六、三九六・〇〇〇	一〇、七八九・〇〇〇	五、一八〇・〇〇〇	三、九一六・〇〇〇	四、六〇一・〇〇〇	六、二八八・〇〇〇	五、三一六・〇〇〇
第十條 著作權	七、八七一・〇〇〇	八、五二六・〇〇〇	九、一二八・五〇〇	六、七〇三・〇〇〇	五、五〇二・〇〇〇	五、八七三・〇〇〇	四、六九五・〇〇〇
第十一條 特許	五、一九〇・〇〇〇	九、〇四九・〇〇〇	一二、〇二〇・〇〇〇	八、七五〇・〇〇〇	一、三六五・〇〇〇	一、二八〇・〇〇〇	一、五六〇・〇〇〇
第十二條 意匠	五五九・〇〇〇	四一二・〇〇〇	四四〇・〇〇〇	一四四・〇〇〇	四・〇〇〇	一六・〇〇〇	二四・〇〇〇
第十三條 商標	二二、二一〇・〇〇〇	四六、七七〇・〇〇〇	三二、一八〇・〇〇〇	二〇、〇四〇・〇〇〇	四、六一〇・〇〇〇	一、七二〇・〇〇〇	三、三五〇・〇〇〇
第十四條 鑛業	二七九、八四〇・〇〇〇	三八六、〇四〇・〇〇〇	二七七、六七五・〇〇〇	四八一、六二〇・〇〇〇	五九八、一六五・〇〇〇	四一一、〇四〇・〇〇〇	四六二、七七五・〇〇〇
第十五條 戶籍	八七五、三九六・九〇〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
第十六條 國債	一七、一九五・八四〇	二八、九三七・一四〇	一五、一七〇・四五〇	一一、七一九・〇〇〇	八、〇三〇・〇〇〇	七、二五七・〇〇〇	七、〇八五・〇〇〇
合計	五八七、四七四・〇六〇	五、五四〇、四〇三・四〇〇	五、八七四、七六五・三〇〇	七、一九六、七四七・〇〇〇	八、一六六、五七五・〇〇〇	七、九九九、〇三六	八、三六三、三一九・〇〇〇

（備考）登錄稅ハ印紙收入ニ屬スルヲ以テ毎年度收入決算額ヲ示ス能ハサルヲ以テ各年度ニ於ケル各種登錄件數ニ關スル課稅額ヲ示ス

第十三節 印紙稅

第一款 印紙稅ノ第一期

印紙稅ハ古來ヨリ本邦ニ行ハレタル稅目ニアラスシテ明治六年歐米諸邦ノ制ニ倣ヒ創設シタルモノナリ顧フニ舊幕時代ヨリ明治初年ニ至ルマテ本邦ニ行ハレタル租稅ハ主トシテ農民ノ負擔ニ歸シ商工業者等社會全般ニ賦課スルモノハ甚タ稀ナリシト雖モ時世ノ進運ニ伴ヒ獨リ農民ニノミ租稅ヲ負擔セシムルノ理由ナキヲ以テ漸次社會各種ノ階級ニ對シテ均一ノ負擔ヲ課スルノ主旨ニ基キ民間金銀取引地面賣買商法約定證文等ニ印紙稅ヲ賦課スルコトヽナシ明治六年二月十七日太政官布告第五十六號ヲ以テ受取諸證文印紙貼用心得方規則ヲ制定セリ是レ實ニ本邦印紙稅法ノ起源ナリ其布告ノ全文ハ左ノ如シ

布告第五十六號（明治六年二月十七日）

金子受取金銀貸借地所賣買質入書入爲替受取諸約定等凡ソ人民互ニ諸證文手形書附類ヲ以テ後日ノ證據ト可致品ニ付テハ自今別紙規則ノ通相心得各其書面ニ印紙ヲ貼シ取引可致依テハ本年六月一日ヨリ以後ノ證書ニ右印紙無之分ハ後日訴出候トモ取揚不相成候事

但印紙ハ大藏省ヨリ可相渡候條各府縣管下適宜ノ場所ニ於テ爲賣捌可申事

（別紙）

一 今度金子受取金銀貸借ヲ始本年六月一日ヨリ證書相用候節ハ印紙ヲ貼シ取引可致旨被仰出候ニ付差向別紙員數ノ通印紙相渡候條於管下適宜ノ場所ヘ賣捌所相立無差支樣可致

注意事尤モ一町一軒宛モ有之可然事

一 賣捌所ノ儀ハ人民身元慥ノ者ニ候ハヽ誰彼ヲ不論望次第差許不苦尤公然戸外ニ印紙賣捌所ノ看板ヲ掲ケシムヘキ事

但免許ノ上看板ヲ掲ケ候者ノ外一切印紙賣捌不相成事

一 印紙ノ差等左ノ六種ニ有之候條各其定價ヲ以テ爲賣捌可申事

淡黒色印紙	定價	一錢
橙黄色 同	同	五錢
紅 色 同	同	十錢
黄 色 同	同	二十五錢
綠 色 同	同	五十錢
青 色 同	同	一圓

一 印紙定價取極置候得共賣捌候者ヘハ定價四分引（即チ定價百圓ナレハ九十六圓ナリ）ノ代價ヲ以テ可相渡事

但後金上納不苦候事

一 賣捌所ニ於テハ印紙買取候人名年月日附明細相記シ置候樣堅ク可申付事

一 印紙ヲ用ヒサル約定證書ノ類竝受取書ノ外十圓以下ノ證書類ニ相用ヒ候界紙ノ分ハ各府縣ニ於テ其土地有合ノ生紙（美濃紙大半紙ノ類）耐久ノモノニ適宜撰用シ廳中ニ於テ雛形ノ如ク木板彫刻イタシ印紙賣捌所ニ於テ爲賣捌可申事

一 界紙ハ元代價摺工等ノ總高ニ一割ヲ加ヘ（即諸費百圓ナレハ百十圓トス）定價トシ賣捌候者ヘハ右一割ノ四分引（即定價百十圓ナレハ六圓ナリ）ヲ以可拂渡事

一 界紙元代及其一割ノ四分（賣捌人ノ手數料）ヲ引殘リ六分（即定價百十圓ナレハ六圓ナリ）ハ管轄廳ヘ收入シ一ケ年分取束大藏省ヘ可相納事

（界紙雛形略）

受取諸證文印紙貼用心得方規則

第一條 自今金子受取其外諸證文手形等ニ張附候印紙御發行ノ儀ハ民間ノ信義ヲ益堅固ナラシメントノ御注意ニテ都テ受取證文等ハ後日ノ證據トシテ取置モノニ候得ハ最初取引ノ節能々後來ヲ慮リ苟モ粗略ノ事アルヘカラサル筈ニ候處往々最初ノ粗漏手違等ヨリ遂ニハ公ノ裁判ヲモ願フ事アルニ至ル者アリ交際上ノ信義ヲ失ヒ公裁ヲ煩ハシ且一身ニ於テモ其罪ヲ得ル等容易ナラサル場合ニ立到候テハ不相濟事ナレハ最初ヨリ能ク其信義ヲ固フシ其處置ヲ粗略ニセサルノ證トシテ必ス一々印紙ヲ貼用シテ取引致スヘシ抑此印紙ヲ貼用スル時ハ双方相對而已ニテ取極メシ事ト雖モ公ノ印信ヲ表記シテ其約定ノ堅キコトヲ證スル意ト會得スヘキ事

第二條 印紙ヲ貼スヘキ證書類分テ二類トス

第一類ハ金高ニ拘ハラス都テ一樣ノ印紙ヲ貼スヘキ者

金子其外諸受取（諸品賣買受取等モ同斷）

諸會社入金手形

仲間割合證文
跡式讓狀
荷物送狀

右何レモ金高ニ拘ハラス十圓以上ハ都テ一錢印紙ヲ貼用スヘキ事

第二類ハ金高ニ應シテ次第ニ印紙ヲ增スヘキモノ假令ハ

借用金證文
田地屋敷建家賣渡證文
質地證文
流地證文
爲替手形竝荷爲替手形
質入借用證文
請負手形
金子預リ證文
諸切手類共外

右何レモ十圓ニ充サル分ハ印紙ニ及ハス十圓以上ヨリハ其金高ニ應シテ悉皆印紙ヲ貼用可致事

第三條 印紙ハ書面ヲ渡ス方ニテ貼用可致事

凡金高十圓以上ノ諸受取諸證文等印紙無之儘受取置候モノハ後日如何體ノ故障難題差起候

共一切取揚無之事

但十圓以下ノ分ハ此限リニアラス

第四條 印紙ハ定價ノ通リ所在賣捌所ニ於テ爲賣捌候ニ付印紙ヲ用候者ハ最寄賣捌所ニテ相求メ定價代金相拂フヘキ事

但官許賣捌所ニアラスシテ印紙買取候ハ可爲曲事事

定價

淡黑色印紙一枚	定價一錢		
橙黃色印紙一枚	同 五錢		
紅 色印紙一枚	同 十錢		
黃 色印紙一枚	同 二十五錢		
綠 色印紙一枚	同 五十錢		
靑 色印紙一枚	同 一圓		

第五條 書面金高十圓以下ノ分ハ受取ヲ除クノ外都テ界紙ヲ用フヘシ界紙ハ印紙賣捌所ニ於テ爲賣捌候品ニ限リ候條右界紙ニアラサル分ハ後日故障差起候トモ取揚無之事

但受取書ハ界紙ニ不及事

凡約定證書類金銀ニ拘ハラサル分假令ハ養子請狀奉公人請狀ノ類ハ皆界紙ヲ用フヘシ界紙ニアラサル分ハ前同樣取揚無之事

第六條 第一類ノ諸受取書會社入金手形等ノ外卽第二類ノ證書類印紙貼付ノ多寡左ノ通ニ候

事

書面ノ金高十圓ニ至ラサルマテハ印紙ヲ用フルニ及ハス（界紙ヲ用フヘシ）

書面金高十圓以上二十圓ニ充サルマテハ　淡黒色印紙一枚　卽一錢

書面金高二十圓以上三十圓ニ充サルマテハ　淡黒色印紙二枚　卽二錢

同三十圓以上　同　三枚　卽三錢

同四十圓以上　同　四枚　卽四錢

同五十圓以上　橙黄色印紙一枚　卽五錢

同六十圓以上　橙黄色印紙一枚　淡黒色印紙一枚　卽六錢

同七十圓以上　橙黄色印紙一枚　淡黒色印紙一枚　卽七錢

以上右ニ準シ十圓ヲ加フル毎ニ一錢宛ヲ增スヘシ卽百圓ヨリ百九圓九十九錢迄ハ十錢紅色印紙一枚千圓ヨリ千九圓九十九錢迄ハ一圓青色印紙一枚ニ候事

第七條　印紙貼用ノ節ハ必證書受取人ノ目前ニ於テ双方其印紙ヲ檢查ノ上貼用可致事

其法左ノ如シ

（雛形畧）

第八條　第一類受取證書類ニ一錢ノ印紙ヲ貼セス相渡シ候者ハ爲過料金一圓可爲差出事

第二類請證文等ニ印紙ヲ貼セス相渡シ候者ハ爲過料書面金高ノ十分一可爲差出事

十圓以上ノ高ヲ曲ケテ十圓以下ノ高ニ作爲シ印紙ヲ貼用セスシテ第二類ノ證書等ヲ出スモノ致露顯ニオイテハ爲過料正當金高ノ半高可爲差出事

官許賣捌所ノ外ニオイテ印紙買取者相顯ハルヽニオイテハ爲過料印紙代價ノ五百倍爲差出事

密賣イタシ候者ハ印紙代價ノ千倍爲差出事

一旦印紙買取候後不用ニ付返賣イタシ度者ハ元買取候賣捌所ヘ返却スヘシ賣捌所ニ於テ元賣渡候年月日附相糺シ之ヲ定價ノ四分引（卽チ定價十圓ナレハ九圓六十錢トスヲ以テ買揚ノヘシ尤モ一枚二枚ニ切放チ候分ハ買揚不相成數枚連續イタシ候分ニ限リ候事

印紙高

三府五港ノ分一箇月員數大概

淡黒色印紙　三十萬枚

此金三千圓

橙黄色印紙　五萬枚

此金二千五百圓

紅色印紙　二萬五千枚

此金二千五百圓

黄色印紙　八千枚

此金二千圓

綠色印紙　四千枚

此金二千圓

青色印紙　千五百枚

此金千五百圓

〆印紙三十八萬八千五百枚

此金一萬三千五百圓

縣一箇月渡高

府ノ半高

差向右三箇月分宛相渡ス

（印紙雛形略）

尋テ同月二十四日大藏省達第二十一號ヲ以テ右規則ニ基キ貼用スル印紙ヲ證券印紙ト稱スヘキ旨ヲ達シ併セテ賣捌所印紙請取方ヲ定メ又三月二十三日同達第三十九號ヲ以テ印紙賣捌方ヲ達セリ斯クテ證券印紙ニ關スル法規ハ略備ハルニ至リシカ更ニ同月三十一日ニ至リテ大藏省達第四十九號ヲ以テ賣捌人手數料ヲ改メテ前金上納印紙引換ヲ者ヘハ代價十分ノ一賣揚跡金上納ノ者ヘハ從前通代價百分ノ四ヲ下附スルコトヽシタルハ郵便切手賣捌手數料ト其權衡ヲ保持セシメントスルノ趣旨ニ出ツルモノナリ次テ五月十日ニ至リ布告第百五十五號ヲ以テ受取諸證文印紙貼用心得方規則ニ增補シ以テ大ニ其完備ヲ計レリ而シテ此等增補ノ規定ハ處罰ト稅則施行上ノ諸細目トヨリナレルカ特ニ注目スヘキハ此際印紙ニ代ハルヘキ證印法ヲ採用セラレタルコト是レナリ而シテ此增補規定ノ全文ハ左ノ如シ

布告第百五十五號（明治六年五月十日）

本年第五十六號布告受取諸證文印紙貼用心得方規則第九條以下左ノ通增補候條此旨相達候事

受取諸證文印紙貼用心得方規則增加

第九條

一　印紙ヲ贋造スル者又ハ贋造セシ者ト知テ是ヲ賣買致ス者ハ都テ僞造官印律ニ照シ處分可致事

一　一旦相用消印セシ印紙ヲ再用セントシテ之ヲ剝取消印ヲ洗滅スル者或ハ洗滅シタル者ト知テ之ヲ再用スル者又ハ之ヲ賣買スル者ハ共罪顯ハルヽニ於テハ前同樣ノ罪科可申付事

第二十五條ニ記載セル帳簿類ヘ押用スル印章ヲ模擬シ又ハ之ヲ贋造シテ他人ヲ欺ク者ハ是レ亦前同樣ノ罪科可申付事

一　總テ此規則ニ從ヒ貼用ノ印紙ヲ消印セサルカ又ハ相當ノ印紙ヲ貼用セサル諸證文ニ證人ニ相立又ハ奥書等致候者ハ二十五圓以下ノ罰金可申付事

第十條

一　凡ソ諸受取證書ニ印紙ヲ貼用スル者ハ孰レモ第七條ニアル雛形ノ通リ印紙貼用ノ上ヘ證書渡主ノ實印ヲ以テ調印致シ貼用ノ印紙ヲ消印可致事

但此消印ハ一旦貼用ノ印紙再用不相成爲ナレハ印紙ノ全面滅却不致樣注意可致事

第十一條

一　第二類金高ニ應シテ印紙ヲ增加スル分ハ一口ノ金高一萬圓ニハ十圓ノ印紙ヲ貼用可致尤右以上ノ金高ハ幾許ノ高ニ相成候共十圓ノ印紙相用其餘增加ニ不及候事

第十二條

一　正米貸借證文正物ヲ以テ其返辨ヲナシ且利米無之分ハ米五石以上第一類ノ通リ一錢印紙ヲ可貼用若利米ノ約アルハ米五石ニ付一錢ヲ貼用シ其餘五石ヲ加フル每ニ一錢ヲ增加シ五千石十圓ニ止リ其餘ハ何程ノ高ニ相成候共印紙增加ニ不及候事

一　正麥其他雜穀類正品物貸借證文前同樣ノ節利息無之分ハ十石以上一錢印紙貼用スヘシ若利息ノ約アルハ麥雜穀共十石ニ付一錢印紙ヲ貼用シ其餘十石ヲ加フル每ニ一錢ヲ增加シ一萬石十圓ニ止リ其餘前同樣ノ事

第十三條

一　米穀正品貸借ハ前條ノ通ニ候得共當ニ書面上ニテ其賣買ノ約ヲ定候歟或ハ金銀融通ノ爲メ質物ニ致シ候歟又ハ米切手等ヲ以テ相場合ニ依リ代金ニテ返辨可致ノ約有之類其他總テ商賣上ニ關シ金高ヲ以テ取極候分ハ第二條ニ揭載セル借用金荷爲替質入借用證文等ニ準シ可申事

但金銀ニ關シ候分ト雖モ無利息ノ分ハ第一類ニ準シ可申事

第十四條

一　第二類諸切手ノ內賣酒切手ハ一升ヨリ一斗ニ充タサル迄ハ都テ一錢印紙ヲ貼用シ一斗ヨリ二斗ニ充タサル迄ハ二錢右以上ハ之ニ準シ一石ニ十錢ニ止リ其餘增高印紙增加ニ不及候事

一　賣酒切手ノ外飮食ノ諸切手ハ代金十圓迄ハ一錢印紙ヲ用ヒ右以上ハ總テ二錢ノ印紙ヲ可相用事

第十五條

一　第三條ニ揭載セル諸證文類印紙無之分ハ後日如何體ノ故障難題差起候共一切取揚無之定規ニ付當初證文取交ノ節屹度注意可致ハ勿論ニ候ヘ共自然無據事實ニテ印紙貼用無之其儘出訴ニ及候者ハ各所ノ司法裁判所又ハ其地方官ノ見込ニテ其情實篤ト取糺ノ上取揚候儀モ可有之候ヘ共其節ハ右書類ノ正不正ニ關セス無印紙ノ罰金トシテ第八條ニ揭載ノ通書面金高ノ十分ノ一爲科料可申付事

第十六條

一　諸證書取換ノ節印紙貼用難致（船中旅行中又ハ印紙買取カタキ差掛候場合等ヲ云フ）場合ノ砌ハ證書取換後六ケ月中ニ貼用致候儀不苦候事

但六ケ月中ニ萬一出訴ニ及フ時ハ必印紙貼用ノ上可願立事

一　右六ケ月中貼用ノ節モ定規ニテハ證書相渡候方ニテ印紙ヘ消印可致筈ニ候ヘ共其後双方相隔リ渡主ノ消印難相成ト見込候時ハ當初證書交換ノ節渡主ヨリ其段證書面ヘ認入自印ヲ以テ相斷置候ヘハ證書渡主ノ消印ニコレナク請取主ノ消印ニテモ不苦候事

第十七條

一　第八條ニ揭載スル官許賣捌所ノ外ニ於テ印紙買取者相顯ハルヽニ於テハ爲科料云々トハ必竟印紙ヲ發行スルハ政府ノ特權ニテ課稅ノ印紙ニ付キ賣捌所ノ外賣買ヲ禁スル儀ハ贋造ヲ防禦スルノ道ニ候條若シ甲賣捌所ニ於テ買取用意ノ爲メ貯置候分更ニ乙ヘ原價ニテ流用讓渡候分ハ不苦候ヘ共歩合ヲ貪リ又受賣買ヲ致候者ハ都テ八條ノ通科料可取立候事

第十八條

一 第二條ニ揭載スル諸會社ヘ預ケ金ノ類ニテ無利息ノ者ハ第一類ニ屬スヘシ若シ多少ノ利息ヲ取受候者ハ第二類ニ準シ金高ニ應シ印紙ヲ增加貼用可致候事

但銀行又ハ諸會社ノ株手形ハ第一類ニ可準事

第十九條

一 同條ニ揭載スル爲替手形竝荷爲替手形ハ金高ニ應シ印紙增加ノ分ニ候得共同會社同店等出張先々ヨリ互ニ送致スル如キ他ニ關係セサル爲替類ハ都テ印紙貼用ニ不及候事

第二十條

一 印紙貼用アル證文類ヲ引當トシテ更ニ借用金等致シ候節ハ右引當證文ノ方ヘハ別段印紙貼用ニ不及候事

但本文同樣ノ事ニ付テハ請取書ヘモ印紙貼用ニ不及候事

一 諸證文中外國貨幣等ヲ以テ記載有之分ハ御國通用ノ貨幣ニ計算致シ其金高ニ應シ候印紙貼用可致候事

一 諸物品賣渡證文等ノ內若干ノ金高ニテ一時受取渡不致幾度ニモ逐次償入スル等印紙ノ儀ハ總金高ニ應シ候員數貼用可致候事

但證文別通ニ相成候ハヽ其證文面金高相當ノ印紙ニ證文每ニ貼用可致候事

第二十一條

一 諸府縣廳ニ於テ貢金等其他銀行或ハ爲替組ヘ相渡候請取證書ニハ印紙貼用ニ不及右銀行或ハ爲替組ヨリ東京銀行ヘ爲替組イタシ候節府縣廳又ハ其筋ノ役所ヨリ爲替貸等受用致シ候者ハ其爲替手形ヘハ第二類ノ印紙貼用可致候事

第二十二條 以下第二十五條迄ハ印紙貼用難ク印紙ヲ以證トシ收稅スル部

一 金銀其他日用取引ニ相用候通帳判取帳雛形書式ノ通相認メ租稅寮又ハ其管轄廳ヘ願出候ヘハ其種類ニ應シテ第二十五條ノ雛形通收稅濟ノ證印ヲ簿帳ヘ押印致シ可下渡候事

但其管轄廳ヘ懸隔ノ場所居住ノ者ハ願書ヘ戶長添書竝印稅割合ノ通相添郵便又ハ其他便宜差立方可取計尤モ印稅上納ノ儀ハ通用貨幣ニテ送致等不都合ノ節ハ證券印紙ヲ以テ代用上納候トモ不苦候事

第二十三條

一 印紙稅第一類ニ屬セル內一時借ト稱シ通帳ヲ以テ相互ニ時々無利息貸借授受ノ類或ハ通帳ヲ以テ無利息預金致シ右金高ノ內ヲ何口モ一帳ノ內ヘ日々附込授受イタシ候類ハ其印稅左ノ通可相心得候事

證印廳ニ不及候事	
印稅一錢	附込合金高百圓ニ充タサル迄ハ
同 五錢	同斷金高百圓以上千圓ニ充タサル迄ハ
同 十錢	同斷金高千圓以上五千圓ニ充タサル迄ハ 同斷金高五千圓以上何萬圓ニ至ルトモ

但金高五千圓以上何程金高增加候共印稅十錢ニ止マリ候事

第二十四條

一 印紙稅第二類ニ屬セル內通帳等ヲ以テ貸借預金其他共授受致候際利息附ノ類ハ其印稅左ノ通可相心得候事

附込合金高百圓ニ充タサル迄ハ　證印願出ニ不及候事
同斷金高百圓以上千圓ニ充タサル迄ハ　印稅五十錢
同斷金高千圓以上二千圓ニ充タサル迄ハ　同　一圓

以上右ニ準シ千圓ヲ加フル毎ニ五十錢ヲ增加シ印稅高十圓ニ至テ止リ其餘金高何程增加候共增印稅無之事

第二十五條

一 證印願書式竝ニ帳簿ヘ證印スル雛形左ノ通

（雛形略ス）

而シテ前顯ノ規則ニ依リテ見ルトキハ印紙ハ府縣廳ヨリ直接ニ需要者ニ賣下クルコトハ絕テ之ナキ者ノ如シト雖モ巨額ノ需要者ニアリテハ一々賣捌所ニ就テ購求スルハ甚タ不便トスル所ナリ仍テ同月十二日第七十九號ヲ以テ證券印紙賣捌人ノ外金高十圓以上卽金上納ニテ買受クル者ニハ府縣廳ヨリ直ニ賣捌人ヘ賣下クルト同一ノ割合ニテ賣下クル旨ヲ規定セリ而シテ同月三十日更ニ租稅寮達第十八號ヲ以テ自今東京府下ノ分ハ金高百圓以上卽金上納ノ分ニ限リ之ヲ許シ其他ノ府縣ニ於テモ土地ノ景況ニヨリテ最少限ヲ十圓以上百圓迄ノ內適宜ニ定ムヘキ旨ヲ達示セリ尙右規則中印紙ニ代ルヘキ證印ハ頗ル重大事ナルヲ以テ同月十九日租稅寮達第十五號ヲ以テ府縣廳ハ勿論支廳ニ於テモ權大屬以上ノ官員ヲシテ取扱ハシムヘキ旨ヲ達示セリ而シテ又本稅法タル我邦ニ取リテハ全ク嶄新ノ稅法ニシテ人民ノ疑惑ヲ生シ易ク隨テ施行上不都合少カラサルヘキヲ察シ同月二十五日租稅寮第十七號ヲ以テ印紙稅略說ヲ頒布シタリ其全文左ノ如シ

印紙稅略說

客歲印紙稅發行ノ議ヲ興シ其規則ヲ編成シ我大藏大輔井上馨閣下ニ呈シ更ニ正院ニ上進シ遂ニ其準允ヲ得テ本年六月第一日ヨリ施行スル事ヲ決シ其規則ヲ天下ニ頒布ス然而印紙ノ稅タル　本朝ノ未曾有ノ新稅ニシテ人民未曾有ノ條例ナリ故ニ人或ハ之ヲ疑惑シ之ヲ嫌忌シ遂ニ施行ノ妨障ヲナサン事ヲ恐ル故ニ今本寮七等出仕星亨十等出仕有島武等ヲシテ英米ノ諸書中特ニ印紙稅ニ關涉セル條ヲ略譯セシメ之ヲ印紙略說ト云フ以テ世人ノ疑問ヲ辨セントス抑歐米各國印紙發行ノ旨趣ヲ視ルニ固ヨリ收稅ノ目的ニ出ツルト雖モ其間文書中事物ノ證ヲ確實ナラシムルノ意モ隨テ含蓄セリ是亦世人ノ宜シク知ル可處ナリ事此冊子ニ詳明セリ時在明治六年五月租稅頭陸奧宗光誌ス

印紙稅略說

英國有名經濟家「アダムスミッツ」氏ノ說

「ウエルツ、オフ、ネーシヨン」ト題セル書中ニ在リ

印紙ヲ施行スルノ濫觴ヲ追徵スルニ和蘭初テ本邦西班牙ノ暴政ヲ厭惡シ一千五百六十六年ニ至テ之ニ叛ス是ニ於テ西班牙之ヲ征討スル最モ急迫ナリ因テ之ヲ防禦スル累年遂ニ一千六百四十八年ニ於テ獨立ヲナスニ至レリ其間國用頗ル多端ニシテ固ヨリ定額ノ租稅ヲ以テ

之ニ充ツルニ足ラス故ニ種々ノ新稅ヲ收征スル方法悉ク擧行スト雖モ尙ホ其費ヲ補フニ至ラス是ニ於テ大ニ國內ニ令シテ新ニ課稅ノ眞法ヲ發明スル者アラハ必ス大賞ヲ下賜スルヲ以テス其時或人遂ニ一新法ヲ發明シ連延衰耗ノ國用ヲ裨補スル者アリ是レ卽チ印稅法ナリ因テ一千六百二十四年以後始テ印稅ヲ國內ニ施行セリ

英國租稅寮ノ法士「ヒユ、テイルスレー」氏ノ著述セル證印稅法論ト題セル書ヨリ抄譯

英國ニ於テ印稅ヲ課征セルノ濫觴ハ一千六百九十四年第三世「ウキリアム」王ノ朝ニ方リ一時國貯ノ缺耗セルニ會シ之ニ供給充足センカ爲メニ始テ制定セル者ニシテ其後數回ノ改制ヲ經テ旣定ノ稅額ヲ增殖シ或ハ更ニ新條ヲ設立スル是ニ於テ稅目愈增加シ且之ヲ收征スルノ煩勞ト費用モ亦他稅ニ比スレハ頗ル輕便ナリトス因テ遂ニ印稅ヲ以テ永久不變ノ正稅ノ一トナセリ然而シテ之ヲ施行スルノ久シキニ隨ヒ新條愈繁ニ稅目愈多クシテ印紙又ハ押印愈混雜ニ至レリ是ヲ以テ其間自ラ奸曲ノ奬害ヲ免カレス因テ政府更ニ其官吏ニ命シテ往時以來數回制定セル稅目ヲ輯集シ皆一定ノ印紙印牌ヲ用ヒシメタリ而シテ第三世「ジヨルジ」王ノ朝ニ及ヒ一旦斷然舊印稅ノ方法ヲ廢シ新ニ印稅法ヲ改定セリ然レトモ是亦猶其奬害ヲ防拒スルニ至ラサルヲ以テ遂ニ其後同王更ニ其法ヲ改制セリ實ニ整定ノ眞法ナリ其後一千八百七十年ニ至リ更ニ制定セル方法ハ卽チ「ヴヒクトリヤ」三十三年ノ法令ニシテ其方法モ亦第三世「ジヨルジ」五十五年ノ法ヲ以テ根基トナセルモノナリ

「ブラックストヲン」氏法書ヨリ抄譯

我英國ニ於テハ印稅ヲ以テ永久不變ノ正稅中ノ第四項ニ置ケリ其法ノ濫觴ハ乃チ英王「ウキ

リヤム」第三世ノ卽位第五年及ヒ第六年ニ於テ始メテ制定セル者ニシテ凡ソ事物ノ證トナルヘキ證文書類一トシテ之ヲ課セサル者ナク其種類最モ巨多ナル者ナリ爾來其法ヲ改制スルヿ殆ント十數回ニシテ大ニ施行ノ術ヲ得タリ而シテ其始終ヲ歷視スルニ當初極メテ重稅ニシテ近今頗ル輕稅ナル者アリ或ハ其稅額當初ニ比スレハ殆ント十倍セルモノアリ或ハ方今全ク廢稅トナルモノアリ然而シテ此稅法タル各商賈輩日用文書ヲ授受スルノ間ニ於テ其印稅ナキニ比スレハ固ヨリ繁雜多費ノ煩ヲ免レサルニ似タリト雖モ官若シ之ヲ征課スルノ術適宜ノ眞法ヲ得レハ則チ諸文書中ニ揭載セル事物ヲ證スルヤ愈更ニ確固タル可ク而シテ諸文書ノ詐僞ヲ防拒スル愈更ニ嚴密ナル可シ是皆印紙ノ功ナリ故ニ印紙ノ人民ニ公益アル寔ニ少ナシトセス

米國鏤行ノ「サイコロペヂヤ」ヨリ抄譯

夫レ「スタムプ、アクト」印紙稅則ナル者ハ各人ヲシテ其文書類ニ政府ノ印章アル紙又ハ羊紙ヲ用ヒシメ以テ其印紙ヨリ稅金ヲ收納スルノ方法ナリ抑此印稅法ハ其始メ和蘭ニ於テ發明創立セシ者ニシテ我英國ニテハ和蘭王ウキリヤム」ノ此國王ニ卽位セル以後ヨリシテ始テ之ヲ施行セリ而シテ爾來逐次其條例ヲ增加シ其部分愈多シ方今ニテハ遂ニ法律上又ハ商賣上ノ諸文書類ハ悉ク印紙ヲ用ヒ相當ノ印稅ヲ納メ新聞紙及遺物ニ征スル稅ノ如キハ其受取書ニ印紙ヲ貼用シテ納メシムルニ至リ或ハ醫師代言者狀師法學士等ノ如キハ其事業ヲ始ムルニ當リ印稅ヲ納メシム又「ノタリー、ポブリック」銀行質店等總テ斯ノ如キ業體ハ年々其免許ヲ受ケサルヲ得ス然而シテ其免許ナルモノハ印章アル紙又ハ羊紙ヲ用ヒシム是亦其印稅ヲ納メ

シムル所以ナリ

印稅金額ハ時々變更アリ凡政府ニ於テ國用不足ナルトキハ卽チ大ニ此稅ヲ興シ以テ其不足ニ充ル者トス其額古今同一ナラス然レトモ方今ノ稅額ヲ以テ之ヲ昔日ニ比較スレハ稍寬ナリト云フヘシ近世我英國ニ於テ一事一業ヲ起ス必ス此印章ヲ用ヒテ其稅金ヲ納シム故ニ印章ヲ要スル件々無數ニシテ之ヲ細擧スル能ハス抑二磅以上ノ請求書ニ貼用スル所ノ一「ペニー」ノ印稅ヨリ一百萬磅ノ資產取扱證文ノ二萬二千五百磅ノ高ノ印稅ニ至ル其割合漸ク增加シテ少ヨリ多ニ至ルト雖モ其最大ナルニ至テハ更ニ最大ノ稅ヲ賦課シ他ノ割合ヲ以テスヘカラス然レトモ概ネ百分一ノ四分二「卽千分五ナリ」ノ二以下ヨリ百分一迄ノ等差アリ「スタムプ」印紙ナル者ハ政府ニ於テ紙上ニ捺印スル實章ナリ故ニ證詞ヲ羊紙ニ記書セント欲スル者ハ其羊紙ニ捺印スル者或ハ白紙ニ捺印シタル者ヲ印紙局ヨリ買取スルアリ此類最モ多シトス或ハ旣ニ書載セル證文ヲ以テ之ヲ印紙局ニ送呈シ相當ノ印稅ヲ納メ之ニ捺印ヲ乞フ者アリ印章ハ僞造シ易キヲ以テ之ヲ僞造スル者屢之レアリ因テ之ヲ防遏スル爲メ「ウキリヤム」及「メリー」ノ朝ニ於テハ僞造スル者ヲ罰スルニ死罪ヲ以テセリ而シテ三十年來ヨリ方今ニ至テハ其罪ヲ減シテ流徒ニ處スト而シテ印記必要ナル者ニシテ印紙之レ無キ文書ハ總テ無證ノ者トナシ裁判廳ニ於テ一切之ヲ取上ル事ナシ且無印紙ノ文書ハ如何ナル法律上ニ於テモ其用ヲ爲スノ力ヲ有セサル者ト看做スヘシ是實ニ脫稅ヲ防クノ第一件ナリトス最モ文書類ノ中其取換セシ後ニテ印紙貼用スル事ヲ許ス者アリ其分ハ至當ノ時間ヲ猶豫シテ可ナリトス譬ヘハ實印ナキ約書ノ如キハ二十一日ノ猶豫ヲ免ス是ナリ或ハ印紙アル文書ヲ喪失スルカ又

ハ被原人ニテ其文書ヲ出サヽレハ縱令無印紙ノ文書ト雖モ之レヲ證左トナス事ヲ得ヘシ且又印紙損傷スレハ之ヲ印紙局ヘ返納シテ其代價ヲ請取リ得可シ夫レ印紙ヲ製造シ且之ヲ貼用スルニ方リ印紙法令ニモ及裁判廳ニ於テモ勉メテ脫稅ヲ防禦スル事ヲ注意スルヲ肝要ナリトスト雖モ其間過失或ハ非常ノ事故ニ罹リ不知シテ其罪ニ陷リ損害ヲ受ケシメサル事ヲ著目スヘシ故ニ文書ヲ作リ故造ノ意ニ出テスシテ其印紙貼用スルヲ忘却シ之ヲ全備セルノ證券ナリト自許シ或ハ非常ノ事故アリテ印紙貼用スルヲ得サル時ハ其後印紙貼用セシメ而後之ヲ裁判スヘシ千七百七十五年亞墨利加ノ獨立セシハ其始メ此印稅ヨリ爭端ヲ起セシナリ遂ニ其本國タル英吉利ト戰端ヲ開キ其獨立ヲ致セリ然レトモ方今此印稅法及ヒ是ニ類セル方法ハ歐洲諸國ニ於テ殆ント施行セサルナキニ至レリ佛蘭西ノ如キハ一ハ印紙ヲ以テ收稅ノ目的トナシ一ハ其文書ニ印紙アルヲ以テ事物ノ證トナシ此兩件ヲ併セテ以テ印紙ノ功ニ歸スト云フ

印稅ヲ以テ租稅ヲ課スルノ方法ニ於テ大ニ世人ノ議論アル者ニシテ且其便宜ト利益トノ際ニ於テ區々ノ議論アル事最モ多シ然レトモ之ヲ主張スル者ハ如何ノ議論ニ關セス往昔ヨリ確乎不撓ノ勢ヲ以テ之ヲ公行セリ故ニ遂ニ又之ヲ動ス可カラサルニ至レリ然リ而シテ其印稅ヲ主張スル者ノ說ニヨレハ印稅ノ法其課稅ノ術タル最モ容易ニシテ且其煩勞冗費タル甚タ少シ故ニ適宜ナル方法ヲ設立セハ一般商業ニ賦稅スルニ公平至當ニシテ更ニ偏頗ノ弊ナシ如何トナレハ此賦課ヲ蒙ル者ハ事業ニ關涉セル者ニ限レハナリ若シ夫レ分頭稅ノ如キハ賦課スル所ノ各人ノ所有物ニ相當セシムル能ハス又資產歲入稅ノ如キハ常ニ詐欺ヲ受ケ脫

稅ノ奬ヲ免カレス土產稅ノ如キハ數々煩雜多費動モスレハ左支右吾得失相償ハス故ニ印紙ヲ以テ收征スルハ其稅額ノ至大ナル其法ノ至當ナル更ニ之ニ加フルナシ實ニ文明開化ノ諸國ニ於テ行ハルヽ稅法中ノ第一ノ美法ト謂ツ可シ英國一千八百六十年ニ於テ收征スル印稅額ハ八百二十八萬五千二百五十七磅十四「シルリング」四「ペンス」ナリ

印紙稅ハ全ク新規ノ稅法ナルヲ以テ政府ハ汲々トシテ人民ヲシテ疑惑ヲ懷カサラシメンコトヲ勉メ前記ノ印紙稅略說ヲ廣ク頒布シ又之ヲ發賣セシメタリシカ同年五月更ニ大藏省達第八十四號ヲ以テ各府縣ニ令シ諸證文類竝帳簿上ヘ印紙貼用證印スヘキ旨ヲ命セリ

大藏省達第八十四號（明治六年五月二十八日）

六月一日ヨリ請取諸證文類ヘ印紙貼用可致儀ハ本年二月十七日太政官第五十六號御布告ニテ管下人民一般御布告竝規則面等詳細疾クニ會得承知可有之候得共本月十日第百五十五號御布告中規則第二十二條以下揭載有之候帳簿上ヘ證印ノ儀ハ未タ一般了解不致者モ可有之候間管下各區戶長ニ於テ再度ノ御布告竝規則面共人民會得相成候樣說示シ犯則ノモノ無之樣可取計候依之證券印稅心得十部宛相渡候條此餘入用ニ候ハヽ於管下書林重板申付候條前以當省ヘ申出置剩成ノ上ハ文部省ヘ可相廻分三部納本可致爲賣捌方ノ儀ハ原價ヘ僅ノ手數料ヲ以爲賣捌候樣可致事

但東京府下ニ於テモ發賣差免候間便宜ニ可任事

一　百五十五號御布告增加規則二十五條中ニ揭載ノ帳簿ヘ證印ノ儀ハ人民ヨリ願出次第速ニ

證印取計可申候萬一願出方手後レ等相成候者ハ來六月二十日迄ニ可爲願出候六月一日ヨリ附込高ヲ算シ向後ノ分ヲモ合計シ相當ノ印稅上納ノ上證印可致事

但從前相用候帳簿ハ本月三十一日迄ハ是迄ノ通無稅ニテ不苦候得共右帳簿ヲ以六月一日以後引續金銀授受可致心得ノ者ハ同樣附込金高見積證印可爲願出候尤向後帳簿新規ニ相改度願ノモノハ何時ニテモ可爲願出候事

一　前文帳簿證印ノ儀ハ各人民同樣ノ儀ニハ候得共兩替屋吳服屋質屋酒屋等別テ帳簿上ノ授受多分有之ニ付右樣ノ渡世筋ノ者ヘハ管下戶長ニ於テ一層注意說示行屆候樣可取計事

右之通相達候事

而シテ印紙稅法ノ制ニ伴ヒ人民ニ於テ金子ヲ授與スル場合ノ外諸取引竝賣買トモ金高十圓以上ハ證書又ハ請取書ヲ取替シムルコトヽシ同年六月其旨ヲ布告セリ（明治六年六月五日）布告第百九十號

人民相互ニ金子授受ノ際從來請取證書等爲取替候筈ノ處今般證券印紙貼用規則相達候ニ付テハ自今諸取引竝賣買トモ金高十圓以上ニハ必ス證書又ハ請取書爲取替候樣可致事

尋テ六月五日ニ至リ大藏省達第九十三號ヲ以テ爲替手形モ亦金高巨萬紙面狹隘ニシテ印紙貼付シ難キモノニハ受取諸證文印紙貼用心得方規則第二十二條日用帳簿同樣證印法ヲ採用シ手形ノ裏面ノ印稅收領ノ印ヲ證印スルコトヽ爲セリ（明治六年六月五日）大藏省達第九十三號

本年第五十六號ヲ以御布告相成候證券印紙貼用可致內爲替手形ノ分金高巨萬紙面狹隘ニテ一

圓印紙十枚貼付難致分ハ帳簿ヘ證印可致爲メ租稅寮ヨリ相渡置候印稅收領ノ印ヲ右手形裏面ヘ證印致シ御規則ノ通收稅可取計候事

但手形裏面ヘ證印方法ノ儀ハ租稅寮ヨリ可相達筈ニ候事

而シテ印稅法ノ犯則者處分ニ關シテハ旣ニ規則ノ明文ヲ以テ定ムル所ニシテ當局者ノ充分之カ取締ヲ爲スコトハ言フヲ待タサル所ナリト雖モ當局者ノ注意モ時ニ及ハサルモノハ亦免ルヘカラサルノ數ト云フヘシ故ニ犯則者處分ノ規定ヲシテ完全ニ行ハレシメンカ爲メニハ人民ノ告發ヲ奬勵シテ人民相互ニ注意セシムルニ如カサルナリ是ヲ以テ同月二十四日太政官布告第二百二十二號ヲ以テ受取諸證文印紙貼用心得方規則ノ犯則訴人ヘ賞金下附方ヲ規定シタリ其全文左ノ如シ

布告第二百二十二號（明治六年六月二十四日）

先般印紙稅發行候ニ付テハ右印章類贋造竝印稅ヲ免レンタメ犯則ノ者ヲ見屆訴出事實取糺ノ上相違無之ニ於テハ訴出候者ヘ左ノ通賞金被下候條此旨相達候事

第一　第一類中一錢印紙ヲ貼用セスシテ相渡候者ヲ訴ヘ出ル時ハ犯人過料ノ半減可被下事

第二　第二類中諸證文等ニ印紙ヲ貼用セスシテ相渡候者ヲ訴ヘ出ル時ハ犯人過料罰金高ノ半減可被下事

一金十圓以上ノ高ヲ曲ケテ十圓以下ノ高ニ作爲シ印紙ヲ貼用セスシテ第二類ノ證書ヲ出ス者又ハ帳簿類證印ニ二類ノ廉ヲ一類ニ作爲シ一類ノ證印等ヲ申請候者等ヲ訴出ル時ハ犯人過料金高ノ半減ヲ可被下事

第三　印紙界紙ヲ密賣買致候者ヲ訴出ル時ハ密賣犯人ノ過料印紙代價五百倍ノ半減竝密賣犯人ノ過料金代價千倍ノ半減可被下事

第四　印紙界紙又ハ印稅收領ノ印章ヲ贋造スル者又ハ印紙ノ消印ヲ洗滅シ再用セシ者等ヲ訴ヘ出ル時ハ相當ノ賞金可被下事

同年七月二十日布告第二百六十二號ヲ以テ受取諸證文印紙貼用心得方規則第二十六條以下ヲ增補シ以テ從來ノ諸規定中不明ノ點ヲ明ニセリ卽チ左ノ如シ

布告第二百六十二號（明治六年七月二十日）

本年二月第五十六號同五月第百五十五號布告證券印紙貼用心得方規則第二十六條以下尙又別紙ノ通增補候條此旨布告候事

受取諸證印紙貼用心得方規則第二增加

第二十六條

一　第二十三條第二十四條ニ揭載セル諸帳簿證印附込金高ヲ以テ證印願出ノ儀向後總テ一ケ年限可附込金高ヲ以テ願出證印可申請候尤帳簿紙數多少ハ適宜ニ任セ一帳簿ヲ以テ數年相用候共證印ノ儀ハ其年一ケ年限ノ證ト相心得翌年尙其帳簿ヘ可附込金高見込更ニ其年分ノ證印願出候樣可致事

但是迄證印濟ノ分ハ其儘相用一ケ年未滿ニテ附込金高相充候上ハ何時ニテモ願出ノ上證印可申請候以來ハ一ケ月或ハ半ケ年見込ヲ以テ金高見積候儀ハ不相成候事

一　諸帳簿證印可致分ノ內帳簿上ヘ金錢記載無之物品ヲ以テ記載スル荷物判取帳ノ類附込金

高計算難積立分ハ附込物品ノ多少ニ拘ラス向後一帳簿ニ付一ケ年分總テ金五錢ノ印稅ヲ以テ證印可致事

第二十七條

一 諸切手類正品引換ノ節ハ戻主ニ於テ黒朱等ニテ廿テ消印有之印紙面ヲ抹却可致事

第二十八條

一 諸約條金其外借用金ノ類金高多ニシテ一時返戻又ハ償入難相成分漸々入金等致候分ハ假令元金高ニ相當セル印紙貼用有之共請取書ハ返戻償入ノ證ト可致譯ニ付金高十圓以上ハ其都度都度一錢印紙ヲ貼用可致事

一 印紙貼用アル諸證書ヲ事故アッテ書改候節ハ新證書ヘ更ニ印紙貼用可致事

第二十九條

一 第二十條ニ揭載有之候印紙貼用アル證書類ヲ引當トシテ乙云々トハ第一類ニ屬セル印紙アル證書ヲ以ヲ尙第一類ニ屬セル證書ニ其類ヲ以テ引當候上ハ印紙貼用ニ不及候得共印紙アル第一類ノ證書ヲ以テ第二類ノ證書ヘ引當取引候節ハ照準ニ難相成新證書ヘハ別段二類ノ印紙貼用可致事

一 證印アル帳簿類盜火難等ニテ紛失ノ節ハ更ニ印稅上納ノ上新帳簿ヘ證印可申請事

第三十條

一 諸賣買又ハ貸借等一切ノ約定證書類相互ノ都合ニ依リ爲取替致シ候分同事件又ハ同員數ニ候共各爲取替候各通每ニ印紙貼用可致事

但甲乙通帳ノ類モ自他各證ト可爲者ハ本文同樣印稅上納ノ上證印可申請事

第三十一條

一 界紙ヲ僞造スル者ハ帳簿類ヘ押印スル印稅收領ノ印章ヲ模擬セル者ト同樣ノ罪科可申付事

一 界紙可相用書類ヘ界紙ヲ用ヒサル者相顯ルヽニ於テハ爲科料金五十錢可爲差出事

一 第一類第二類ノ印稅可相納諸帳簿ヘ證印不申請者ハ第八條ニ揭載セル印紙一類ヲ不貼用科料ノ半高爲科料可爲差出事

但荷物附込帳ハ一類ノ印紙ヲ不貼用科料半方ニ準シ可申事

一 第二類ノ帳簿ヲ曲ケテ第一類ノ帳簿ニ取繕ヒ證印申請候者ハ同條十圓以上ノ高ヲ曲ケテ云々之科料半方爲科料可差出事

一 證印申請候帳簿ヘ餘白有之迚願濟金高ヨリ過剩附込候者ハ第一類第二類ニ應シ候帳簿ヘ證印不申請者ノ科料ト同樣可爲差出事

而シテ右規則第二十六條ニ所謂一箇年限トアルハ何時ヲ以テ起算點ト爲スヘキヤ甚タ不明ナルニヨリ同年八月九日大藏省達第百二十號ヲ以テ證印濟ノ年月日ヲ起算點ト爲スヘキ旨ヲ明ニセリ而シテ證券印紙ノ內二十五錢五十錢一圓ノ三種ハ其形大ニ過キ貼用上不便ナルヲ以テ同年八月三十一日布告第三百十號ヲ以テ其形狀ヲ變更スル旨ヲ公布セリ又印紙稅施行以來各地犯則者漸ク多キニ至レルヲ以テ各地方官ヲシテ更ニ人民ヲシテ稅法ニ背戻セサルコトヲ諭示セシム其達文左ノ如シ

大藏省達第百三十六號（明治六年九月二十八日）

本年六月一日ヨリ御發行相成候證券印紙之儀各地人民不慣成處ヨリ金穀其他取引上印紙ヲ不貼用モノモ間ニハ有之趣相聞甚不相濟事ニ候條各管內ニ於テ一層注意イタシ區戶長等ヨリ反覆叮嚀說示行屆候樣改テ可申渡候右御規則之儀ニ付テハ太政官第二百二十二號ヲ以犯則之モノ訴出候者ヘ御賞金被下候御布告モ有之自今犯則ノモノ有之候節ハ無猶豫規則之通處分致候尤出張裁判所有之府縣ハ其出張裁判所ヘ送致可致候此旨相達候事

大藏省達第百四十二號（明治六年十月九日）

本年六月中ヨリ御發行相成候證券印紙貼用方規則之儀ハ人民一般遵守可致ハ勿論ノ儀ニ付諸荷物或ハ貨幣等海陸運輸ヲ以テ營業罷在候者共ノ儀モ規則ニ照準シ是迄印紙貼用致シ居候儀ニハ可有之候得共尙別紙之件兼テ相心得置犯則ニ陷ラサル樣厚ク注意可致此旨布達候事

海陸運輸渡世之者證券印紙貼用方心得書

一 海陸運輸ノ諸荷物竝貨幣等金高十圓以上ノ物ハ荷主ヘ可相渡請取證書ヘ金高ニ拘ハラス一錢印紙貼用可致事

一 前同斷ノ物貨ニ付金高十圓以上ノ運搬料請取候節ハ其請取證書ヘ前同斷貼用可致候事

一 運輸スヘキ物貨ト其運搬料トノ請取證書ヲ荷主都合ニ依リ別通ニセスシテ一紙證書ヲ要スルトキハ請取書面總金高ニテ拾圓內外ノ區別ヲ分チ兩種ヲ兼一錢印紙貼用不苦候事

但諸物貨及其運搬料トモ金高拾圓以下ノ節ハ双方請取書ヘ印紙貼用不及候得共一通證書ニ致候節總金高拾圓以上ニ及ヒ候ハヽ本文ノ通リ印紙貼用可致候事

一 假令ハ東京ヨリ各所問屋ノ手ヲ經長崎或ハ靑森等ニ達スル物價（金高十圓以上ノモノ）ハ請繼數回ニシ印紙アル請取書類ヲ荷主ヘ相渡シ運輸ノ物貨ニ印紙アル元送狀附著有之候上ハ乙丙丁問屋等ニ於テ授受ノ證書ハ勿論添送狀等ニ至ル迄渾テ印紙貼用不及候得共長崎靑森ノ如キ結尾ノ場所ヘ其荷物著ノ上其荷請主ヨリ取置候請取證書ハ印紙貼用可爲致候事

斯クテ明治六年十月大藏省達第百五十三號ヲ以テ他管ノ者商用ニテ滯在中帳簿證印方ニ關スル規定ヲ左ノ如ク定メ取扱上區々ニ涉ラシメサルコトヲ期セリ

大藏省達第百五十三號（明治六年十月三十日）

各府縣管下之人民商業取引ノ爲メ他管內ヘ相越滯在中相用候金銀判取帳之類最前其者管轄廳ニ於テ租稅寮印稅收領ノ印ヲ相請候帳簿ニ候得ハ御國內一般何レノ地ニテ相用候共聊不苦譯ニ付若旅行先ニ於テ兼テ願濟ノ附込金高又ハ年限相滿再ヒ證印可相請期節ニ至リ候歟或ハ新ニ帳簿ヲ製シ候節ハ卽其管轄廳ヘ定規ノ通リ證印願書差出候得ハ無差支押印致シ下ケ渡可申候條此旨布達候事

更ニ同年十二月大藏省達第百七十七號ヲ以テ請取諸證文印紙貼用心得方規則中請取書ノ中ニハ各府縣ニ於テ一時傭上ノ書記或ハ給仕小使諸職工類ノ傭料給料手間代等ノ請取書モ亦之ニ包含

スルヲ以テ書面金額十圓以上ノモノハ孰レモ印紙ヲ貼用スヘキ旨ヲ達セリ然ルニ又規則中貼用ノ印紙ニ消印セス又ハ不相當ノ印紙ヲ貼用スル者ノ罰則ニ關スル點ヲ缺キタリシニヨリ翌七年二月三日太政官布告第十四號ヲ以テ心得方規則第九條第四項ヲ左ノ如ク更正シタリ

布告第十四號（明治七年二月三日）

明治六年五月第百五十五號布告受取諸證文印紙貼用心得方規則中第九條第四項今般左ノ通添正候樣此旨布告候事

一　總テ此規則ニ從ヒ貼用ノ印紙ニ消印セサルカ又ハ相當セサル印紙ヲ貼用スル諸證文ヲ渡ス者ハ三十圓以下ノ罰金可申付又其證人ニ相立又ハ奧書等致候者ハ二十五圓以下ノ罰金可申付事

然ルニ右追加ノ明文ハ過剩貼用ノ場合ヲモ含有スルモノヽ如クニシテ解釋上大ニ疑義ニ渉ルモノアリタルニヨリ三月四日布告第二十六號ヲ以テ「又ハ相當セサル」ノ下ニ不足之三字ヲ加ヘ以テ不足貼用ノ場合ニ限リ尙其趣旨ヲ一層明瞭ナラシメンカ爲メニ但書ヲ增補シ「但金高相當ヨリ過剩ノ印紙貼用候者ハ此限ニ非ス」ト爲セリ尋テ五月二十五日布告第五十六號ヲ以テ從來規則中帳簿證印ハ其證印濟ヨリ期限一箇年ニ滿ツルトキハ附込見積金高ノ過不足ニ拘ラス更ニ證印ヲ申請スヘキコトヽナリ來リシカ之ヲ改メテ右帳簿附込金高ニ滿ツル迄ハ其儘之ヲ用ユルモ妨ケナク特ニ金高無限（第一類ニテ五千圓以上第二類ニテ一萬九千圓以上）ノ證印ヲ受ケタル帳簿竝ニ荷物判取帳ハ紙數ノ盡クル迄ハ其儘之ヲ用ユルモ妨ナキモノト爲シ以テ大ニ納稅者ノ便宜ヲ企圖シタリ

第二款　印紙稅ノ第二期

第一節ニ述ヘタル如ク印紙稅法ハ明治六年二月ノ公布ニ係リ同年六月一日以降施行セラレタルモノニシテ爾來一年之カ實施上ノ情況ニ顧ミ屢〻之ニ改更補修ヲ加フル處アリタリト雖モ固ヨリ未タ完全ト云フヘカラスシテ尙ホ補修ヲ加フヘキノ餘地甚タ多シ然レトモ更ニ之ニ改正補修ヲ施ストキハ自ラ繁雜ニ渉リテ爲メニ世上ノ疑惑ヲ招クノ虞決シテ少ナシトセス以テ玆ニ全然稅則ヲ更定スルノ議ヲ決シ明治七年七月二十九日布告第八十一號ヲ以テ從來ノ規則ヲ廢止シ新ニ證券印稅規則ヲ制定公布セリ本稅則ハ舊規則ニ比シテ其規定大ニ簡明トナリタルノミナラス夫ノ帳簿ノ如キ從來ノ證印法ヲ改メ納稅者自身ヲシテ印紙ヲ貼用セシムルノ便法ヲ開キ從來印紙ヲ貼用スヘキ證書類ハ分テ二種トナシタルヲ改メテ諸證書帳簿共之ヲ三類トシ又大ニ稅率ヲ更定シ其他從來ノ五種ノ印紙ノ外更ニ二圓五圓ノ二種ヲ調製發行シテ以テ實際ノ便利ヲ圖リ尙ホ新稅則改定後ハ自然貼用過不足ノ過誤等ナキヲ保セサルヲ以テ帳簿ニ關スル罰則ノ條項ニ限リ翌八年一月ヨリ實施スルコトヽシ以テ周知ノ猶豫ヲ與ヘタリ而シテ其全文ハ左ノ如シ

布告第八十一號（明治七年七月二十九日）

明治六年二月第五十六號以下追加及布告候證券印紙規則總テ相廢シ更ニ別冊ノ通相定メ本年九月一日ヨリ施行候條此旨告候事

但帳簿罰則ハ來ル明治八年一月一日ヨリ施行候儀ト可相心得事

證券印稅規則

第一則 綱領

第一條 凡ソ人民財産ノ受授竝ニ交際上相用候證書帳簿類ハ都テ此規則ノ通證券□□印紙界紙ヲ用フヘキ事

第二條 總テ規則ノ通證券○○印紙界紙ヲ用ヒサル者ハ後日如何體ノ故障差起出訴ニ及ヒ候共其書類ハ一切取揚裁判不相成事

第三條 證券○○印紙界紙ハ買求差支無之樣各府縣管下適宜ノ場所ヘ賣捌所相設置候條下條ニ掲載セル定價ヲ以テ買取ヘキ事

第四條 賣捌所ハ證券印紙賣捌所ト大書シ官ノ燒印アル看板ヲ掲クル家ニ限ルヘシ其外ニ於テハ一切賣買禁止ノ事

第五條 印紙ノ種類定價左ノ通候事

淡黒色印紙	定價	一錢
薄赭色同	同	五錢
青色同	同	十錢
黄色同	同	貳拾五錢
橙黄色同	同	五拾錢
紅色同	同	壹圓
深紫色同	同	五圓
深紅色同	同	貳拾圓

第六條 證券界紙ノ定價左通候事

大判界紙	定價	七厘
中判界紙	同	五厘
小判界紙	同	參厘

右ノ界紙ハ大中小判ノ三種アリト雖モ其證書ノ文義長短ニ因リ便宜ニ任セ何種ヲ相用フルモ適宜タルヘキ事

第二則 諸證書

第一條 諸證書ヲ分テ三類トス

第一類諸證書

一 賣品竝職業ニ關スル金錢受取書

右ノ受取書ハ金高拾圓以上總テ一錢ノ印稅拾圓未滿ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハス

一 預リ金○○證文手形

一 耕地小作證文

一 遺金證文

右ノ證書類ハ金高拾圓以上ハ總テ壹錢ノ印稅拾圓未滿ハ界紙ヲ用フヘシ

一 質物○○預リ書小札

右ノ證書ハ金高拾圓以上ハ壹錢ノ印稅拾圓未滿ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハス

一 諸會社株手形

一 荷物送リ狀
一 荷物預リ證書
一 ○○地所建家 讓與證書
一 物品讓與證書
一 公債證書類讓與證書
一 跡式讓狀

右ノ證書類ハ金高ニ拘ハラス總テ壹錢ノ印稅

第二類諸證書

一 借用金證文
一 預リ金○○證文手形 但使用ヲ爲サヽルノ明文無之分
一 地所竝建家賣渡證文
一 地所竝建家○○賣入證文
一 公債證書類賣買證文
一 諸品○○賣入證文
一 爲替手形竝置手形
一 荷爲替手形
一 諸請負證文
一 金錢約定證文

一 金錢約定爲取換證文
一 米穀竝諸品賣買約定證文
一 米借用證文
一 雜穀借用證文
一 賣買用諸品代價十圓以上借用證文
一 借地證文
一 借家證文
一 金十圓以上記載雇人請狀
一 諸賣買證據金預リ手形
一 諸敷金證文

右ノ證書類ハ

書面 金高十圓以上二十圓未滿ハ 米高五石以上十石未滿ハ 雜穀高十石以上二十石未滿ハ 界紙ヲ用フヘシ

同斷 金高十圓以上二十圓未滿ハ 米高五石以上十石未滿ハ 雜穀十石以上二十石未滿ハ 印稅一錢

同斷 金高二十圓以上三十圓未滿ハ 米高十石以上十五石未滿ハ 雜穀高二十石以上三十石未滿ハ 同 二錢

同斷 金高三十圓以上四十圓未滿ハ 米高十五石以上二十石未滿ハ 雜穀高三十石以上四十石未滿ハ 同 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタスヘシ

第三類諸證書

一 諸酒切手

右ノ切手ハ

升目壹升未滿ハ　界紙ニ及ハス
同一升以上一斗未滿ハ　印稅一錢
同一斗以上二斗未滿ハ　同 二錢
同二斗以上三斗未滿ハ　同 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加イタスヘシ

一 食類切手

右ノ切手ハ

代金高二十五錢未滿ハ　界紙ニ及ハス
同二十五錢以上二圓五十錢未滿ハ　印稅一錢
同二圓五十錢以上五圓未滿ハ　同 二錢
同五圓以上十圓未滿ハ　同 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

一 米油醬油其外諸品賣買切手

右ノ切手ハ

代金高二十五錢未滿ハ　界紙ニ及ハス
同二十五錢以上五圓未滿ハ　印稅一錢
同五圓以上十圓未滿ハ　同 二錢
同十圓以上二十圓未滿ハ　同 三錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

一 荷物受取書

右ノ受取書ハ送狀附添ハサル分ハ界紙ニ及ハス送狀添附ノ分ハ界紙ヲ用フル歟又ハ印稅貼用ノ荷物判取帳ニ記スヘシ

一 金高記載無之○○（約定證書 借人受狀）類

右ノ證書類ハ總テ界紙ヲ用フヘシ

第二條 證書ハ總テ證書渡主ニテ印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ其印紙ノ全面滅却セサル樣第一號圖ノ通調印致スヘキ事

第三條 院省使府縣ノ官印或ハ諸官吏ノ公務ニ依リ調印セル受取書證書類ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル事

第四條 租稅竝ニ賦金及ヒ區入費取立ノ節區戶長ヨリ相渡候受取書ハ界紙ヲ用フルニ及ハサル事

第五條 官祿家祿賞典救助受取書又ハ裁判請書及ヒ訴訟濟口證文等ハ都テ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル事

第三則　諸帳簿

第一條　諸帳簿分テ三類トス

第一類諸帳簿

一　金錢判販帳　印紙貼用ニ及ハス
一　質物通帳　印稅一錢
一　金錢當座預リ通帳　同　二錢
右ノ帳簿類ハ　同　三錢
附込見積金高百圓未滿ハ　同斷金高百圓以上二百圓未滿ハ
同斷金高二百圓以上三百圓未滿ハ
同斷金高三百圓以上四百圓未滿ハ
右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

第二類諸帳簿

一　質物臺帳　印紙貼用ニ及ハス
一　金錢一時〇〇貸借通帳　印稅五錢
一　諸品損料帳　同　十錢
一　商賣品當座〇〇貸借通帳　同　十五錢
一　金錢預リ通帳但使用ヲ爲サヽルノ明文無之分　右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

右ノ帳簿類ハ　印紙貼用ニ及ハス

第三類諸帳簿

一　荷物判取帳　印稅二十錢
一　諸品判取帳　同　十錢

附込見積金高百圓未滿ハ　同斷金高百圓以上二百圓未滿ハ
同斷金高二百圓以上三百圓未滿ハ
同斷金高三百圓以上四百圓未滿ハ
右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

右ノ帳簿ハ附込ノ箇數ニ拘ハラス一箇年ニ付印稅二十錢

第二條　第一類第二類帳簿ヘ印紙貼用ノ儀ハ一箇年以上附込ヘキ見積金高ヲ第三號書式ノ通帳簿ノ初丁ヘ自身ニ相記シ其金高ニ應シタル印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ調印致スヘキ事

但帳簿初丁ヘ記シタル附込見積金高相滿候迄ハ何箇年相用候共苦シカラサル事

第三條　第三類ノ帳簿ヘ印紙貼用ノ儀ハ其帳簿可相用年限ヲ見積リ第四號書式ノ通帳簿初丁ヘ自身ニ相記シ其年限ニ應シタル印紙貼用ノ上必ス實印ヲ以テ調印致スヘキ事

但帳簿ノ初丁ヘ記シタル年限相滿候迄ハ何箇數附込候トモ苦シカラサル事

第四條　一旦印紙貼用ノ〇〇第一類第二類帳簿附込見積金高相滿候歟又ハ第三類帳簿年限相滿餘白ノ紙數有リテ再用セント欲スル者ハ尙其帳簿ニ應シ〇〇第三號第四號書式ノ通改メテ書記シ印紙貼用

致スヘキ事

第五條　第二類ノ證書ヲ若シ便利ノ爲メ帳簿ニ相綴リ書載候儀不苦候得共其帳簿ハ其附込ノ廉毎ニ第二則第一條ノ通印紙貼用致スヘキ事

第六條　印紙貼用ノ諸帳簿ハ其掛リ官員巡廻調査ヲ遂ケ候儀モ可有之尤其節ハ巡廻日限前以可相達候條印紙貼用ノ帳簿ハ無遺漏調査ヲ遂クヘキ事

第七條　〇〇第一類第二類附込見積金高相滿候歟又ハ第三類帳簿ノ期限相滿候節ハ其帳末ニ第五號書式ノ通奥書ノ上調印致シ置前條官員巡廻ノ節差出檢印ヲ受クヘキ事

第四則　賞罰例

第一條　證券界紙相用フヘキ證書類ニ證券界紙ヲ用ヒサル者ハ脫稅高ノ十倍（則五錢）過料タルヘキ事

其證書ヲ受取タル者ハ脫稅高ノ二十倍（則拾錢）

第二條　〇〇〇第一類第二類第三類ノ證書類ニ證券印紙ヲ貼用セサル者ハ脫稅高ノ十倍過料タルヘキ事

第三條　〇〇第一類ノ諸帳簿ヘ證券印紙ヲ貼用セサル者ハ脫稅高ノ二十倍過料タルヘキ事

第四條　〇〇第一類第二類證券印紙貼用ノ帳簿見積金高附込相濟餘白ノ紙數之レアルトテ第三則第四條ヲ犯シ更ニ證券印紙ヲ貼用セス猶附込候者ハ脫稅高ノ十倍過料タルヘキ事

第五條　第三類ノ諸帳簿ヘ證券印紙ヲ貼用セサル者ハ脫稅高（譬ヘハ無印紙ニテ一箇年未滿相用フル者ハ則四十錢ノ脫稅ニ當ル類ナリレニ準シ一箇年以內貳拾錢宛ノ割合ヲモツテ之ヲ算ス）以上之ヲ六倍過料タルヘキ事

第六條　第三類證券印紙貼用ノ帳簿期限相滿餘白ノ紙數之レアルトテ第三則第四條ヲ犯シ更

ニ證券印紙ヲ貼用セス猶附込候者ハ脫稅高（譬書上ノ四倍過料タルヘキ事

第七條　諸證書帳簿ニ證券印紙ヲ不足ニ貼用セシモノハ其減稅高ノ十倍過料タルヘキ事

第八條　規則ニ從テ貼用セシ諸證書帳簿ノ證券印紙ニ調印セサル者ハ三十圓以下ノ過料タルヘキ事

第九條　證券印紙ヲ貼用セサル歟又ハ印紙不足ナル歟或ハ貼用ノ印紙ニ調印セサル歟又ハ界紙可相用諸證書ニテ界紙ヲ用ヒサル證書ヘ證人ニ相立又ハ奥書等致候者ハ二十五圓以下ノ過料タルヘキ事

第十條　官許賣捌所ノ外ニ於テ第一則第四條ニ背キ賣捌タル證券〇〇（印紙界紙）代ノ百倍又ハ其情ヲ知テ之ヲ買フ者ハ其品取上ケ〇〇（印紙界紙）代ノ五十倍過料タルヘキ事

第十一條　證券印紙貼用致スヘクシテ全ク貼用無之諸帳簿ニ調印致シ候者ハ其人毎ニ帳簿主ヨリ取立候過料高百分ノ一ツヽニ各過料タルヘキ事

第十二條　一旦相用ヒ調印セシ證券印紙ヲ再用センントシテ之ヲ剝取リ調印ヲ洗滅シタルモノト知テ之ヲ再用スル者又ハ之ヲ賣買スル者ハ六十圓以下ノ過料タルヘキ事

第十三條　證券〇〇（印紙界紙）贋造スル者又ハ贋造セシ品ト知テ之ヲ賣買スル者ハ都テ九十圓以下ノ過料タルヘキ事

第十四條　前數條ニ揭クル處ノ犯則人ヲ見屆ケ訴出ル者アルトキハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其過料金ノ半高ヲ下サルヘキ事

第五則　附錄

第一條　諸證書ニ外國貨幣ヲ以テ記載セル分ハ其節ノ相場ヲ以テ內國通貨ニ計算シ其高ニ應シ印紙貼用致スヘキ事

第二條　公債證書類ハ其證書面ノ高ニ拘ハラス賣買ノ正金高ヲ以テ計算シ其高ニ應シ印紙貼用致スヘキ事

第三條　官ノ金穀諸拜借證文ノ儀衆庶一般ノ災厄ヨリ起レル救助ニ關スル分ハ○○印紙ヲ用フルニ及ハサレトモ其餘ノ諸拜借ハ總テ借用金穀證文規則ノ通タルヘキ事

第四條　印紙貼用アル諸證書ヘ事故アリテ書改候節ハ新證書ヘ更ニ印紙貼用致スヘキ事

第五條　凡ソ諸證書帳簿ニ誤リテ過剩ノ印紙ヲ貼用セルモノハ其證ニ於テ妨ナキ事

第六條　諸證書ヲ差戻シ又ハ諸切手類現品引替ノ節戻シ主ニテ官ニテ調印アル印紙面ヲ塗消シ或ハ引裂キ相戻スヘキ事

第七條　各所問屋ヲ經テ送致スル荷物送狀ヲ途中宿次問屋ニ於テ其儘繼送候節ノ添狀ハ印紙貼用ニ及ハサレトモ右荷物ヲ引分ケ各別ニ差送候節ノ新規送狀ハ規則ノ通印紙貼用致スヘキ事

第八條　爲取換約定書ノ類ハ雙方トモ印紙貼用致スヘキ事

第九條　院省使府縣廳ニ於テ銀行又ハ爲換方等ヘ貢金其他官金相預候節○○預リ料利息又ハ手數料等受用致シ候分ハ假令官金ト雖モ預金證文或ハ預リ金通帳ヘ第二類○○預リ料利息又ハ手數料等無之分ハ第一類ノ印紙貼用可致事

第十條　五圓二十圓兩種ノ印紙ハ印紙賣捌ノ許可ヲ受タル各地銀行竝各府縣廳爲替方御用勤候者ニ限リ爲賣捌候事

第十一條　印稅規則ニ相觸候證書竝ニ帳簿ヲ授受致候儀相顯レ規則ノ通過料金差出候後ニ至ツテモ其證書帳簿ハ取揚ケ裁判不相成事

第十二條　前條ニ揭クル證書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ受取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致事

第十三條　第十一條ニ揭クル證書ノ內界紙可相用處他紙ヲ相用候證書ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ受取主ニ於テ其證書ハ一錢印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致事

第十四條　第十一條ニ揭クル帳簿ヲ以テ公裁ヲ仰カント欲スル節ハ帳簿主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致事

第十五條　甲乙等ノ號ヲ各帳ヘ記付シ同金高ヲ記載シ彼我ニ各一帳ツヽ所持シテ相互ニ交換致ス通帳ノ類二冊トモ後證トナルヘキモノハ甲乙トモ印紙貼用致スヘキ事

第十六條　旅行先ニテ相用候帳簿ハ其管轄地ニテ官員巡廻ノ節調查ヲ受ケ候トモ又ハ出先ニテ官員巡廻ノ節調查ヲ受ケ候トモ便宜ニ任スヘキ事

第十七條　最初帳簿附込見積金高百圓以內ト見込印紙貼用セス官員ノ調查ヲ受ケサル者漸々附込相嵩ミ誤テ百圓以上ニ及候者ハ附込金高二百圓以內ニテ他ヨリ發覺セサル以前ニ印紙貼用調印ノ上其管轄廳ヘ差出調查ヲ受候ニ於テハ犯則ノ限ニ無之事

第十八條　印紙多數用フル節證書面狹隘ニヲ貼用シカタキ分證書裏面ヘ貼用致シ第二號圖ノ通調印致スヘキ事

右布告第八十一號證券印稅規則ノ改定ニ由リ印紙界紙亦變更セラレタリト雖モ從來ノ印紙界紙

ヲ遽ニ廢止スルハ事實上不便勘ナカラサルヲ以テ明治七年七月二十九日布告第八十二號ヲ以テ當分ノ內ハ從前ノ印紙界紙トモ取交使用スルヲ得ヘキ旨公布セリ而シテ前述證券印稅規則ノ變更ニ就テハ其施行ノ細則ナカルヘカラサルヲ以テ同年八月大藏省達第七十九號ヲ以テ證券印稅取扱心得書ヲ制定シ徵稅上依遵スル所アラシム卽左ノ如シ

大藏省達第七十九號（明治七年八月三日）

本年九月一日ヨリ更ニ證券印稅規則御施行相成候ニ付別紙證券印稅取扱心得書頒布候條此旨相達候事

證券印稅取扱心得書

第一　證券印紙界紙ハ長官名印ノ證書ヲ以テ租稅寮ヨリ請取ヘキ事

第二　地方ニ寄リ賣捌所願出無之場所ハ區戶長中人選ノ上申付差支ナキ樣取計フヘキ事

第三　賣捌所看板ハ府縣廳ニ於テ官費ヲ以テ製造シ相渡スヘキ事

第四　賣捌人廢業ノ節ハ勿論休業タリトモ看板ハ返上致サセヘキ事

第五　賣捌人ヘ印紙界紙渡方ノ儀ハ代金卽納ニ候ハヽ其高申立ニ任セ代金後納ナレハ當人分限ヲ見計ヒ一箇ニ付印紙界紙合金高多クモ一度ニ三百圓ヲ以テ限トシ相渡スヘキ事

第六　賣捌人水火盜難其外何樣ノ引負出來候共相達ナク辨納致ヘキ旨慥ナル證人相立第一書式ノ通連印ノ受書差出サセヘキ事

第七　印紙界紙稅金後納ノ賣捌人ヘハ手數料トシテ賣捌金高百分ノ四支給シ印紙界紙稅金卽納ノ者ヘハ其金高十分ノ一其都度支給スヘキ事

第八　印紙界印稅金卽納ノ賣捌人廢休業等ニテ看板返納ノ上印紙界紙共返上ノ儀願出候節ニ限リ印紙界紙引替稅金全額返戻スヘキ事

但印紙界紙ノ表摺レ又ハ染ミ跡等ノ損シアルモノハ返上相成ラス且返上ノ印紙界紙ニ相當セル手數料ハ最前相渡候內ヨリ更ニ返納スヘキ事

第九　五圓二十圓兩種ノ印紙ハ銀行又ハ貢金爲換方御用相勤候者ハ印紙賣捌所ノ許可イタシ看板相渡置爲賣捌可申候尤此兩種ニ限リ買取人名前爲認置年年二月中取纏メ租稅寮ヘ差出可申事

第十　賣捌人水火盜難等ニテ印紙界紙紛失候トモ代金辨償致スヘキ旨受書差出候儀ニハ候得トモ萬一其變動格別ニシテ事情憫諒スヘキモノハ其次第ヲ具狀シ處分ヲ乞フヘキ事

第十一　諸帳簿ヘ成規ノ通印紙貼用ノ有無調查トシテ一箇年一度ツヽ其廳廳ノ掛リ官員巡廻致スヘキ事但本年ノ儀ハ人民未タ慣習セサルニ付別ニ說諭ノ爲掛官員再應巡廻爲致候トモ不苦就テハ租稅寮官員派出爲致候儀モ可有之ニ付交互協議ヲ遂ケシムヘキ事

第十二　帳簿調查トシテ官員巡廻ノ儀ハ人民職業ノ妨碍不相成季節ヲ以テ豫テ日割ヲ定メ布達致置一區或ハ數區ヲ限リ其地形便宜ノ場所ニ於テ調查致スヘキ事

但區戶長竝賣捌人ノ儀ハ入民一般ノ訓導ニモ可相成者ニ付兼テ官員ニ於テ精精規則面等說諭致シ置可申事

第十三　印紙貼用ノ帳簿調查ノ節ハ帳簿ノ初丁ニ相記シ有之附込見積金高ヘ成規ノ通印紙貼用アリ哉否ヲ點檢シ若シ成規ニ觸レ候儀有之候ハヽ本年十二月三十一日マテニ說諭ヲ加ヘ

定規ノ通印紙貼用調印可爲致事

第十四　調査濟ノ帳簿ハ其初丁ニ記載アル附込見積金高ノ上ニ調査ノ官員小印ヲ捺シ可申事

第十五（第一類第二類）帳簿ノ附込見積金高又ハ第三類帳簿ノ期限等ノ相滿候節ハ成規ノ通リ帳末ニ附込合金高或ハ滿期ヲ記シ差出候ハヽ其帳簿ノ初丁ニ照シ調査ノ官員小印ヲ捺シ可申事

第十六（印紙代金下渡證書式）收稅計算表式第二雛形ノ通タルヘキ事

第十七　賣捌人ヨリ相納候印紙稅ハ取纏メ次第相納メ稅金高總計ハ年年六月十二月ヲ限リ前條收稅計算表ニ揭ケ七月中本省ヘ差出スヘキ事

第十八（印紙代金下渡證書式）印紙稅ハ一箇年ノ總計上計帳ヘ記載スヘキ事

第十九　管轄限賣捌人名增減帳ハ年年二月中租稅寮ヘ差出スヘキ事

第二十　增官員月給旅費竝賣捌人手數料其他印稅ニ屬スル諸費申受ノ手續及遣拂仕上ノ儀ハ去明治六年第四百二十七號ヲ以テ御達相成候金穀出納取扱ノ順序竝勘定帳雛形ニ準據スヘキ事（書式略）

斯クテ同年八月更ニ大藏省達第八十號ヲ以テ諸帳簿表紙ニ有稅無稅ノ別ヲ朱記スヘキ旨ヲ命スル旨ヲ以テ蓋シ徵稅事務執行上便宜ヲ計レルモノナリ其達文左ノ如シ

大藏省達第八十號（明治七年八月三日）

證券印稅規則公布相成候付テハ管下人民ヘ左之通可相達事

一　證券印紙貼用セル諸帳簿ハ其表紙ノ端ヘ（印稅濟）又附込見積金高百圓未滿ニテ印紙貼用ニ及ハサル諸帳簿ニハ前同樣無稅帳）ト顯然有稅無稅ノ分別ヲ朱ニテ相記シ取引先ノ便ニ供ス候樣可致事

但證券印紙貼用アルヘキ諸帳簿ヘ萬一印紙貼用無之儘ニテ授受致シ候節ハ帳簿主ノミナラス取引之上調印致シ候者ト雖モ證券印稅規則中賞罰例第十一條ノ通リニ候條各自精精注意可致事

右ノ如ク布告第八十一號證券印稅規則ノ改定ニ伴ヒ之ニ附屬ノ諸法規亦改定セラレタリシカ前述證券印稅規則中ニ從來ノ印紙規則ハ總テ之ヲ廢スル旨ノ規定アリシ爲メ從來ノ規定ハ右布告第八十一號ノ公布ト同時ニ消滅ニ歸シ右規則實施ノ日卽明治八年九月一日マテハ印紙稅ヲ課セサルヤノ疑ヲ生セルモノアリシヲ以テ八月七日布告第八十四號ヲ以テ布告第八十一號中「從來印紙規則總テ廢シ」トアルハ印稅規則施行當日ヨリ廢スル儀ト心得ヘキ旨ヲ達セリ而シテ新印稅規則施行ニ付テ從前ノ證書帳簿取扱方ヲ一定スルノ必要アルヲ以テ同年八月布告第八十六號ヲ以テ左ノ如ク公布セリ

布告第八十六號（明治七年八月二十日）

本年七月第六十一號本月第八十四號ヲ以テ證券印稅規則布告候處本月三十一日迄授受ノ證書類ハ其證書入用中竝證印濟ノ帳簿ハ其見積金高附込相滿候迄其儘可相用此旨布告候事

但金高無限（第一類ニテ五千圓以上第二類ニテ一萬九千圓以上）證印相受候帳簿竝荷物判取帳ハ紙數盡候迄可相用事」

然ルニ證券印稅規則第五則第九條ニ定ムル所ノ院省使府縣廳ヨリ銀行或ハ爲替方ニ預ケ入レタル官金ニ對スル預リ證書類ノ印紙貼用方ヲシテ民間一般預金ニ照準セシムルノ規定ハ固ト公平ノ趣旨ニ基クモノナルヘシト雖モ右貼用ノ印紙代ハ約定ノ預金手數料ノ外增金ヲ申請スルノ口

實タラシメ結局官ノ失費ニ歸著スヘキヲ以テ同年八月三十日布告第八十九號ヲ以テ該條ヲ削除シ更ニ第二則中ニ左ノ如キ一條ヲ追加シテ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル旨ヲ明ニセリ

一　院省使府縣廳ニ於テ銀行又ハ爲替方等ヘ貢金其他官金相預ケ候節預リ金證文竝預金通帳ハ印紙界紙ヲ用フルニ及ハサル事

而シテ新稅法ニ基ク界紙ハ同年九月五日布告第九十四號ヲ以テ其樣式ヲ定メ印紙ハ十月二十二日布告第百十一號ヲ以テ其見本ヲ公布セリ尋テ十二月二十四日布告第百三十六號ヲ以テ證券印稅規則第二則第一條第二類竝第三類諸證書中左ノ如ク加除更正ヲ施セリ蓋第二類證書中爲替手形荷爲替手形ノ如キハ固ト金融上大ニ奬勵スヘキモノニシテ稅法ニ於テモ亦可及的寬大ノ處置ニ出ツルヲ至當トスルヲ以テ置手形ハ全然課稅ヲ免シテ自在タラシメ爲替手形荷爲替手形ハ第二類中ヨリ排除シ第三類中ニ加ヘテ其稅額ヲ減少シ尙ホ從來規定ナカリシ諸品賣買仕切書ハ荷主ヨリ送致セル物品ノ價格竝ニ相場ヲ該荷主若クハ其他ニ於テ確知スルノ證ニシテ物品送附ノ際添附スル送狀ノ比ニアラサルナリ然ルニ送狀ハ之ヲ一類中ニ揭載シ仕切書ハ之ヲ無稅トナスカ如キハ甚タ權衡ヲ失スルヲ以テ之ヲ第二類中ニ追加スルコトヽ爲シタルナリ

布告第百三十六號（明治十二月二十四日）

本年七月第八十一號布告證券印稅規則第一條第二類竝第三類諸證書中左之通加除更正明治八年三月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

第二則第一條第二類中爲換手形竝ニ置手形及荷爲替手形ノ二項ヲ除キ左ノ一項ヲ加フ

一　諸品賣買仕切書

右ノ仕切書ハ

書面金高十圓未滿ハ　界紙ニ及ハス
同斷金高十圓以上二十圓未滿ハ　印稅一錢
同斷金高二十圓以上三十圓未滿ハ　同　二錢
同斷金高三十圓以上四十圓未滿ハ　同　三錢
同斷金高四十圓以上五十圓未滿ハ　同　四錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

第二則第一條第三類中ヘ左ノ二項ヲ加フ

一　爲替手形
一　荷爲換手形

右ノ手形ハ

書面金高五十圓未滿ハ　界紙ニ及ハス
同斷金高五十圓以上百圓未滿ハ　印稅一錢
同斷金高百圓以上百五十圓未滿ハ　同　二錢
同斷金高百五十圓以上二百圓未滿ハ　同　三錢
同斷金高二百圓以上二百五十圓未滿ハ　同　四錢

右以上幾許ノ高ニ至ルトモ總テ之ニ準シ印稅增加致スヘシ

同月二十五日布告第百三十七號ヲ以テ證券印稅規則第五則中ニ「一、委任狀ノ儀ハ都テ界紙ヲ相用

ヘキ事」ト追加シ委任狀ハ自今都テ界紙ヲ用キシムルコトヽ爲セリ蓋シ委任狀ハ界紙ヲ用フヘキ性質ノモノタルニ拘ハラス從來ハ別段ノ規定ナカリシカ爲メ往々白紙ヲ使用スル者アリタルヲ以テ特ニ明文ヲ設ケテ此弊ヲ除ケルナリ但シ右布告第百三十七號ニ由リ追加ノ條項ハ明治八年二月布告第十一號ヲ以テ明治八年四月一日ヨリ施行セリ而シテ證券印稅規則ノ改定ニ就テハ政府ハ汲々トシテ人民ノ誤解ノタメメ犯則スルモノナカラシメンコトヲ勉メ既ニ其心得方ヲ達示シ或ハ官吏ヲシテ訓示セシムル所アリシモ更ニ同年十二月大藏省達第百七十五號ヲ以テ帳簿檢查ノ際稅則違犯ノ者アルモ明治八年中ハ之ニ對シ特別ノ處分ヲ執リ專ラ訓戒ヲ旨トシテ處理セシムルコトヽセリ其達左ノ如シ

大藏省達第百七十五號（明治十二年二月二十七日）

本年七月第八十一號布告證券印稅規則中帳簿金高見積附込方竝印紙貼用ノ儀實際施行ノ日淺ク人民不馴ノ趣ニ相聞候ニ付帳簿調查ノ節ニ限リ假令稅法ニ相觸候儀有之候トモ規則新舊ニ不拘來明治八年中ハ專ラ訓導ヲ主トシ精精說諭ヲ加ヘ相當ノ印紙貼用可爲致此旨相達候事

明治八年一月二十日布告第四號ヲ以テ明治七年布告第八十一號證券印稅規則第五則第十條ヲ削除セリ蓋シ同條ニ於テ五圓二十圓ノ印紙ハ特ニ印紙貢捌ノ許可ヲ受ケタル各地銀行竝ニ各府縣廳爲換方ヲシテ賣捌カシムルコトヽ爲シタリシモ各地銀行モ當時極メテ少數ナリシノミナラス爲換方ノ內ニテ營業困難ノ爲メ閉店シタルモノモ亦少ナカラサリシカハ各地ニ於テ之カ買受ニ付キ大ニ不便ヲ感スルノ狀況ナリシヲ以テ自今右ノ制限ヲ解キ兩種印紙モ亦他ノ一般印紙ト均シク身元慥カナル者ニハ何人ヲ問ハス賣捌方ヲ許可スルコトヽ爲セルナリ

更ニ同年三月十七日大藏省達甲第八號ヲ以テ諸帳簿中第一、第二類等取交セ附込ムモノハ其合計見積金高ニ應シタル第二類印紙ヲ第三類帳簿ニ第一類第二類印紙ヲ並ヘ貼用シ之ニ第一類ノ外右ニ準シ第二類印紙ヲ並ヘ貼用シ之ニ第一類ノミヲ雜記スルトキハ第三類印紙貼用ノ外第一類印紙ヲ並ヘ貼用スルコトヽ爲シ以テ異種雜記ヲ許セリ蓋シ是ヨリ先キ明治七年印紙貼用諸帳簿ノ實地調查ヲ爲シタリシカ當時右帳簿中ニ各類ヲ雜載セルモノヲ發見セリ然ルニ若シ規則ニ從ヒ其類每ニ印紙ヲ貼用セシムルコトヽセハ其手數頗ル繁雜ニ涉ルノミナラス一朝之ヲ改正スルトキハ貼用者苦痛ヲ感スヘキヲ察シタルニ因ルナリ而シテ其後證券印稅規則中賞罰例ニ遺漏ノ點アリテ大ニ權衡ヲ得サルモノアルヲ發見シタリシヲ以テ同年四月布告第五十一號ヲ以テ印稅規則第四則中左ノ如ク改正增補ヲ施セリ

布告第五十一號（明治八年四月十日）

明治七年七月第八十一號布告證券印稅規則第四則中左ノ通改正增加候條此旨布告候事

證券印稅規則

第四則　賞罰例

第七條改正

一諸證書帳簿ニ證券印紙ヲ不足ニ貼用セシ者ハ其減稅高ノ十倍其證書受取タル者ハ減稅高五倍ノ科料タルヘキ事

第八條但書增加

但其調印セサル證書ヲ受取リタル者ハ渡主ニ科スル半高ノ科料タルヘキ事

第十五條增加

一　證券印紙貼用スヘキ界紙ニ認メ渡ス者ハ減稅高ノ十倍其證書受取リタル者ハ減稅高五倍ノ科料タルヘキ事

明治七年布告第八十一號證券印稅規則ノ規定ニ依レハ印稅規則違犯ノ證書竝ニ帳簿ヲ授受セル者ハ其證書帳簿ニ關スル裁判ヲ受理セサル旨ヲ定メ特定ノ場合ニハ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取上裁判スヘキ旨ヲ定メタルモ同法施行以前ノ此等書類ニ對シテモ亦右ニ準シ處理スルヲ便トスルヲ以テ明治八年五月布告第八十三號ヲ以テ左ノ如ク公布セリ

布告第八十三號（明治八年五月十二日）

明治六年六月一日以後同七年八月三十一日以前ニ取結ヒタル諸約定ニテ印紙ヲ貼用セス或ハ界紙ヲ用ヒサル證書ヲ取置クカ又ハ附近ノ請取簿ニ押印ヲ受ケサル者ハ聽訟裁判上無據事故ノ有無ニ因リ繰上クルト繰上ケサルトノ別之レアリ候處七年七月第八十一號布告ヲ以テ證券印稅規則改定相成候ニ付テハ六年六月一日以後七年八月三十一日以前ノ分ト雖モ右規則ニ準シ證書受取主或ハ帳簿主ニ於テ舊規則相當ノ印紙ヲ自分ニテ貼用押印ノ上訴出ル時ハ採上裁判ニ及候條此旨布告候事

而シテ從來各廳ニ於テ諸商人又ハ諸職工ニ用向ヲ申付クル際取置クヘキ受書中其事件ニシテ受負又ハ約定ニ涉ルモノハ宜シク證券界紙ヲ使用セシムヘキモノナルニ拘ラス證券印稅規則中之ニ關スルノ明文ナカリシ爲メ之カ處分ニ付差支ヲ生シタリシヲ以テ同年七月二十二日布告第百二十號ヲ以テ此等ノ受書ハ自今規則第二則第一條第二類諸證書中諸受負證文及ヒ金錢約定證文ニ照準シ又其受書ニシテ金高ヲ記載セサル分ハ第三類金高記載無之約定證書ニ照準スルコトヽ爲セリ後又漸次稅則ヲ施行スルニ隨ヒ米及雜穀預リ證文ノ如キ金錢預證文ト全ク同性質ナルニ拘ハラス規則中規定ナキカ爲メ稅則ノ適用ヲ免レ甚タ不權衡ナル結果ヲ生スルヲ發見シ同年八月布告第百二十六號ヲ以テ規則第二則第一條第一第二類諸證書中ニ左ノ追加ヲ爲セリ

布告第百二十六號（明治八年八月八日）

明治七年七月第八十一號布告證券印稅規則第二則第一條第一類同第二類諸證書中へ米竝ニ雜穀預リノ項左ノ通追加候條此旨布告候事

第二則第一條第一類諸證書中

一　預リ米　○○（證文手形）

一　預リ雜穀　○○（證文手形）

右ノ證書ハ米（高五石）雜穀（高十石）以上ハ總テ一錢ノ印稅米（高五石）雜穀（高十石）未滿ハ界紙ヲ用フヘシ

同第二類諸證書中

一　預リ米　○○（證文手形）　但使用ヲ爲サヽル明文無之分

一　預リ雜穀　○○（證文手形）　但使用ヲ爲サヽル明文無之分

證券印稅規則ニ依リ諸帳簿檢查ノ際犯則者アル場合ノ特別處分方ニ就テハ明治七年大藏省達第百十五號ヲ以テ明治八年ヲ限リ檢擧ヲナサス專ラ訓戒ヲ與フヘキ旨ヲ達シタリシカ明治九年七月四日大藏省達第六十八號ヲ以テ明治九年以後ト雖モ尙右ノ達ニ依リ取扱フヘキ旨ヲ命セリ是ヨリ曩キ證券印稅規則ノ改定ニ伴ヒ印紙界紙亦全ク變更セラレタルモ從來ノ印紙界紙モ當分使

用ヲ許スヘキ旨明治七年布告第八十二號ヲ以テ公布シタリシカ明治九年十二月布告第百五十五號ヲ以テ府縣ニ於テ製造ノ舊證券界紙ハ明治九年十二月三十一日限リ使用ヲ許サヽルル旨ヲ公布セリ

斯クテ明治十一年ニ至リ起業公債ヲ起シタリシカ同公債ハ實ニ我邦ニ於テ公債ヲ募集シタルノ嚆矢ニシテ印稅規則ハ此種ノ場合ニ於ケル人民ノ由込書竝割掛出金ノ受取書ノ如キハ未タ豫想セサリシナリ故ニ若シ稅則ノ明文ヲ以テ之ヲ斷センカ此種申込書受取書假證券ノ如キモ亦相當ノ印紙ヲ貼用スヘキニ似タリト雖モ之カ取扱ヲ爲ス三井銀行及第一國立銀行ハ政府ノ委任ヲ受ケテ取扱フモノナルカ故ニ印紙及界紙ヲ用フルニ及ハサルヘシトノ議アリ依テ明治十一年五月二十一日太政官ヨリ其旨大藏省ニ指令シ併セテ司法省ニ達示セリ而シテ又銀行當座預金小切手ハ由來十圓以上ハ規則ニ從テ印紙ヲ貼用シ來リタリシモ斯ノ如キハ融通上金錢受授ノ繁雜ヲ省ク趣旨ニ反スルヲ以テ玆ニ歐米ノ例ニ倣ヒ小切手ノ每丁ヘ印紙ヲ貼用セスシテ豫メ印稅ヲ納付セシメ稅印ヲ押捺スルコトヽシ一ハ以テ融通ノ敏活ヲ計リ一ハ以テ印紙製造ノ費用ヲ省略スルコトヽシ之レト同時ニ證券印稅規則ノ第二類證書中諸品賣買仕切書ハ從來往々其性質ヲ誤解シ印紙ヲ貼用セサルモノアリタルヲ以テ玆ニ其性質ヲ明記スルコトヽ爲シ明治十二年八月布告第三十一號ヲ以テ規則第一條第二類第三類諸證書中ニ左ノ如キ追加ヲ爲セリ

布告第三十一號（明治十二年八月七日）

明治七年七月第八十一號布告證券印紙稅規則中左ノ通追加シ來ル十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

第二則第一條第二類諸證書中諸品賣買仕切書ノ傍ヘ左ノ但書追加

但買仕切トハ荷主ヨリ輸送シ又ハ輸送セントスル物品ヲ問屋仲買又ハ其他ニ於テ仕切リ其價格等ヲ荷主ヘ證明報告スル書類ヲ云ヒ賣仕切トハ荷主ヨリ他ニ物品ヲ販賣又ハ輸送スル方テ其物品賣却ノ價格ヲ荷受主ニ向テ證明報告スル書類ヲ云フ

同則同條第三類證書中追加

一　銀行當座預リ金小切手

右ノ小切手ハ金高ニ係ハラス總テ一錢ノ印稅ヲ徵收シ大藏省ニ於テ稅印ヲ押捺スルモノトス

右ノ布告ニ依リ銀行當座預金小切手稅印押捺ノ制度實施ニ就テハ同年九月二十四日布告第三十九號ヲ以テ右小切手ニ押捺スヘキ稅印ノ形式ヲ一定セリ而シテ右布告第三十一號ニ依レハ小切手稅印ハ同年十月一日ヨリ實施セルモ直ニ全國一般ニ施行スル能ハサル事情アルヲ以テ同年十月十日布告第四十三號ヲ以テ明治十三年六月三十日限リ證券印紙ヲ使用スルヲ得ヘキ旨公布セリ又右小切手押印方ニ就テハ同年九月二日大藏省達ヲ以テ稅印ハ大藏省租稅局ニ於テ押捺スルヲ以テ稅金ハ出納局ヘ現金ヲ以テ納付シ同局預リ切符ヘ稅金上納證書ヲ副ヘ小切手ト共ニ租稅局ヘ差出スヘキ旨ヲ達セリ然ルニ明治十三年十月二十六日大藏省達乙第三十六號ヲ以テ其手續ヲ更正シ小切手ニ稅印押捺ヲ請フトキハ預ケ證書ニ稅金ヲ添ヘ大藏省爲替方（東京ハ駿河町三井銀行大阪ハ高麗橋三非銀行）ニ差出シ右證書ニ稅金預濟ノ證印ヲ受ケ之ニ小切手牒ヲ添ヘ租稅局東京萬世橋出張所又ハ同大阪出張所ヘ差出スヘキ旨ヲ定メ明治十四年一月一日ヨリ實施セリ斯クテ明治十四年七月十六日大藏省達乙第十六號ヲ以テ小切手稅印押捺出願方ヲ改正シ稅印押捺ヲ請フ者ハ其枚數ヲ詳

記セル書面ヘ小切手ヲ添テ租稅局東京萬世橋出張所又ハ同大阪出張所ヘ差出シ出張所ニ於テ押印濟枚數確定ノ儀ヲ達セルトキハ此枚數ニ對スル稅金ニ預リ證書ヲ添ヘ大藏省爲替方東京(第一銀行)大阪(ハ高麗橋三井銀行)ニ差出シ右證書ニ稅金預リ濟ノ證印ヲ受ケ出張所ヘ上納スヘキ旨ヲ定メタリ

然ルニ其後備荒儲蓄金ヲ爲替方等ニ預入レタル場合ニ其預リ證書ニ對シテハ七年布告第八十九號ヲ適用シテ印紙界紙共ニ之ヲ用ユルニ及ハサルヤ否ヤニ付キテ大ニ疑問ヲ生シタリシカハ明治十四年七月二十二日大藏省ヨリ太政官ニ伺出テタリシニ同年九月十六日太政官ハ印紙界紙共ニ之ヲ使用スヘキ旨ヲ指令セリ蓋シ該儲蓄金タル官金ト同一ニ論スヘカラサルヲ以テナリ

第三款　印紙稅ノ第三期

前段述フル如ク證券印稅規則ハ明治七年布告第八號ヲ以テ改正セラレ爾來須要ニ應シテ幾度カ修正變更ヲ加ヘラレタリシモ當時各地ニ於ケル財產ノ受授竝ニ契約ノ證明ニ用キラルヽ證書帳簿ノ數極メテ多ク其名稱ニ於テモ素ヨリ一定ノ規律ナカリシヲ以テ各地ノ方言慣稱ニ從ヒタレハ其性質ハ有稅ト認メラルヘキモノモ其名稱ノ異ナルヨリシテ往々無稅トナルモノアリタリ此ノ如キハ畢竟舊規成文ノ不備ニ職由スルモノナリ特ニ規則ニ定ムル稅率ハ或ハ彼ニ重ク或ハ此ニ輕ク權衡其宜シキヲ得サルモノ少ナカラス其罰則ノ如キモ當時新刑法施行ノ際ニシテ宜シク寬嚴ヲ審査シ他ノ罰則ト平準ヲ得セシムル必要アリ其他從來發行セル證券界紙ハ製造及運搬ニ費用ヲ要スルコト甚タ多キヲ以テ總テ印紙貼用ノ法ヲ採ルノ簡便ナルニ如カス是ニ於テカ明治十七年五月一日布告第十一號ヲ以テ舊規則ヲ取捨增減シ更ニ改正規則ヲ定メタリシカ新規則ニ於テハ舊來ノ證券界紙ヲ全廢シ特ニ印稅押捺ヲ許容スル所ノモノヽ外ハ凡テ印紙貼用ノ制度ヲ採レリ但シ爲換及約束手形用紙ニアリテハ手形用紙ヲ用キシメ以テ取引上ノ便宜ヲ計リタリ而シテ稅率ニ付テハ新規則ハ凡テ之ヲ二類ニ分チ其單純ニ印紙ヲ貼用スル證書帳簿ヲ第一類トシ其記載高ノ金員ニ比例シテ印紙貼用額ヲ增加スルモノヲ第二類トシタリ是レ畢竟證書帳簿ノ性質ニ隨ヒテ印紙ヲ貼用セシメ以テ逋稅ノ弊ヲ根絕セントセハ努メテ其種類及區分ヲ簡明ナラシムルヲ要スルヲ以テナリ要スルニ新稅法ハ舊來ノ稅則ニ比シ大ニ其面目ヲ改メ租稅制度ノ上ニ於テ著シキ進步ヲ爲セリ新規則ノ全文ヲ擧クレハ左ノ如シ

布告第十一號（明治十七年五月一日）

明治七年第八十一號布告證券印紙規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年七月第百二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス

證券印紙規則

第一條　凡ソ財產ノ授受及契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條　證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ揭クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラス下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但シ當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フコトヲ得

一　當座預金引出小切手　　印稅五厘

一　委任狀　　同　五厘

一 金高記載ナキ約定證文	印稅一錢
一 遺金物證文	同一錢
一 跡式讓證文	同一錢
一 期限ヲ定メサル預リ金證文	同一錢
一 耕地小作證文	同一錢
一 雇人請合狀	同一錢
一 金高記載ナキ諸物品預リ證文	同一錢
一 金高記載ナキ諸物品借用證文	同一錢
一 地所家屋預リ證文	同一錢
一 諸物品切手	同一錢
一 借地借家證文	同一錢
一 賣買仕切書	同一錢
一 保險證文	同一錢
一 諸會社株券	同一錢
一 送金手形	同一錢
一 金錢諸物品通帳	一年以內一冊ニ付同一錢
一 金錢諸物品判取帳	同 同二十錢
一 結社約定書	同 同一錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ效力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ揭クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一 營業ニ關スル送狀	印稅一錢
一 營業ニ關スル請取書	同一錢

右請證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以內一冊ニ付一錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ揭クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ從ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ

但爲換手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

一 金錢借用證文	印稅一錢
一 地所家屋賣買證文	同二錢
一 金高記載アル諸物品預リ證文	
一 金高記載アル諸物品借用證文	
一 諸物品賣買證文	
一 金錢定期預リ證文	
一 金高記載アル諸般ノ契約證書	
金高一圓以上二十圓未滿	
金高二十圓以上五十圓未滿	

金高五十圓以上百圓未滿　印稅四錢
金高百圓以上百五十圓未滿　同　六錢
金高百五十圓以上二百圓未滿　同　八錢
金高二百圓以上三百圓未滿　同　十一錢
金高三百圓以上四百圓未滿　同　十四錢
金高四百圓以上六百圓未滿　同　二十錢
金高六百圓以上八百圓未滿　同　二十六錢
金高八百圓以上千百圓未滿　同　三十二錢
金高千百圓以上千四百圓未滿　同　三十八錢
金高千四百圓以上千七百圓未滿　同　四十四錢
金高千七百圓以上二千圓未滿　同　五十錢
金高二千圓以上二千五百圓未滿　同　六十錢
金高二千五百圓以上三千圓未滿　同　七十錢
金高三千圓以上三千五百圓未滿　同　八十錢
金高三千五百圓以上四千圓未滿　同　九十錢
金高四千圓以上　同　一圓

右諸證書ヲ通帳トナストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル處ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿　印稅四錢
金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ

一　金錢當座預リ證文　印稅一錢
一　質物預リ書小札　金高一圓以上二十圓未滿　同　二錢
金高二十圓以上　同　四錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿　印稅二錢
金高百圓以上　同　四錢

一　爲替手形　印稅一錢
一　荷爲替手形　同　二錢
一　約束手形
金高五十圓未滿　同　四錢
金高五十圓以上百圓未滿　同　八錢
金高百圓以上二百圓未滿　同　十五錢
金高二百圓以上五百圓未滿　同　二十五錢
金高五百圓以上千圓未滿　同　三十五錢
金高千圓以上二千圓未滿　同　四十五錢

金高二千圓以上

第三條　前條ニ揭クル所ノ證書帳簿ト效用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラス稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條　印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限リニ在ラス

第五條　印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ受授ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印スヘシ

第六條　印紙及手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　印紙及手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條　印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送狀ハ主任官之ヲ檢查スルコトアルヘシ

第九條　左ニ揭ケル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一　官廳ヨリ差出證書帳簿

一　官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書

一　國庫金取扱書又ハ爲替方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書

一　國庫金取扱所又ハ爲替方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿

一　金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲替方ヨリ差出ス請書

一　諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲替方ヨリ納人ヘ差出ス請取證書

一　罹災救助金獻金寄付金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

第十條　第二類ノ帳簿ハ初丁ヘ附込見積金高及使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條　證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條　印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢查ノ節之ニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條　前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條　第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ增加シタル紙數ヲ記載スヘシ

事由及增加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條　證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條　取換セ證書ハ雙方共相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條　證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト效用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ增減ヲ生スルモノハ其副書又ハ裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條　此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條　印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取ルモノ亦同シ

第二十條　第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印稅高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條　此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條　第八條ノ證書帳簿ノ檢查ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條　第七條ヲ犯シタルモノニハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　前數條ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス」

右證券印稅規則草案ニ於テハ當初印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價モ亦同規則中規定シタリシモ太政官ニ於テ審議ノ際印紙類ハ時ニ改正或ハ加削セサルヘカラサルコトアルハ免カルヘカラサル所ニ屬スルヲ以テ之ヲ布告中ニ明記シ隨テ之カ改正加削ノ度毎ニ布告ヲ發スルハ大ニ不便ナリトシ遂ニ該布告中之ニ關スル詳目ヲ布達ニ讓ルコトヽセリ仍テ右布告發令ノ當日卽五月一日太

政官布達第十二號ヲ以テ印紙及手形用紙ノ種類竝定價ヲ左ノ如ク定メタリ

布達第十二號（明治十七年五月一日）

今般第十一號布告ヲ以テ證券印稅規則改正候ニ付テハ印紙及手形用紙ノ種類定價左ノ通リ相定ム

但印紙ハ當分ノ內新舊取交使用スルヲ得

印紙

赭　色	定價五厘
橙黃色	同　一錢
黃綠色	同　二錢
萠黃色	同　五錢
桔梗色	同　十錢
青　色	同　二十五錢
淡黑色	同　五十錢
赤　色	同　一圓

手形用紙

老綠色	定價一錢
桔梗色	同　二錢
淡黑色	同　四錢

橙黃色	定價八錢
淡赭色	同 十五錢
淡紅色	同 二十五錢
淡青色	同 五十錢

曩ニ明治七年十二月大藏省達第七十五號同九年七月同第六十八號ヲ以テ帳簿檢查ノ際犯則者特別處分方ヲ定メシモ印紙稅法ノ實施以來既ニ數年ヲ經過シ人民亦此制度ニ慣レタルヲ以テ新稅法ノ實施ニ伴ヒ之ヲ廢止シ此種ノ犯則者亦成規ヲ以テ處斷スルノ必要ヲ認メ明治十七年五月二十二日大藏省達第五十二號ヲ以テ前揭達ヲ廢止スル旨ヲ公布セリ次テ同年六月十八日大藏省告示第七十五號ヲ以テ當座預金引出小切手押印出願及納稅手續ヲ定メ稅印押捺ヲ請フトキハ其枚數ヲ詳記セル書面ヘ小切手ヲ添ヘ主稅局ニ於テハ押印濟ノ上其枚數ヲ願人ニ達シ願人ハ此枚數ニ對スル稅金ニ預ケ證書ヲ添ヘ東京國庫金取扱所ニ差出シ該證書ニ稅金預リ濟證印ヲ受ケ小切手引換ニ同局ヘ上納スヘキモノトセリ而シテ證券印稅規則改正ノ結果小切手ヘ押捺スヘキ稅印竝ニ證券印紙手形用紙ノ樣式ヲ定ムルノ必要アルヲ以テ同年六月三十日布達第十六號ヲ以テ之ヲ公布セリ

又舊稅法時代ニ在リテハ帳簿類ニ付テハ當局官吏巡回調查ノ事アリタリト雖モ證書類ニ關シテハ未タ其事ナカリシノミナラス之ニ關シ別段ノ手續等ヲ設クルコトナカリシニ新規則ニ於テハ其第八條ニ於テ印紙ヲ貼用スヘキ帳簿ノ外仕切書送リ狀ハ亦主任官之ヲ檢查スルコトアルヘキ旨ノ規定ヲ設ケ併セテ檢查ニ關スル特別ノ規定ヲ設クルコトヽナセリ右ノ規定ハ證券印稅檢查

規程ト題シ八月十三日大藏省達第六十號ヲ以テ達示スル所ニ係ルモノニシテ其全文ハ左ノ如シ

大藏省達第六十號（明治十七年八月十三日）

本年五月第十一號布告ヲ以テ證券印紙改正相成候ニ付右檢查規程左ノ通相定ム

證券檢查規程

第一項　府縣收稅官吏明治十七年十一號布告證券印稅規則第八條ニ記載セル證書帳簿ノ檢查ヲ行フヘシ

第二項　檢查ヲ分テ二ト爲シ一ヲ定期檢查トシ一ヲ臨時檢查トス

第三項　定期檢查ハ每年四五六ノ三ケ月間ニ於テ之ヲ行ヒ臨時檢查ハ該檢查ヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ行フヘシ

第四項　檢查員ヲ派遣スルニハ府縣管內ヲ數部ニ區畫シ每部其擔當員二名以上ヲ定ムヘシ

第五項　檢查員ハ其擔當部內ノ商況戶數及路程ノ遠近ニ應シ一町村若クハ數町村ヲ以テ一區トシ區內ノ便宜ヲ量リ檢查場ヲ設クヘシ

第六項　檢查員ハ豫メ檢查日割ヲ定メ其日割及前條檢查場ヲ其區內ノ町村ニ告知スヘシ

第七項　臨時檢查ノ節ハ時宜ニヨリ前第五項第六項ノ手續ヲ履行セサルコトアルヘシ

第八項　檢查ハ力メテ便捷ヲ要シ人民ノ營業ニ障害ナキヲ圖ルヘシ

第九項　檢查員檢查ノ要領左ノ如シ

一　證書帳簿上印紙貼用ノ有無當否

一　帳簿見積金高及使用期限紙數記載方ノ有無當否

一 貼用印紙消印ノ有無當否

一 印紙再貼用又ハ印紙偽造變造ノ有無

一 帳簿調製上詐偽ノ有無

一 證書帳簿差出方店舗商況ニ相應スルヤ否ヤ

第十項 檢查員ハ豫メ帳簿ヲ備ヘ受檢查人ノ宿所職業姓名及證書帳簿ノ種類員數ヲ記載スヘシ

第十一項 證書帳簿ノ檢查ヲ受ケサルモノ又ハ之ヲ受クルモ尙疑訝ニ涉ルモノアルトキハ直ニ本人家宅ニ就テ檢查ヲ爲スヘシ

第十二項 檢查員ハ檢查セシ證書帳簿ニ檢印スヘシ

第十三項 檢查濟證書帳簿ノ種類員數及犯則ニ係ル證書帳簿ノ員數ハ一回取纏メ左ノ報告書式ニ倣ヒ收稅長ヨリ主稅局ニ報告スヘシ

但臨時檢查ノ節ハ檢查ノ實況ヲ報告スヘシ

尋テ明治十八年四月十六日大藏省達第十七號ヲ以テ右證券印稅檢查規程中改正ヲ加ヘ其第十三項ヲ削除セリ蓋シ該條規定スル所ノ報告書ハ別段ノ效用ナキヲ認メタルヲ以テナリ

明治十九年四月十日大藏省告示第三十二號ヲ以テ當座預金引出小切手押印稅徵收取扱方ヲ改メ從來大藏省ニ於テ取扱ヒタルモ明治十九年度以降右徵收ハ當分ノ內東京府各區役所ニ於テ之ヲ取扱フモノトセリ斯クテ同年六月大藏省訓示ヲ以テ金高記載ナキ諸物品證書ト雖モ利子ヲ付スヘキ契約書ニハ印紙ヲ貼用セシムヘキ旨ヲ訓示ス蓋シ從來ノ取扱方區々ニシテ一定セサルモノ

アリシヲ以テナリ

大藏省訓示（明治十九年六月二十八日）

從來金高記載ナキ諸物品（預リ借用）證文ト雖其利子ヲ付スヘキ契約（例ヘハ米一石ヲ借リ一石一斗ヲ返濟スヘキヲ契約スルノ類）ア

ルモノニハ該物品ノ價額ヲ記載セシメ證券印稅規則第二條第三類第三項若クハ第四項ニ準シ印紙貼用セシムヘキ旨及指令置候向モ有之候處右ハ自今同則第一類第十項若クハ第十一項ニ準シ印紙貼用セシムヘシ

右訓示ス

明治二十年六月大藏省令第十號ヲ以テ稅印押捺小切手（捺ニ關スル件ヲ定メ左ノ手續ニ依ラシム

大藏省令第十號（明治二十年六月十七日）

明治十二年第三十一號布告ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケタル小切手竝十七年第十一號布告ニ依リ押印ヲ受ケタル引出小切手ノ未タ使用セサルモノニシテ銀行會社ノ合併其他ノ事故ニ由リ不用ニ屬スル分ハ更ニ稅印ノ捺換ヲ請フコトヲ得但十七年七月以後ノ押印ニ係ル者ハ手數料トシテ一割ヲ減シ卽チ舊小切手百枚ニ對シ新小切手九十枚ノ割合ヲ以テ稅印ヲ捺換スル者トス」

而シテ銀行當座貸越金及「コルレス、ボンデンス」約定書ニ證券印紙貼用方ニ付テハ證券印稅規則ノ適用上各地共取扱方一定セス各銀行者ニ於テ頗ル不便ヲ感セシヲ以テ明治二十一年八月二十日大藏省ハ各銀行ニ對シ凡ソ貸借スヘキ金高ヲ明記シタル證書ハ現金取引ノ如何ニ拘ハラス證券印稅規則第二條第二類第七項ニ據リ相當ノ印紙ヲ貼用スヘキ旨ヲ通知セリ尋テ明治二十二年四

月三十日大藏省告示第四十一號ヲ以テ證券印稅規則第二條第一類證書中當座預金引出小切手押印稅徵收方ハ從來東京府各區役所ニ於テ取扱ヒ來レルヲ改メ同年五月一日ヨリ東京府廳ニ於テ之ヲ取扱フコトヽナシタリシカ翌明治二十二年八月十九日大藏省告示第六十七號ヲ以テ更ニ之ヲ改メ自今大藏省印刷局構內主稅局印紙稅課派出所ニ請求スヘキモノトセリ

明治二十三年四月三日法律第三十號ヲ以テ證券印稅規則第九條ニ「一切手、手形類ノ裏面ニ記載シタル受取書」ノ一項ヲ加ヘタリシカ蓋シ切手手形類ノ裏面ニ表面金額ノ受取ヲ證明スルニ止マルモノハ取引上ノ便利ヲ謀リ特ニ證券印紙稅ヲ免除スルノ必要アルニ由ルナリ」

明治三十一年七月勅令第百四十號ヲ以テ印紙制度ヲ改正シ從來ノ五種ノ印紙ヲ廢シテ新ニ收入印紙ヲ設ケタリ是ニ於テ證券印紙稅モ爾後收入印紙ヲ以テ徵收スルモノトセリ然レトモ當分ノ內ハ尙ホ舊ニ依リ證券印紙ヲ以テ代用スルヲ得ルコトヽナセリ

第四款　印紙稅ノ第四期

上來述ヘタル處ノ如ク證券印紙規則ハ明治十七年ノ制定ニ係リ爾後屢々改正ヲ加ヘタルニ拘ラス尙ホ錯雜不備ノ點多キノミナラス漸次時勢ノ進歩シ商業取引ノ發達スルニ從ヒ從來ノ規程ハ漸次經濟社會ノ實狀ニ適セサルニ至レリ是ニ於テカ明治三十二年三月九日法律第五十四號ヲ以テ證券印紙規則ヲ廢止シ新ニ印紙稅法ヲ制定シ以テ稅率ヲ單純ニシ小切手ヲ免稅シ其他爲替手形約束手形株券債券船荷證券其他ノ證券ニ稅印ノ押捺ヲ受クルコトヲ得セシムル等專ラ納稅者ノ便利ヲ圖リ以テ社會ノ狀況ニ適應スルノ法律ヲ制定セリ其全文左ノ如シ

法律第五十四號（明治三十二年三月八日）

印紙稅法

第一條　財產權ノ創設、移轉、變更、消滅ヲ證明スヘキ證書帳簿及財產權ニ關スル追認若ハ承認ヲ證明スヘキ證書ヲ作成スル者ハ此ノ法律ニ依リ印紙稅ヲ納ムヘシ

第二條　證書ニ關シテハ一通每ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ記載金高一萬分ノ五ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ但シ印紙稅額五十圓トナルトキハ五十圓ニ止メ一錢未滿トナリ又ハ一錢未滿ノ端數ヲ生スルトキハ一錢ニ切上クルモノトス

金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價格ノ單位又ハ其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第三條　爲替手形約束手形ハ一通每ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限リ左ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ

金高二千圓未滿　印紙稅二錢

金高二千圓以上　印紙稅十錢

第四條　左ニ揭クル證書帳簿ニ關シテハ證書ハ一通每ニ帳簿ハ一冊一年以內ノ附込ニ對シ下ニ定ムル所ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

一　委任狀　印紙稅一錢

一　銀行預金證書　印紙稅二錢

一　船荷證券　印紙稅二錢

一 運送貨物引換證 印紙稅二錢
一 倉荷預證券 印紙稅二錢
一 倉荷賃入證券 印紙稅二錢
一 保險證券 印紙稅二錢
一 株券 印紙稅二錢
一 債券 印紙稅二錢
一 株式申込書 印紙稅二錢
一 地上權、永小作權、地役權ニ關スル證書 印紙稅二錢
一 使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書 印紙稅二錢
一 定款及組合契約書 印紙稅二錢
一 權利ノ變更ニ關スル證書 印紙稅二錢
一 追認承認ニ關スル證書 印紙稅二錢
一 物品切手 印紙稅二錢
一 賣買仕切書 印紙稅二錢
一 送狀 印紙稅二錢
一 受取書 印紙稅二錢
一 金高記載ナキ證書 印紙稅二錢
一 擔保品差入證書、擔保品預證書 印紙稅二錢

一 通帳 印紙稅二錢
一 判取帳 印紙稅二十錢

第五條 左ニ揭クル證書帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書帳簿
一 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
一 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
一 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル金員物件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳又ハ公署ニ提出スル證書
一 俸給、給料、歲費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金受取證
一 小切手
一 金高五圓未滿ノ爲替手形約束手形
一 營業ニ關セサル受取書
一 金高五圓未滿若クハ金高記載ナキ送狀受取書賣買仕切書
一 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約
一 證券ノ裏書又手形ノ裏面ニ記載シタル受取書
一 株券、債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏書記載
一 手形ノ引受保證
一 手形及證券ノ複本謄本

第六條　印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス但シ爲替手形、約束手形、船荷證券、運送貨物引換證、倉荷預證券、保險證券、株券、債券ハ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納附シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

第七條　一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

第八條　證書ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國貨幣ニ換算シタル金高ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘシ

第九條　印紙ヲ貼用スルトキハ證書又ハ帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ證書又ハ帳簿作成者ノ印章又ハ署書ヲ以テ判明ニ之ヲ消スヘシ

第十條　印紙ヲ貼用スヘキ帳簿賣買仕切書送狀ハ當該官吏之ヲ檢查スルコトアルヘシ

第十一條　證書、帳簿ニ相當ノ印紙ヲ貼用セス又ハ第六條但書ニ依リ稅印ノ押捺ヲ受ケサル者ハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス

第十二條　第十條ノ檢查ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　第九條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十四條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪、減輕再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用キス

附則

第十五條　此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十六條　明治十七年第十一號布告證券印稅規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十七條　明治十七年第十一號布告證券印稅規則ニ依ル手形用紙ニシテ此ノ法律施行ノ際自用者ノ所持ニ係ルモノハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍之ヲ使用スルコトヲ得但シ手形用紙記載ノ稅金高以上ニ之ヲ使用セムトスルトキハ其ノ不足額ハ印紙ヲ貼用シテ之ヲ補足スヘシ」

次テ前揭印紙稅法第六條ニ依ル稅印押捺請求方ニ關シ明治三十二年三月十一日大藏省ハ省令第五號ヲ以テ左ノ如ク定メタリ

大藏省令第五號（明治三十二年三月十一日）

印紙稅法第六條ニ依リ證書ニ稅印ノ押捺ヲ求メムトスル者ハ所轄稅務署ニ申出稅金ヲ納付シ其領收證書又ハ稅務署ノ納稅濟證明書ヲ添ヘ用紙ト共ニ請求書ヲ大藏省ニ提出スヘシ

從來ノ印紙稅法ニ於テハ爲替手形約束手形ハ一通每ニ其記載金高五圓以上ノモノニ限リ二千圓未滿ハ印紙稅二錢、二千圓以上ハ印紙稅十錢トナシタルモ實際上頗ル不便ナルカ故ニ之ヲ改定スルノ必要アリシニ依リ明治三十四年四月法律第十六號ヲ以テ印紙稅法中左ノ通改正セリ

法律第十六號（明治二十四年四月二日）

印紙稅法中左ノ通改正ス

第三條　削除

第四條中委任狀ノ次ニ左ノ二號ヲ加フ

一　爲替手形　印紙稅二錢

一　約束手形　同　二錢

第六條中「爲替手形、約束手形、船荷證券、運送貨物引換證、倉荷預證券、保險證券、株券、債

券ハ」ヲ削ル

從來税印ノ押捺ヲ請求スルニハ大藏省ニ其請求書ヲ提出スヘキ規定ナリシモ斯クテハ地方ニ於ケル請求者ニ取リテ甚不便ナルカ故ニ全國樞要ノ地ニ於テ請求スルコトヲ得セシメンカ爲メニ明治三十四年八月三日大藏省令第十六號ヲ以テ明治三十二年大藏省令第五號中ヲ改正シ「大藏省トアルヲ改メ「東京、大阪、横濱、神戸、長崎、函館、名古屋各税務管理局」ト爲シ又法律第十六號ヲ以テ印紙税法第六條ノ改正セラレタル結果同省令中「證書ニ」ノ三字ヲ削除セリ

印紙税收入額

年度	證券印紙税	小切手押印税	手形用紙税	證券罫紙税	合計
第六期	○ 円	○ 円	○ 円	○ 円	○ 円
第七期	○	○	○	○	○
第八期	○	○	○	○	○
明治八年度	○	○	○	○	○
同九年度	三七〇、六〇四、二九四	○	○	○	○
同十年度	四三九、九二八、六九六	○	○	○	○
同十一年度	五一九、三七一、三六一	三、三五一、九三〇	○	○	○
同十二年度	六二七、二〇四、四三一	三、三五一、九三〇	○	○	○
同十三年度	八〇二、〇六九、九五二	八、二三四、二六〇	○	○	○
同十四年度	八一八、七五七、四七六	九、三八九、〇〇〇	○	○	○
同十五年度	八〇三、七〇七、二七七	一〇、三六五、七〇〇	○	○	○
同十六年度	六二〇、三八一、五四九	七、〇五五、〇一〇	○	○	○
同十七年度	六五八、六二四、二六	二、六七四、六一〇	○	○	○
同十八年度	四二九、〇二八、九一八	一、二一〇、〇六五	○	○	○
同十九年度	五七七、〇一七、一七二	一、八九五、九六五	○	○	○
同二十年度	五四九、六九三、二三八	二、七九四、五九〇	○	○	○
同二十一年度	九九九、二六八、〇〇〇	二、七四五、〇〇〇	○	○	○
同二十二年度	六〇〇、四〇六、〇〇〇	三、〇五三、〇〇〇	○	○	○
同二十三年度	五五三、六六一、五二四	三、七二四、七九〇	○	○	○
同二十四年度	五五八、七一四、九〇三	三、七三一、九七五	○	○	○
同二十五年度	六二八、七三二、六八五	五、五九七、六八〇	○	○	○
同二十六年度	七一六、八八九、八六二	五、六〇二、九五	○	○	○
同二十七年度	七三七、四三八、五四二	九、三三一、四九九	○	○	○
同二十八年度	八二六、五〇八六〇	一一、〇六六、一九	○	○	○
同二十九年度	九五、一〇二、七四三	一五、五五一、一九五	○	○	○
同三十年度	一、〇六二、二〇一三四一	二五、二三六、九一〇	○	○	○

同十四年度	八一八、七五七、四七六	九、三八九、〇〇〇	○	○	○
同十五年度	八〇三、七〇七、二七七	一〇、三六五、七〇〇	○	○	○
同十六年度	六二〇、三八一、五四九	七、〇五五、〇一〇	○	○	○
同十七年度	六五八、六二四、二六	二、六七四、六一〇	○	○	○
同十八年度	四二九、〇二八、九一八	一、二一〇、〇六五	○	○	○
同十九年度	五七七、〇一七、一七二	一、八九五、九六五	○	○	○
同二十年度	五四九、六九三、二三八	二、七九四、五九〇	○	○	○
同二十一年度	九九九、二六八、〇〇〇	二、七四五、〇〇〇	○	○	○
同二十二年度	六〇〇、四〇六、〇〇〇	三、〇五三、〇〇〇	○	○	○
同二十三年度	五五三、六六一、五二四	三、七二四、七九〇	○	○	○
同二十四年度	五五八、七一四、九〇三	三、七三一、九七五	○	○	○
同二十五年度	六二八、七三二、六八五	五、五九七、六八〇	○	○	○
同二十六年度	七一六、八八九、八六二	五、六〇二、九五	○	○	○
同二十七年度	七三七、四三八、五四二	九、三三一、四九九	○	○	○
同二十八年度	八二六、五〇八六〇	一一、〇六六、一九	○	○	○
同二十九年度	九五、一〇二、七四三	一五、五五一、一九五	○	○	○
同三十年度	一、〇六二、二〇一三四一	二五、二三六、九一〇	○	○	○

同 三十一年度	一、二六六、〇三〇九三六	二、七六二、五一〇	一五四、三六五、六三九	〇	一、四四二、一五九、〇八五
同 三十二年度	〇	〇	〇	〇	〇
同 三十三年度	〇	〇	〇	〇	〇
同 三十四年度	〇	〇	〇	〇	〇
同 三十五年度	〇	〇	〇	〇	〇

(備考)

一 第六期ヨリ第八期ニ至ル間ハ細別ヲ知ル能ハサルヲ以テ其合計額ノミヲ示ス

一 明治三十二年度以後ハ印紙統一ノ結果印紙稅以外ノ諸稅及免許手數料共凡テ收入印紙ヲ貼用スルニ至レルヲ以テ精確ナル印紙稅收入額ヲ知ル能ハス

第十四節 祿稅

我國ニ於ケル祿稅ハ明治二年四月三日ノ布告ニヨリ行政官及ヒ各官府縣廳奉仕者ニ對シテ賦課シタルモノヲ以テ嚆矢トス右祿稅ハ二十五俵以上ノ俸祿ヲ受クル者ニ對シテ課稅シ其祿高ヲ標準トシテ五等ニ分チ累進法ヲ以テ之ヲ徵セリ其布告左ノ如シ

行政官支配附之面々及各官府縣へ被召出候輩ハ御藏米ヲ以祿高下賜候向ハ都テ扶持ヲ五俵ニ直シ金一兩ヲ一俵ニ直シ何レモ切米高ニ結込其高ニ應シ以來左ノ通祿稅御取立ノ事

千俵取　七分通

五百俵取　六分通

五百俵以下
三百俵迄　五分通

三百俵以下
百俵迄　四分通

百俵以下
二十五俵迄　三分通

但扶持米給金等結込二十五俵未滿之者ハ相除候事

右之通歩合ヲ以テ引落シ御渡シ相成候尤是迄本祿如舊下賜候者ハ皆米ニテ被渡下御扶助米被下候者ハ其高ニ應シ米金歩合ヲ以下賜右金渡之分ハ舊幕府張紙ト唱候直段ニテ御渡相成候處以來都テ皆米ニテ御渡相成御米繰ニ寄リ石代ニテ被渡下候節者時相場ヲ以下賜候事

右之通相達候事

右ノ祿稅ハ其名ハ租稅ト云フト雖モ其實ハ卽チ減祿ノ性質ヲ有スルモノニシテ當時國費多端ノ際ニ屬シ政府ハ之ニ依リテ以テ多少國庫ノ負擔ヲ輕減センコトヲ圖リタルモノヽ如シ然ルニ本稅ハ幾許モナク其年十二月祿制ノ改正ニ伴ヒ自ラ廢棄ニ屬セリ越ヘテ明治六年ニ至リ內外多事國費彌々多端ニシテ殊ニ陸海軍資補充ノ必要ヲ生シタリシカハ其年十二月布告第四百二十三號ヲ以テ明治七年以後賞典祿ヲ除ク外華士族ニ對シ家祿稅ヲ課スル旨ヲ公布シ同月布告第四百二十四號ヲ以テ其稅率ヲ定メタリ右布告ニ依レハ家祿稅現米五石

以上六萬五千石以下ヲ三百三十五等ニ分テ累進法ニ依リ一升以上二萬二千七百五十石ノ家祿稅ヲ課スルニアリ家祿稅新設ニ關スル布告左ノ如シ

布告第四百二十三號（明治十二年二月二十七日）

卽今內外國事多端費用モ夥多ノ折柄ニ付陸海軍資ノ爲メ明治七年以後當分ノ處別冊ノ通賞典祿ヲ除クノ外家祿稅被設候條此旨華士族ヘ布告スヘキ事

但金給ノ分ハ前年貢納相場ヲ以米ニ直シ別冊稅額ニ引當ヘキ事

布告第四百二十四號（明治十二年二月二十七日）

華士族賞典祿ヲ除クノ外家祿稅課徵方法別冊ノ通相設候條明治七年以後管轄廳ニテ家祿相渡候節一般致收入收稅帳相添大藏省ヘ上納方可取計此旨相達候事

華士族祿稅則

家祿　祿稅

現來	六萬五千石未滿六萬四千石迄	二萬二千七百五十石	
同同	六萬四千石未滿六萬三千石迄	二萬二千三百七十石	
同同	六萬三千石未滿六萬二千石迄	二萬二千石	
同同	六萬二千石未滿六萬千石迄	二萬千六百二十五石	
同同	六萬千石未滿六萬石迄	二萬千二百五十石	
同同	六萬石未滿五萬九千石迄	二萬八百七十五石	
同同	五萬九千石未滿五萬八千石迄	二萬七百五十石	

同同	五萬八千石未滿五萬七千石迄	二萬百二十石	
同同	五萬七千石未滿五萬六千石迄	一萬九千七百五十石	
同同	五萬六千石未滿五萬五千石迄	一萬九千三百七十五石	
同同	五萬五千石未滿五萬四千石迄	一萬九千石	
同同	五萬四千石未滿五萬三千石迄	一萬八千六百二十五石	
同同	五萬三千石未滿五萬二千石迄	一萬八千二百五十石	
同同	五萬二千石未滿五萬千石迄	一萬七千八百七十五石	
同同	五萬千石未滿五萬石迄	一萬七千五百石	
同同	五萬石未滿四萬九千石迄	一萬七千百二十五石	
同同	四萬九千石未滿四萬八千石迄	一萬六千七百五十石	
同同	四萬八千石未滿四萬七千石迄	一萬六千三百七十五石	
同同	四萬七千石未滿四萬六千石迄	一萬六千石	
同同	四萬六千石未滿四萬五千石迄	一萬五千六百二十五石	
同同	四萬五千石未滿四萬四千石迄	一萬五千二百五十石	
同同	四萬四千石未滿四萬三千石迄	一萬四千八百七十五石	
同同	四萬三千石未滿四萬二千石迄	一萬四千五百石	
同同	四萬二千石未滿四萬千石迄	一萬四千百二十五石	
同同	四萬千石未滿四萬石迄	一萬三千七百五十石	

同	四萬石未滿	一萬三千三百七十五石
同	三萬九千石迄	一萬三千石
同	三萬九千石未滿	一萬二千六百二十五石
同	三萬八千石迄	一萬二千二百五十石
同	三萬七千石未滿	一萬千八百七十五石
同	三萬六千石迄	一萬千五百石
同	三萬五千石未滿	一萬千百二十五石
同	三萬四千石迄	一萬七百五十石
同	三萬三千石未滿	一萬三百七十五石
同	三萬二千石迄	一萬石
同	三萬千石未滿	九千六百二十五石
同	三萬石迄	九千二百五十石
同	二萬九千石未滿	八千八百七十五石
同	二萬八千石迄	八千五百石
同	二萬七千石未滿	八千百二十五石
同	二萬六千石迄	七千七百五十石
同	二萬五千石未滿	七千三百七十五石
同	二萬四千石迄	七千石
同	二萬三千石未滿	
同	二萬二千石迄	

同	二萬二千石未滿	六千六百二十五石
同	二萬千石迄	六千二百五十石
同	二萬千石未滿	五千八百七十五石
同	二萬石迄	五千五百石
同	一萬九千石未滿	五千百二十五石
同	一萬八千石迄	四千七百五十石
同	一萬八千石未滿	四千三百七十五石
同	一萬七千石迄	四千石
同	一萬七千石未滿	三千六百二十五石
同	一萬六千石迄	三千二百五十石
同	一萬六千石未滿	二千八百七十五石
同	一萬五千石迄	二千五百石
同	一萬四千石未滿	二千四百七十四石
同	一萬三千石迄	二千四百四十八石
同	一萬三千石未滿	二千四百二十二石
同	一萬二千石迄	二千三百九十六石
同	一萬千石未滿	二千三百七十一石
同	一萬千石迄	二千三百四十五石
同	一萬石未滿	
同	九千九百石迄	
同	九千九百石未滿	
同	九千八百石迄	
同	九千八百石未滿	
同	九千七百石迄	
同	九千七百石未滿	
同	九千六百石迄	
同	九千六百石未滿	
同	九千五百石迄	
同	九千五百石未滿	
同	九千四百石迄	

同同	九千四百石未満	九千三百石迄	二千三百十九石
同同	九千三百石未満	九千二百石迄	二千二百九十三石
同同	九千二百石未満	九千百石迄	二千二百六十七石
同同	九千百石未満	九千石迄	二千二百四十一石
同同	九千石未満	八千九百石迄	二千二百十五石
同同	八千九百石未満	八千八百石迄	二千百八十九石
同同	八千八百石未満	八千七百石迄	二千百六十三石
同同	八千七百石未満	八千六百石迄	二千百三十八石
同同	八千六百石未満	八千五百石迄	二千百十二石
同同	八千五百石未満	八千四百石迄	二千八十六石
同同	八千四百石未満	八千三百石迄	二千六十石
同同	八千三百石未満	八千二百石迄	二千三十四石
同同	八千二百石未満	八千百石迄	二千八石
同同	八千百石未満	八千石迄	千九百八十二石
同同	八千石未満	七千九百石迄	千九百五十六石
同同	七千九百石未満	七千八百石迄	千九百三十石
同同	七千八百石未満	七千七百石迄	千九百五石
同同	七千七百石未満	七千六百石迄	千八百七十九石

同同	七千六百石未満	七千五百石迄	千八百五十三石
同同	七千五百石未満	七千四百石迄	千八百二十七石
同同	七千四百石未満	七千三百石迄	千八百一石
同同	七千三百石未満	七千二百石迄	千七百七十五石
同同	七千二百石未満	七千百石迄	千七百四十九石
同同	七千百石未満	七千石迄	千七百二十三石
同同	七千石未満	六千九百石迄	千六百九十七石
同同	六千九百石未満	六千八百石迄	千六百七十二石
同同	六千八百石未満	六千七百石迄	千六百四十六石
同同	六千七百石未満	六千六百石迄	千六百二十石
同同	六千六百石未満	六千五百石迄	千五百九十四石
同同	六千五百石未満	六千四百石迄	千五百六十八石
同同	六千四百石未満	六千三百石迄	千五百四十二石
同同	六千三百石未満	六千二百石迄	千五百十六石
同同	六千二百石未満	六千百石迄	千四百九十石
同同	六千百石未満	六千石迄	千四百六十四石
同同	六千石未満	五千九百石迄	千四百三十九石
同同	五千九百石未満	五千八百石迄	千四百十三石

同同	五千八百石未満 五千七百石迄	千三百八十七石
同同	五千七百石未満 五千六百石迄	千三百六十一石
同同	五千六百石未満 五千五百石迄	千三百三十五石
同同	五千五百石未満 五千四百石迄	千三百九石
同同	五千四百石未満 五千三百石迄	千二百八十三石
同同	五千三百石未満 五千二百石迄	千二百五十七石
同同	五千二百石未満 五千百石迄	千二百三十一石
同同	五千百石未満 五千石迄	千二百六石
同同	五千石未満 四千九百石迄	千百八十石
同同	四千九百石未満 四千八百石迄	千百五十四石
同同	四千八百石未満 四千七百石迄	千百二十八石
同同	四千七百石未満 四千六百石迄	千百二石
同同	四千六百石未満 四千五百石迄	千七十六石
同同	四千五百石未満 四千四百石迄	千五十石
同同	四千四百石未満 四千三百石迄	千二十四石
同同	四千三百石未満 四千二百石迄	九百九十八石
同同	四千二百石未満 四千百石迄	九百七十三石
同同	四千百石未満 四千石迄	九百四十七石

同同	四千石未満 三千九百石迄	九百二十一石
同同	三千九百石未満 三千八百石迄	八百九十五石
同同	三千八百石未満 三千七百石迄	八百六十九石
同同	三千七百石未満 三千六百石迄	八百四十三石
同同	三千六百石未満 三千五百石迄	八百十七石
同同	三千五百石未満 三千四百石迄	七百九十一石
同同	三千四百石未満 三千三百石迄	七百六十五石
同同	三千三百石未満 三千二百石迄	七百四十石
同同	三千二百石未満 三千百石迄	七百十四石
同同	三千百石未満 三千石迄	六百八十八石
同同	三千石未満 二千九百石迄	六百六十二石
同同	二千九百石未満 二千八百石迄	六百三十六石
同同	二千八百石未満 二千七百石迄	六百十石
同同	二千七百石未満 二千六百石迄	五百八十四石
同同	二千六百石未満 二千五百石迄	五百五十八石
同同	二千五百石未満 二千四百石迄	五百三十二石
同同	二千四百石未満 二千三百石迄	五百七石
同同	二千三百石未満 二千二百石迄	四百八十一石

同	二千二百石未満 二千百石迄	四百五十五石
同	二千百石未満 二千石迄	四百二十九石
同	二千石未満 千九百石迄	四百三石
同	千九百石未満 千八百石迄	三百七十七石
同	千八百石未満 千七百石迄	三百五十一石
同	千七百石未満 千六百石迄	三百二十五石
同	千六百石未満 千五百石迄	二百九十九石
同	千五百石未満 千四百石迄	二百七十四石
同	千四百石未満 千三百石迄	二百四十八石
同	千三百石未満 千二百石迄	二百二十二石
同	千二百石未満 千百石迄	百九十六石
同	千百石未満 千石迄	百七十石
同	千石未満 九百九十石迄	百六十八石三斗
同	九百九十石未満 九百八十石迄	百六十六石五斗
同	九百八十石未満 九百七十石迄	百六十四石八斗
同	九百七十石未満 九百六十石迄	百六十三石
同	九百六十石未満 九百五十石迄	百六十一石三斗
同	九百五十石未満 九百四十石迄	百五十九石五斗

同	九百四十石未満 九百三十石迄	百五十七石八斗
同	九百三十石未満 九百二十石迄	百五十六石
同	九百二十石未満 九百十石迄	百五十四石三斗
同	九百十石未満 九百石迄	百五十二石六斗
同	九百石未満 八百九十石迄	百五十石八斗
同	八百九十石未満 八百八十石迄	百四十九石一斗
同	八百八十石未満 八百七十石迄	百四十七石三斗
同	八百七十石未満 八百六十石迄	百四十五石六斗
同	八百六十石未満 八百五十石迄	百四十三石八斗
同	八百五十石未満 八百四十石迄	百四十二石一斗
同	八百四十石未満 八百三十石迄	百四十石三斗
同	八百三十石未満 八百二十石迄	百三十八石六斗
同	八百二十石未満 八百十石迄	百三十六石九斗
同	八百十石未満 八百石迄	百三十五石一斗
同	八百石未満 七百九十石迄	百三十三石四斗
同	七百九十石未満 七百八十石迄	百三十一石六斗
同	七百八十石未満 七百七十石迄	百二十九石九斗
同	七百七十石未満 七百六十石迄	百二十八石一斗

同 七百六十石未滿 百二十六石四斗
同 七百五十石未滿 百二十四石六斗
同 七百四十石未滿 百二十二石九斗
同 七百三十石未滿 百二十一石二斗
同 七百二十石未滿 百十九石四斗
同 七百十石未滿 百十七石七斗
同 七百石未滿 百十五石九斗
同 六百九十石未滿 百十四石二斗
同 六百八十石未滿 百十二石四斗
同 六百七十石未滿 百十石七斗
同 六百六十石未滿 百八石九斗
同 六百五十石未滿 百七石八斗
同 六百四十石未滿 百五石五斗
同 六百三十石未滿 百三石七斗
同 六百二十石未滿 百二石
同 六百十石未滿 百二石
同 五百九十石未滿 九十六石七斗
同 五百八十石未滿 九十八石五斗
同 五百七十石未滿 九十石
同 五百六十石未滿 九十石
同 五百五十石未滿 九十石
同 五百四十石未滿 八十石
同 五百三十石未滿 八十石
同 五百二十石未滿 八十石
同 五百十石未滿 八十石
同 五百石未滿 八十石
同 四百九十石未滿 七十石
同 四百八十石未滿 七十石
同 四百七十石未滿 七十石
同 四百六十石未滿 七十石
同 四百五十石未滿 七十石
同 四百四十石未滿 七十石
同 四百三十石未滿 七十石
同 四百二十石未滿 六十石
同 四百十石未滿 六十石

同 五百八十石未滿 九十石
同 五百七十石未滿 九十石
同 五百六十石未滿 九十石
同 五百五十石未滿 九十石
同 五百四十石未滿 八十石
同 五百三十石未滿 八十石
同 五百二十石未滿 八十石
同 五百十石未滿 八十石
同 五百石未滿 八十石
同 四百九十石未滿 七十石
同 四百八十石未滿 七十石
同 四百七十石未滿 七十石
同 四百六十石未滿 七十石
同 四百五十石未滿 七十石
同 四百四十石未滿 七十石
同 四百三十石未滿 七十石
同 四百二十石未滿 六十石
同 四百十石未滿 六十石

同	四百石未満 三百九十石迄	六十三石六斗
同	三百九十石未満 三百八十石迄	六十一石八斗
同	三百八十石未満 三百七十石迄	六十石一斗
同	三百七十石未満 三百六十石迄	五十八石四斗
同	三百六十石未満 三百五十石迄	五十六石六斗
同	三百五十石未満 三百四十石迄	五十四石九斗
同	三百四十石未満 三百三十石迄	五十三石一斗
同	三百三十石未満 三百二十石迄	五十一石四斗
同	三百二十石未満 三百十石迄	四十九石六斗
同	三百十石未満 三百石迄	四十七石九斗
同	三百石未満 二百九十石迄	四十六石一斗
同	二百九十石未満 二百八十石迄	四十四石四斗
同	二百八十石未満 二百七十石迄	四十二石七斗
同	二百七十石未満 二百六十石迄	四十石九斗
同	二百六十石未満 二百五十石迄	三十九石二斗
同	二百五十石未満 二百四十石迄	三十七石四斗
同	二百四十石未満 二百三十石迄	三十五石七斗
同	二百三十石未満 二百二十石迄	三十三石九斗

同	二百二十石未満 二百十石迄	三十二石二斗
同	二百十石未満 二百石迄	三十石四斗
同	二百石未満 百九十石迄	二十八石七斗
同	百九十石未満 百八十石迄	二十七石
同	百八十石未満 百七十石迄	二十五石二斗
同	百七十石未満 百六十石迄	二十三石五斗
同	百六十石未満 百五十石迄	二十一石七斗
同	百五十石未満 百四十石迄	二十石
同	百四十石未満 百三十石迄	十八石二斗
同	百三十石未満 百二十石迄	十六石五斗
同	百二十石未満 百十石迄	十四石七斗
同	百十石未満 百石迄	十三石
同	百石未満 九十九石迄	十二石九斗
同	九十九石未満 九十八石迄	十二石七斗
同	九十八石未満 九十七石迄	十二石六斗
同	九十七石未満 九十六石迄	十二石四斗
同	九十六石未満 九十五石迄	十二石三斗
同	九十五石未満 九十四石迄	十二石二斗

同九十四石未満	同九十三石迄	十二石
同九十三石未満	同九十二石迄	十一石九斗
同九十二石未満	同九十一石迄	十一石八斗
同九十一石未満	同九十石迄	十一石六斗
同九十石未満	同八十九石迄	十一石五斗
同八十九石未満	同八十八石迄	十一石三斗
同八十八石未満	同八十七石迄	十一石二斗
同八十七石未満	同八十六石迄	十一石一斗
同八十六石未満	同八十五石迄	十石九斗
同八十五石未満	同八十四石迄	十石八斗
同八十四石未満	同八十三石迄	十石七斗
同八十三石未満	同八十二石迄	十石五斗
同八十二石未満	同八十一石迄	十石四斗
同八十一石未満	同八十石迄	十石二斗
同八十石未満	同七十九石迄	十石一斗
同七十九石未満	同七十八石迄	十石
同七十八石未満	同七十七石迄	九石八斗
同七十七石未満	同七十六石迄	九石七斗
同七十六石未満	同七十五石迄	九石六斗
同七十五石未満	同七十四石迄	九石四斗
同七十四石未満	同七十三石迄	九石三斗
同七十三石未満	同七十二石迄	九石一斗
同七十二石未満	同七十一石迄	九石
同七十一石未満	同七十石迄	八石九斗
同七十石未満	同六十九石迄	八石七斗
同六十九石未満	同六十八石迄	八石六斗
同六十八石未満	同六十七石迄	八石五斗
同六十七石未満	同六十六石迄	八石三斗
同六十六石未満	同六十五石迄	八石二斗
同六十五石未満	同六十四石迄	八石
同六十四石未満	同六十三石迄	七石九斗
同六十三石未満	同六十二石迄	七石八斗
同六十二石未満	同六十一石迄	七石六斗
同六十一石未満	同六十石迄	七石五斗
同六十石未満	同五十九石迄	七石四斗
同五十九石未満	同五十八石迄	七石二斗

同 五十八石未満 同 五十七石迄	七石一斗
同 五十七石未満 同 五十六石迄	六石九斗
同 五十六石未満 同 五十五石迄	六石八斗
同 五十五石未満 同 五十四石迄	六石七斗
同 五十四石未満 同 五十三石迄	六石五斗
同 五十三石未満 同 五十二石迄	六石四斗
同 五十二石未満 同 五十一石迄	六石二斗
同 五十一石未満 同 五十石迄	六石一斗
同 五十石未満 同 四十九石迄	六石
同 四十九石未満 同 四十八石迄	五石八斗
同 四十八石未満 同 四十七石迄	五石七斗
同 四十七石未満 同 四十六石迄	五石六斗
同 四十六石未満 同 四十五石迄	五石四斗
同 四十五石未満 同 四十四石迄	五石三斗
同 四十四石未満 同 四十三石迄	五石一斗
同 四十三石未満 同 四十二石迄	五石
同 四十二石未満 同 四十一石迄	四石九斗
同 四十一石未満 同 四十石迄	四石七斗

同 四十石未満 同 三十九石迄	四石六斗
同 三十九石未満 同 三十八石迄	四石五斗
同 三十八石未満 同 三十七石迄	四石三斗
同 三十七石未満 同 三十六石迄	四石二斗
同 三十六石未満 同 三十五石迄	四石
同 三十五石未満 同 三十四石迄	三石九斗
同 三十四石未満 同 三十三石迄	三石八斗
同 三十三石未満 同 三十二石迄	三石六斗
同 三十二石未満 同 三十一石迄	三石五斗
同 三十一石未満 同 三十石迄	三石四斗
同 三十石未満 同 二十九石迄	三石二斗
同 二十九石未満 同 二十八石迄	三石一斗
同 二十八石未満 同 二十七石迄	二石九斗
同 二十七石未満 同 二十六石迄	二石八斗
同 二十六石未満 同 二十五石迄	二石七斗
同 二十五石未満 同 二十四石迄	二石五斗
同 二十四石未満 同 二十三石迄	二石四斗
同 二十三石未満 同 二十二石迄	二石三斗

同 二十二石未滿	二石一斗	
同 二十一石迄		
同 二十一石未滿	二石	
同 二十石迄		
同 二十石未滿	一石八斗	
同 十九石迄		
同 十九石未滿	一石七斗	
同 十八石迄		
同 十八石未滿	一石六斗	
同 十七石迄		
同 十七石未滿	一石四斗	
同 十六石迄		
同 十六石未滿	一石三斗	
同 十五石迄		
同 十五石未滿	一石二斗	
同 十四石迄		
同 十四石未滿	一石	
同 十三石迄		
同 十三石未滿	九斗	
同 十二石迄		
同 十二石未滿	七斗	
同 十一石迄		
同 十一石未滿	六斗	
同 十石迄		
同 十石未滿	五斗四升一合	
同 九石五斗迄		
同 九石五斗未滿	四斗八升二合	
同 九石迄		
同 九石未滿	四斗二升三合	
同 八石五斗迄		
同 八石五斗未滿	三斗六升四合	
同 八石迄		
同 八石未滿	三斗五合	
同 七石五斗迄		
同 七石五斗未滿	二斗四升六合	
同 七石迄		

同 七石未滿	一斗八升七合	
同 六石五斗迄		
同 六石五斗未滿	一斗二升八合	
同 六石迄		
同 六石未滿	六升九合	
同 五石五斗迄		
同 五石五斗未滿	一升	
同 五石迄		

一 百十石ノ祿稅十四石七斗百十石未滿百九石五斗ノ祿稅十三石如此ノ類ハ百十石ノ祿稅ヲ引去リ殘高ノ石數ヲ越ヘサルヲ以テ準據トシ祿稅ノ額ヲ定ムヘシ

一 百十石 祿稅十四石七斗 殘高九十五石三斗

一 百九石五斗 祿稅十四石二斗 殘高九十五石三斗

一 百九石 祿稅十三石七斗 殘高九十五石三斗

一 百五石 祿稅十三石 殘高九十二石

一 百石 祿稅十三石 殘高八十七石

百石前後トモ此算則ニ據ルヘシ

斯クテ華士族ニ對シテハ賞典祿ヲ除クノ外家祿稅ヲ課徵スルコトヽナリシカ權衡上各官廳ニ奉職スル官吏ニ對シテモ又一定ノ課稅ヲナシ國庫ノ財源トナスノ必要アリ仍テ同年同月二十八日布告第四百三十一號ヲ以テ官祿稅ヲ設ケ勅任官三百五十圓以上ハ十分一奏任官百圓以上ハ二十分一ノ割合ヲ以テ明治七年一月以後之ヲ課スルコヽトセリ右布告左ノ如シ

布告第四百三十一號（明治六年十二月二十八日）

官祿稅被設候段別紙ノ通相達候條明治七年一月ヨリ奉仕ノ官廳ニテ致收入院省及東京府ハ每

月開拓使京坂二府竝諸縣ハ毎三月取束收稅帳相添大藏省ヘ納方可取計此旨相達候事

（別紙）

卽今內外國事多端費用夥多ノ折柄ニ付陸海軍費ノ爲メ明治七年以後當分ノ所官祿稅被設候條勅任官三百五十圓以上ハ十分ノ一奏任官一百圓以上ハ二十分ノ一ノ割合ヲ以毎月其廳ヘ上納可致此旨相達候事

右述フル所ノ如ク明治七年以降家祿稅官祿稅竝ヒ行ハルヽコトヽナリタリト雖モ陸軍武官ニ至テハ其俸給他ノ文官ニ比シ一等官ニ於テ百金ノ差アリ以下之ニ準シテ減額セラレ宮內省女官モ亦平常其官等三分ノ一ヲ減給セラルヽモノナルヲ以テ更ニ之ニ對シ官祿稅ヲ賦課スルハ事情甚タ困難ナルモノアルヲ察シ明治七年一月十八日太政官ヨリ陸軍武官竝ニ宮內省女官免稅ノ旨ヲ大藏省ニ達示セリ而シテ又新稅法ニヨレハ賞典祿ハ之ヲ免稅ト爲セルヲ以テ賞典祿ノ範圍ヲ明ニスルノ必要アリ仍テ同月二十七日大藏省ヨリ太政官ニ伺ヲ爲シ左ノ事項ニ關スル課稅上ノ解釋ヲ一定セリ

大藏省伺（明治七年一月廿七日）

今般家祿稅法御施行相成候ニ付テハ左ノ件々相伺候

一　戊辰戰功賞典トシテ各藩士竝各士族ヘ朝廷ヨリ下賜候分

一　舊藩士ヘハ朝廷ヨリ別段賞典ハ不被下候ヘ共舊藩租ヲ以其藩士ヘ戊辰戰功賞トシテ給與致候分

一　軍曹及積年勤王ノ志シ不淺云々或ハ御一新ノ際格別勉强等ノ名義ヲ以テ戊辰ノ後更ニ朝

廷ヨリ御賞與ノ扶持方

一　近衞兵免役ノ者ヘ年限ヲ以被下候賞典扶持

右ノ件々賞典ノ部分ニ付收稅不致積リ取調可然哉

一　舊藩主ノ見込ニテ國事盡力等ノ名義ヲ以テ戊辰前後ニ增祿又ハ賞與致候分

一　舊藩中勤功又ハ奇特筋ニテ舊藩主ヨリ賞與ノ分

一　舊藩中祿券又ハ家產法施行中分券賣却致候分

右ノ件々一般ノ祿高ト同樣稅法ニ照シ收稅致シ可然哉右件々相伺候也

太政官指令（明治七年二月七日）

伺ノ通

曩キニ陸軍武官ハ官祿稅ヲ免除セラレタリシカ海軍武官ニ至テハ未タ此例ニ準セラレス然レトモ海軍武官及乘艦文官ハ其官祿ニ差等アルノミナラス萬事他ノ文官ト異ナル所アルヲ以テ此上官祿稅ヲ賦課スルハ事情甚タ困難ナリ仍テ同七年二月十四日太政官ヨリ海軍武官及乘艦文官免稅ノ件ヲ大藏省ニ達示セリ而シテ官祿稅務手續ニ關シテ同月二十二日大藏省達第十六號ヲ以テ左ノ如ク令セリ

今般陸海軍資之爲メ官祿家祿之兩稅被設候ニ付而者兼テ該廳奏任官以上ノ現今官員名前取調來ル三月十五日限（東京府ハ二月二十五日）租稅寮ヘ可差出自今轉免黜陟之都度同樣可取計且收稅帳之儀者別表之通取調納月十五日限（東京府ハ三月五日）是亦同寮ヘ可差出此旨相達候事（別表略）

尋テ同年五月二十日第五十五號布告ヲ以テ家祿稅ノ石代納ヲ許セリ蓋シ同稅ハ從來現米ヲ以テ

徴シ來レルモ石代納ハ運搬費ヲ要セス政府ニ取リテ便宜ナルヲ以テ其標準相場ヲ其年ノ貢納相場ニ採リ換算シテ金納セシムルコトヽセリ該布告ノ全文ハ左ノ如シ

布告第五十五號（明治七年五月二十日）

華士族家祿稅石代納致度者ハ其年貢納相場ヲ以テ上納差許候條其管轄廳ヘ可願出此旨布告候事

但明治六年十二月第四百二十三號布告但書金給ノ分ハ前年貢納相場ヲ以テ米ニ直シ稅額ニ可引當ト有之候處其年貢納相場相用可申事

尋テ同月大藏省第五十三號達ヲ以テ家祿稅ノ上納期限竝ニ上納方法ヲ左ノ如ク制定セリ

大藏省達第五十三號（明治七年五月二十七日）

華士族元卒共家祿稅上納期限之儀客年第四百二十四號公布ノ通各管轄廳ニテ家祿相渡候節收入致シ翌年三月租稅寮ヘ納入可取計事

一　正米納之分者都而其地方ニ於テ入札ヲ以テ拂下ケ一般石代ヲ以テ上納可取計事

一　收稅帳書式之儀者別表雛形之通取調納月十五日限租稅寮ヘ可差出事

右之通相心得收稅可取計此旨相達候事

而シテ右上納期限ハ翌八年一月廿八日大藏省乙第十二號達ヲ以テ更ニ之ヲ改メテ翌年六月限リ納入スヘキモノトセリ

抑々家祿稅ハ本ト陸海軍資補充ノ趣意ヨリ成リ特ニ從來世襲ノ軍職ニアリタル華士族ヲシテ其負擔ヲ爲サシムル趣旨ヲ以テ制定セラレタルモノナルコトハ明治七年四月內務大藏兩卿ヨリ各

地方官ニ與ヘタル內達ニ徴スルモ明カナリト雖モ旣ニ一方ニ官祿稅ヲ起シテ官吏ヲシテ之ヲ負擔セシメタルノミナラス均シク國家ノ保護ヲ享クルヲ以上ハ假令其身分華士族ノ列ニアラスト雖モ家祿ヲ有スルモノニ對シ家祿稅ヲ課セサルハ其當ヲ得サルモノト云ハサル可ラス是ニ於テ明治八年五月左ノ布告ヲ發シ平民ニシテ有祿ノ者亦家祿ヲ課スヘキ旨ヲ定メタリ

布告第七十八號（明治八年五月九日）

平民ニシテ有祿ノ者本年ヨリ華士族同樣賞典祿ヲ除ク外渾テ祿稅收入候條此旨布告候事

斯クテ明治八年十二月九日第百八十六號及第百八十七號布告ヲ以テ新ニ賞典祿ニ課稅スルコトヽシ併セテ祿稅則ヲ改正セリ蓋シ當初祿稅設定ノ際特ニ賞典祿ヲ除外シタルハ時ノ情勢止ムコトヲ得サルモノアリタルニ由ルト雖モ爾來二三ノ星霜ヲ經タル今日ニ至リテ之ヲ顧ミルトキハ賞典祿ニ對スル祿稅免除ノ制ハ稍々妥當ナラサリシモノヽ如シ何トナレハ現時ノ所謂家祿トハ皆昔日ノ賞典祿ニシテ今ノ所謂賞典ト異ルハ唯タ新舊ノ差アルノミ然ルニ舊賞典ヲ家祿トシテ輕視シ新賞典ヲ家祿ト稱セスシテ重視スルノ理ナキノミナラス內外多事國費多端ノ際祿稅ヲ設ケテ陸海ノ軍資ニ充テラルヽニ家祿ニ課シテ賞典ニ課セサルカ如キハ頗ル其當ヲ失セルモノト云ハサルヘカラス故ニ今ノ時ニ當リテハ斷然舊制ヲ改メ各種ノ賞典祿ハ現在所有ノ儘引分ケ之ヲ華士族各自ノ家祿ニ併合シ一般家祿トシテ課稅スルノ必要アリ是レ此改正ヲ見タル所以ナリ該布告及之ニ附隨セル太政官達ノ全文左ノ如シ

布告第百八十六號（明治八年十二月九日）

華士族平民賞典祿處分ノ儀左ノ通相定本年分ヨリ家祿同樣當分課稅候條此旨布告候事

一 舊藩主ヘ下賜候賞典祿ノ內代數ヲ限リ或ハ終身或ハ年限ヲ以テ分與セシ分ハ舊藩主所有ノ賞典高ト合シ家祿（舊藩主ノ家祿ヲ云フ）ト合算シテ祿稅則ニ照準收入スヘキ事

一 前條賞典祿分與ヲ受ケシ士民死亡又ハ年限滿期ニ至ルカ或ハ事故アリテ右祿沒收ノ時ハ舊藩主ノ賞典祿ニ合收スヘキ事

但本條舊藩主ノ賞典祿ヘ合收スヘキ時ハ其都度管轄廳ヨリ大藏省ヘ事由屆出同廳ヨリ舊藩主ヘ相達スヘキ事

一 舊藩租稅ヲ以テ永世又ハ終身又ハ年限ヲ定メ付與候賞典祿竝舊藩主ヘ下賜候賞典祿ノ內永世分與ノ分及ヒ家祿有之者ハ合算シテ其士民每ニ祿稅則ニ照準收入スヘキ事

但終身竝年限分與ノ內舊藩主賜高ノ內ト舊藩租ト混淆支給有之分ハ右ヲ區分シ前條々ニ照準スヘキ事

一 前條賞典祿ノ分ハ以後其士民死亡滿期又ハ事故アリテ右祿沒收ノ時ハ總テ大藏省ヘ引揚候事

布告第百八十七號（明治八年十二月九日）

賞典祿課稅ノ儀今般第百八十六號ヲ以布告候ニ付明治六年十二月第四百二十三號布告華士族祿稅則左ノ通改正增補候條此旨布告候事

祿稅則

家祿賞典祿合高（但家祿賞典祿ノ一方ヲ有スルモ各是ノ稅則ニ準ス）　祿稅

（現米）六萬九千石ヨリ六萬八千石マテ　二萬四千二百五十石

（同）六萬八千石未滿六萬七千石マテ　二萬三千八百七十五石

（同）六萬七千石未滿六萬六千石マテ　二萬三千五百石

（同）六萬六千石未滿六萬五千石マテ　二萬三千百二十五石

以下從前之通

右賞典祿ノ課稅ニ伴ヒ同月太政官達第二百八號ヲ以テ右祿稅徵收ニ關シ左ノ如ク規定セリ

太政官達第二百八號（明治八年十二月九日）

今般第百八十六號第百八十七號ヲ以賞典祿課稅ノ儀布告候ニ付テハ各管廳ニ於テ祿渡ノ節收入ノ收稅帳相添大藏省ヘ上納可致此旨相達候事

尋テ明治九年二月三日太政官達ヲ以テ元老院議官ニ對スル官祿稅ハ奏任官ノ稅率ヲ適用スルコトヽ爲セリ蓋シ其年俸月割三百五十圓未滿ナルヲ以テナリ而シテ明治八年分以後賞典祿ヲ課稅スルコトヽナリタルニ付テハ該稅課徵ニ關シ幾多ノ疑問ヲ生セリ卽チ各種ノ賞典ノ內近衞鎭臺兵免役ニ付賞トシテ五箇年又ハ二箇年間扶持米ノ名義ヲ以テ二人口又ハ一人口宛下賜スルモノニシテ其名ハ年限賞典ト云フト雖モ其實ハ右年限中時宜ニヨリ徵召ノ命アレハ速ニ出張スヘキノ約束アルヲ見レハ固ヨリ其他ノ賞典ト同一視スヘカラス其他扶助米又ハ救助米及ヒ祭粢料ト稱スルモノモ亦何レモ維新ノ際王事ニ勤勞セルモノヽ功績ニ對シ下賜スルモノニシテ要スルニ一ノ賞典ニ外ナラス所謂祭粢料トハ死後下賜ノ名義ニシテ生者ナレハ賞典ト稱スヘキモノナリ又扶助救助ノ名義モ死後ノ家族又ハ身體不具トナリタル者ニ下賜スルヨリ生シタル名義ニ

シテ其實ハ王事勤勞ノ功ヲ賞スルノ主旨ニ出ルナリ然レハ一方ヨリ見レハ一ノ賞典トシテ新規則ニ從ヒテ課稅スヘキモノヽ如シ而カモ他方ヨリ見ルトキハ其名稱ニ於テ既ニ賞典ト稱セサルノミナラス其事情大ニ他ノ賞典ト異ル所アリ是ニ於テカ翌四日大藏省ヨリ太政官ニ伺出テタリシカ太政官ハ翌三月十九日指令シテ此等ハ都テ課稅ニ及ハサル旨ヲ以テセリ尙ホ皇族ノ賞典祿ニ至テモ由緒別格ノ趣旨ニヨリ四月五日ノ大藏省ノ伺ニ對シ同月二十六日附ノ指令ヲ以テ太政官ハ前同樣課稅ニ及ハサル旨ヲ令達セリ

由來官祿稅ハ轉任兩廳ニ涉ル者ハ一月ノ收額ヲ折半シ兩廳ニ於テ徵收スルニヨリ屢々誤納ヲ生シ煩雜決シテ少ナシトセサルナリ況ンヤ有稅官免稅官ト交互遷轉ノ場合ノ如キ歸省病氣引籠糺問等ニテ減給ノ場合ノ如キ判任官ヘ逆退免職病死等ニ基キ向後無稅ニ屬スヘキ場合ノ如キ大ニ從來ノ徵稅法ヲ改メテ其手續ヲ簡易ニスルノ必要アリ仍テ明治九年十二月大藏省乙第百五號達ヲ以テ官祿稅徵收式竝ニ收稅表書式ヲ定メ該稅徵收ニ關スル細則ヲ規定セリ

大藏省達乙第百五號（明治十年二月二十二日）

官祿稅ノ儀轉任ニ就キ兩廳ヘ係リ候分ハ是迄一月收額ヲ上下半月ニ分チ兩廳ヨリ徵收候儀ノ處以後月俸支給ノ廳ニテ給額ニ應シ徵收シ竝轉免ノ節課除ノ區別等今般伺ノ上改正取計候ニ付テハ本年十二月分ヨリ別紙徵收式竝收稅表書式ニ照準徵收納送可取計此旨相達候事

官祿稅徵收式竝收稅表書式

一 官祿稅ハ其月每ニ給スル所ノ俸額ニ應シ稅則ニ照シ徵收シ翌月五日限（毎三月取束納付ノ分ハ納月十五日限リ）租稅寮ヘ納付スヘシ

一 有稅官ヘ新タニ任補セラルヽモノ竝無稅官ヨリ轉任スルモノハ其月十五日前後ヲ區分シ支給スル處ノ俸額ニ因テ徵收スヘシ

一 十六日後昇等轉任ノモノハ上半月ハ前官ノ俸額ニ因リ下半月ヨリ後官ノ俸額ヲ以テ徵收ス

一 降等轉任ノモノ猶有稅官ニシテ稅則ニ別ナキトキハ支給スル所ノ俸額ニ因テ徵收シ前官ト後官ノ俸給增減ニヨリ稅則ニ別（前官十分ノ一後官廿分ノ一アルトキハ上下半月ノ區分ヲ以テ各其俸給ヲ稅則ニ照シテ徵收シ無稅官ヘ轉任又ハ降等スルモノハ前官ノ全俸ヲ給スト雖モ其月ヨリ除稅ス

一 歸鄕給暇病氣引或ハ糺問等ニヨリ全月減給ノモノハ其月稅ヲ課セス半月分全俸ノ半額ヲ支給スルトキハ其半額ノ稅ヲ徵收ス

一 他ノ廳ヘ轉任スルモノハ昇等降等ニ拘ハラス前條令ニ照シ月俸支給ノ廳ニテ給額ニ應シ徵收ス

但前官（稅則二十分ノ一ニテ收稅ノ後轉任シ後官（稅則十分ノ一ト稅則ノ別ニヨリテ纔ニ徵收セシ稅半額ニ增差ヲ加フヘキモノハ後官ノ廳ニ於テ增給ノ稅ト俱ニ其差額ヲ併セテ追徵ス

一 免職又ハ病死ノモノハ十五日前後ノ別ヲ以テ半額或ハ全額ノ俸ヲ給スト雖モ渾テ其月ノ稅ヲ免除ス

一 從前新任轉免黜陟等各廳ヨリ租稅寮ヘ通達シ同寮ニ於テ收稅ノ元帳ヲ整理シ稅額ノ照査ニ供セシ所自今其都度通知ニ及ハス渾テ一箇月（毎三月納付ノ分ハ三箇月間）徵收ニ關セシ事故ハ收稅表

ニ附シテ通知スヘシ

但新任轉免黜陟ハ其官竝拜受ノ月日歸鄉休暇或ハ病痾等ニヨリ減給セシモノハ出發歸著亦ハ引籠全癒ノ期日官及ヒ人名トモ詳記スルヲ要ス

（書式略）

尋テ翌十年一月十一日太政官第三號達ヲ以テ勅任官以上ノ官祿稅ノ稅率ヲ改メテ總テ二割ト爲シ越ヘテ明治十二年三月十三日太政官達ヲ以テ工部省中技監大技長權大技長小技長ノ官祿稅ヲ免除セリ蓋シ技術官ハ全ク準官吏ノ性質ヲ有スルモノニシテ通常文官ト區別スルノ必要アルヲ以テナリ

是ヨリ先キ明治九年八月五日第百八號布告ヲ以テ金祿公債證書發行條例ヲ制定シ家祿賞典祿ハ明治十年以降公債證書ヲ以テ一時ニ下賜セラルヽコトヽナリ隨テ賞典家祿稅ハ自然廢止ニ歸セリ

斯クノ如ク一方ニ家祿稅ノ廢止アリタルノミナラス抑々祿稅ノモノタル當初陸海軍資ニ充ツルノ趣旨ニ出ツルト雖モ其實全ク一種ノ所得稅ナリ然ルニ獨リ有祿者ニノミ之ヲ課シテ其他ヲ問ハサルカ如キハ決シテ權衡ヲ得タルモノト云フヲ得ス是ニ於テカ明治十二年十二月廿七日第五十二號太政官達ヲ以テ翌十三年一月以降官祿稅モ亦タ之ヲ廢止セリ

祿稅收入額

年度	官祿稅	家祿賞典祿稅	合計
第七期	五九、六八〇円七五〇	〇円	五六、六八〇円七五〇

第八期	六四、一六三、六一〇	二、九四九、八三九、一四七	一三、〇一四、〇〇二、七五七
明治八年度	九二、六二〇、五七一	二、〇七五、一一八、〇三九	二、一六七、七三八、六一〇
明治九年度	七六、八八一、二九八	二、一三〇、一八七、二五二	二、二〇七、〇六八、五五〇
明治十年度	七〇、五九六、四三五	七〇、五九六、四三五	七〇、五九六、四三五
明治十一年度	七七、二八五、一一一	七七、二八五、一一一	七七、二八五、一一一
明治十二年度	四〇、〇五二、五五九	四〇、〇五三、五五九	

（備考）明治二年二月布告ニ依ル祿稅收入額ハ不明ナルヲ以テ之ヲ揭ケス

第十五節　僕婢稅

一般ニ僕婢ノ使用其モノニ對シ課稅スル制度ハ明治六年一月太政官布告第三十一號ニ始マル右布告第三十一號ニ依レハ皇族ノ外僕婢ヲ家事用ニ使役スル者ニ對シ僕婢稅ヲ課スルモノニシテ其稅額ハ僕婢ノ區別及其年齡ノ長幼ニ依リ之ヲ異ニシタリ而シテ該稅ハ馬車、人力車、駕籠、乘馬、遊船ノ諸稅ト同一法規中ニ定メタルヲ以テ該則中僕婢稅ニ關スルモノヲ左ニ揭クヘシ

布告第三十一號（明治六年一月三十日）

今般僕婢稅施行被仰出候條別紙規則ノ通相心得明治六年一月ヨリ納稅可致事

一　今度僕婢稅被相定國內一般施行被仰出候ニ付テハ各管內ニ於テ別紙規則ニ照準シ明治六年一月一日ヨリ收稅ノ儀可取計事

一　右稅金ハ半年分ツヽ取纏メ前半年分ハ其年八月後半年分ハ翌年三月限リ可相納其節現額

員數增減ノ廉廉別紙表式ノ通相製シ租稅寮ヘ可差出事

但別紙表式ハ不日可相達候事

一 從來取立來候納稅ノ內今度被定候僕婢稅ト同種ニ屬シ候向ハ都テ別紙規則ノ通改正可致事

一 右稅ハ全國一般ノ稅ニシテ全國ノ經費ニ相充候儀ニ付其土地限リ道路橋梁ノ修復或ハ貧民救育小學費用遞卒入費等ニ宛テ候爲メ同種ノ諸品上ニ付テ別ニ稅額ヲ立テ幾分ヲ增稅セシメ增分ヲ以テ右ノ入費ニ宛テ候儀適宜次第不苦候得共其都度租稅寮ヘ屆出可申事

一 從前伺ノ上取立候分又ハ伺ヲ不經其廳限リ取立候分トモ今般更ニ租稅寮ヘ屆出可申事

第一條 僕婢稅

第一則

一 皇族ノ外華士族平民ニ至ル迄家事用向ニ使用致シ候從僕ノ類ハ其身分ニ關セス十八歲以上ハ一箇年金二十五錢十七歲以下ノ者ハ同樣金十二錢宛各其主人ヨリ可相納事

但其年召抱候者或ハ一ケ年未滿ニシテ暇遣シ候類ハ前後其日數ニ割合可相納事

第二則

一 下婢ハ上仕下仕ニ論ナク十八歲以上ハ一箇年金十二錢十七歲以下ノ者ハ一箇年金六錢宛其主人ヨリ可相納事

第三則

一 農工商其他職業ノ爲メ使用致シ候分ハ男女トモ無稅ノ事

但其職業トハ農ノ作男工ノ弟子商ノ手代等ノ類ト可相心得事

第四則

一 從來召抱候僕婢ノ儀ハ其生國出所姓名年齡等相認メ此度限リ各其主人ヨリ所屬戶長ヘ相達シ自後抱替或ハ暇遣シ又ハ新ニ召抱候分ハ其都度々々戶長ヘ可屆出事

第五則

一 右上納ハ年々兩度ニ區別シ半年分ツヽ其地ノ戶長ヘ相集メ戶長ヨリ管轄府縣廳ヘ可相納事

然ルニ右僕婢稅ハ其收納額多カラサルノミナラス徵稅手續亦極メテ煩雜ナルヲ以テ明治八年二月布告第二十七號ヲ以テ之ヲ廢止セリ

第十六節 狩獵稅

第一款 狩獵稅ノ第一期

銃器ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ對シテハ舊幕府當時既ニ鐵砲役又ハ鐵砲運上ト唱ヘテ所在適宜ニ租稅ヲ賦課シタリシカ明治三年十月十四日大藏省達ヲ以テ從來ノ鐵砲役又ハ鐵砲運上ト稱シタルモノヲ改メ一般ニ獵師役ト稱スルコトヽシ明治五年一月二十九日第二十八號太政官達ヲ以テ初メテ銃砲取締規則ヲ制定シ同年四月以降之ヲ實施セリ蓋シ此規則タル鳥獸ノ保護ヲ目的トスルヨリハ寧ロ兵器ノ取締ヲ嚴ニスルノ主意ニ出タルモノトス而シテ右銃砲取締規則中銃獵ニ關スルモノハ其第六則ニシテ卽左ノ如シ

一　免許獵人ノ外猥リニ銃獵致間敷銃獵致度者ハ其管廳ヘ願出候得ハ吟味ノ上別紙ノ通其廳ヨリ免許獵札可差遣事

但免許獵人ノ姓名ハ其管廳ヨリ東京武庫司ヘ可届出事

然ルニ該則中ニハ徵稅ノ方法ニ關シテ別段ノ明文ナキヲ以テ同年二月二十日大藏省第二十三號達ヲ以テ從前通收稅方ヲ示シ併セテ獵師役ノ名義ヲ廢シ獵銃免許稅ト改稱セリ其達文左ノ如シ

大藏省達第二十三號（明治五年二月二十日）

此程銃砲取締規則御布告相成候處規則中獵銃免許ノ儀一般ノ制法被相設候ニ付テハ從來收入致候獵師役稅額ノ儀モ改正可有之候得共追テ相達候迄ハ總テ先ツ是迄ノ通リ收入可致事

但獵師役ノ名義ハ相廢シ獵銃免許稅ト相唱候事

由來銃獵ハ力耕ノ傍之ヲ以テ其生業ヲ助ケ或ハ僻鄉餘業無キノ地ニ於テハ專ラ之ヲ本業トセルモノニシテ從來鐵砲役或ハ獵師役ト稱シ永三百文以下ノ納稅ヲ以テ之ヲ許シ概ネ村落近傍ニ於テ發砲スルコトヲ禁シタルカ故ニ人民ニ對シ障害ナカリシノミナラス時トシテ猛獸ノ稼圃ヲ害スルヤ彼等ノ力ヲ資リテ驅逐セラレ鄉村ニ於テモ別段ノ苦情ヲ生スルコトナカリシト雖モ火器ノ使用漸ク開ケ人民ノ出願ニ應シ輒チ銃獵ヲ許スニ及テハ往々ニシテ人家ノ近傍ニ鳧雁等ノ野禽ヲ狙撃シ遂ニ人民ノ害トナルノ虞ナシトセス故ニ宜シク從來ノ永二三百文以下ノ納稅ヲ改メ更ニ其稅額ヲ重課シ併セテ其取締ヲ嚴ニスルノ必要アリ是ニ於テカ明治六年一月二十日第二十五號布告ヲ以テ鳥獸獵免許取締規則ヲ制定シ鑑札免許稅ヲ起シ從來ノ銃砲取締規則第六則竝ニ獵銃免許稅ヲ廢シタリ右布告中狩獵鑑札免許稅ニ關スル規定左ノ如シ

鳥獸獵免許取締規則等別紙ノ通被定候ニ付管內無遺漏觸示シ願出候者有之候者ハ身元竝近傍故障有無相糺差支無之ハ規則ニ照準鳥獸獵免許鑑札相渡屹度取締可相立事

但從前ノ獵銃稅ヲ相廢シ第二十八號布告ノ銃砲取締規則第六條ハ此規則ニ引換候事

一　鑑札免許稅ハ收入ノ度每大藏省ヘ相納一箇年分一人別帳ヲ製シ每年十二月限リ同省ヘ差出右總計ハ雜稅帖ヘ組入歲入皆濟帖ヲ以テ成算可致事

一　新規免許鑑札願出候者ハ時間ノ遲速ニ拘ラス稅金ハ一箇年ノ本額可爲納事

一　從前免許鑑札ヲ渡置モノ此規則ニ從ヒ鑑札改渡稅金上納濟ノ分ハ下戻更ニ本額ノ稅金可爲致上納事

鳥獸獵規則

第一條　銃砲ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ以テ生活トスルモノヲ職獵トシ遊樂ノ爲メニスルヲ遊獵トス

第五條　鑑札ヲ渡スニハ職獵ニハ壹圓遊獵ニハ十圓ツヽノ稅ヲ納ムヘシ

而シテ此規則ニ於テハ鑑札免許稅ハ各地方廳ヨリ大藏省ニ收納セシメ鳥獸獵免許ノ者ハ地方廳ヲシテ大藏省ニ届出テシメ更ニ銃獵ノ分ハ陸軍省ヘモ届出ツヘキモノトセリ尋テ同年三月十八日布告第百十號ヲ以テ右ノ規定ヲ改正シ鳥獸獵規則ト稱シ從來免許稅トアルヲ免許料ト爲シ從來鳥獸獵免許ノハ者、大藏省ノ外陸軍省ヘモ届出ツヘキモノト爲リ右布告第百十號中該稅ニ關スル條項ヲ擧レハ左ノ如シ

本年第二十五號布告鳥獸獵免許取締規則別紙ノ通改正候ニ付各管內ヘ布達シ願出候者ハ身元竝近傍故障有無取調差支無之ハ規則ニ照準免許鑑札相渡屹度取締可致事

但從前ノ獵銃稅ヲ相殿シ第二十八號布告ノ銃砲取締規則第六條竝發砲ノ儀ニ付戊辰九月己巳四月庚午五月中達ノ趣ハ此規則ニ更換候事

一 免許鑑札料ハ收入ノ度每大藏省ヘ相納一箇年分一人別帳ヲ製シ每年十二月限リ同省ヘ指出右總計ハ雜稅帖ヘ組入歲入皆濟帖ヲ以テ成算可致事

一 從前免許鑑札ヲ渡置モノ此規則ニ從ヒ鑑札改渡稅金上納濟ノ分ハ下戻更ニ本額ノ免許料可爲致上納事

鳥獸獵規則

第五條 鑑札ヲ渡スニハ職獵ニハ一圓遊獵ニハ十圓ツヽノ免許料ヲ納ムヘシ

右ノ如ク銃獵稅ハ之ヲ免許料ト爲シタリシカ翌明治七年十一月十日第百二十二號布告ヲ以テ鳥獸獵規則ヲ改正シ免許料ヲ改メテ更ニ銃獵稅ト改メタリ

而シテ皇族ノ銃獵ニ付テハ從來ノ規則中何等ノ明文ナカリシカ同年同月二十五日第百五十七號太政官達ヲ以テ許可ノ手續竝ニ稅金ノコトヲ定ム其達左ノ如シ

太政官達第百五十七號（明治十一月二十五日）

皇族銃獵ノ儀別紙ノ通宮內省ヘ相達候條此旨爲心得相達候事

宮內省

皇族遊獵被願出候節ハ從其省該地管廳ヘ照會シ鑑札受取可相渡尤銃獵規則遵守可有之ハ勿論ニ候ヘ共納稅ニハ不及候條此旨相達候事

尋テ明治八年一月二十八日大藏省乙第十一號ヲ以テ納稅期限ヲ改正シ銃獵稅ノ收納シタルモノ

ハ時々租稅寮ヘ上納シ銃獵內譯帳ハ每年六月三十日限リ租稅寮ヘ差出スヘキ旨ヲ達セリ而シテ又外國人ノ遊獵ニ付テハ未タ何等ノ規定ナキヲ以テ免許鑑札下渡ヲ爲サヽリシ爲メ往々無鑑札ニテ銃獵スルモノヲ生シ其弊害少カラサリシヲ以テ政府ハ各國公使ト交涉ノ末其取締方ヲ協定シ明治十年一月四日內務省達丙第一號ヲ以テ外國人銃獵免狀取扱條例ヲ制定シ其第七條ニ於テ免狀ヲ付與スル場合ニハ免狀料トシテ金十圓ヲ徵收スヘキ旨ヲ定メタリ

又明治七年ノ公布ニ係ル鳥獸獵規則ハ不備ノ點少カラサルヲ以テ之ヲ改正增補スルノ必要ヲ認メ明治十年一月二十三日第十一號布告ヲ以テ該則ヲ改正セリ其狩獵稅ニ關スル規定左ノ如シ

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノ爲メニスルヲ遊獵トス

第四條 免狀ハ其效一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若クハ授受スルコトヲ禁ス

第五條 免狀ヲ願受ル者ハ左ノ通免許稅ヲ納ムヘシ

一 職獵稅 金壹圓

一 遊獵稅 金拾圓

第六條 水火盜難其他ノ事故ニヨリ免狀ヲ毀失スル時ハ速ニ東京府下ニ於テハ內務省其他ハ該地方官廳ニ屆出ヘシ再ヒ免狀ヲ願受クル者ハ更ニ稅金ヲ納ムルニ及ハスト雖モ手數料トシテ金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

斯クテ久シク大藏省ノ直轄ニ屬シタル狩獵稅ノ收入ハ爾來內務省ノ所管ニ屬スルコトヽ爲レリ是ヨリ先キ明治九年二月十八日甲第二號大藏省達ヲ以テ諸種ノ鑑札ヲ受ケタル後廢業又ハ換業等ヲ爲セル者ハ稅金ヲ返付シ手數料ヲ徵收スルコトヽ爲セルカ右ノ改正規則ハ從來鑑札ト稱シ

タルモノヲ免狀ト改メタルニ拘ハラス特ニ之ニ付テ規定スル所ナキニヨリ明治十年二月二十日乙第二十一號內務省達ヲ以テ廢換業者處分方ヲ右明治九年甲第二號大藏省達ニ準スルコトヽ爲セリ尋テ翌明治十一年十月五日丙第五十三號內務省達ヲ以テ外國人銃獵免狀取扱條例ヲ改正シ其第七條ニ於テ免狀付與スル節ハ免狀料トシテ金拾圓ヲ徵收ス但遺失毀傷等ニヨリ免狀再渡ヲ乞フ時モ同斷タルヘキ旨ヲ定メタリ斯ノ如ク免狀ノ遺失毀損等ニヨリ再渡ヲ乞フ外國人ニ對シテハ拾圓ヲ徵收スルコトヽセルモ內國人ニアリテハ手數料トシテ二十五錢ヲ徵收スルニ止マリ甚タ權衡ヲ得サルヲ以テ明治十二年三月十七日丙第十四號內務省達ヲ以テ右條例第七條但書ヲ改正シ遺失毀傷等ニ因リ免狀再渡ヲ乞フトキハ手數料トシテ金貳拾五錢ヲ收入スヘキ旨ヲ定メタリ

越テ明治十四年九月十三日第四十三號布告ヲ以テ明治十年十一號布告鳥獸獵規則中內務省トアルハ農商務省ニ內務卿トアルハ農商務卿ニ改正セリ是ニ於テカ明治十年以降內務省ニ屬シタル狩獵免狀ノ事務ハ遂ニ農商務省ノ所管ニ歸セリ但シ東京府下ニ於ケル狩獵免狀渡方事務ハ取締上警視廳ニ於テ取扱フヲ便宜トスルカ故ニ十一月四日第六十一號布告ヲ以テ該規則第三條第六條中農商務省トアルヲ警視廳ト改正セリ越テ明治十六年五月七日第四號農商務省達ヲ以テ明治十年內務省乙第二十一號達ヲ廢止シ免狀ヲ受ケタル後廢業又ハ換業等ヲ爲スモノニ對シテ稅金ヲ返付セサルコトヽ爲セリ而シテ我國在留ノ朝鮮人ハ歐米人及支那人等ト異リ條約上全然我國法ニ服從スヘキモノナルヲ以テ狩獵免許ニ付テ內國人一般ノ取扱ヲ受クヘキハ勿論ナリ然レトモ從來之ニ關シ特別ノ明文ナカリシヲ以テ同年十月二日第十二號農商務省達ヲ以テ其明文ヲ設

ケ本邦在留朝鮮人鳥獸獵免狀ヲ請求スルトキハ遊獵免狀ヲ下付シ總テ內國人同樣處分スヘキ旨ヲ達セリ而シテ又從來鳥獸獵定期免狀ヲ受ケタル者ニ伸期ヲ許可スルトキハ本人所持ノ免狀ノ月日ノミ書キ改メ別ニ手數料ヲ徵收セサル成規ナリシモ改姓名又ハ轉居等ノ爲メ更ニ書改メ方出願ノ者ニ對シテハ未タ一定ノ成規ナカリシヲ以テ明治十七年六月三十日第二十號農商務省達ヲ以テ之カ取扱方ヲ定メ別ニ免狀書換手數料ヲ取立テス本人所持ノ免狀ニ姓名又ハ住所ノミ書改メ主任者檢印下付スルコトヽ爲セリ

第二款　狩獵稅ノ第二期

明治二十五年十月六日勅令第八十四號ヲ以テ狩獵規則ヲ制定シ鳥獸獵規則ヲ廢止ス蓋シ當時ノ鳥獸獵規則ハ明治十年ノ公布ニ係リ其規則甚タ不備ニシテ鳥獸濫獲ノ弊ヲ釀セルノミナラス殊ニ漸次遊獵ト職獵トノ區別明カナラサルニ至リ隨テ著シク職獵者ノ數ヲ增加シテ到ル處ニ鳥獸ヲ捕獲シ甚タシキハ其種類ヲ殺盡スルノ虞アルニシテ其他ノ獵具ヲ問ハサルニ由リ銃獵以外ノ獵具ヲ以テ狩獵スル者ニ對シテハ殆ント其濫殺ヲ制抑スルノ道ナク僅ニ地方官ニ訓令シテ有益鳥類ノ捕獲ヲ禁止セシト雖モ其制裁嚴ナラス隨テ禁ヲ犯ス者甚タ多キニ至レリ而シテ此等ノ弊害ヲ芟除スルニハ區々省令又ハ訓令ノ能クスヘキ所ニアラスシテ根本的ニ狩獵規則ヲ改正スルノ必要アリタルニ由ルナリ今勅令第八十四號狩獵規則中免許料ニ關スル條項ヲ抄錄スレハ左ノ如シ

狩獵規則（抄錄）

第一章 獵具獵法

第一條 此規則ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器各種ノ網放鷹繩又ハ擾ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二章 狩獵免許

第七條 免許ヲ分チテ職獵免狀遊獵免狀トシ更ニ分チテ各甲乙ノ二種トス

職獵免狀ハ生計ノ爲メニ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ遊獵免狀ハ遊樂ノ爲ニ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第九條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許料ヲ納ムヘシ

職獵免狀	甲種	金五十錢
	乙種	金壹圓
遊獵免狀	甲種	金五圓
	乙種	金拾圓

第十條 甲種免狀ノ有效期限ハ十月十五日ヨリ滿一ケ年トシ乙種免狀ノ有效期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

第三十三條 此規則ハ明治二十五年十月十五日ヨリ施行ス但銃器ヲ使用セサル狩獵ノ免許ハ

明治二十六年十月十五日ヨリ施行ス

第三十四條 明治十年一月第十一號布告鳥獸獵規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

斯クテ右狩獵規則ハ明治二十五年十月十五日ヨリ實施スルコトヽナリタリシカハ之カ施行細則ヲ制定スルノ必要アリ仍テ同月十五日農商務省令第十三號ヲ以テ狩獵規則施行細則ヲ定メ其第四條ニ於テ狩獵規則第十三條第二項ニ據リ免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手數料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘク前項ノ登記印紙ハ其請求書ニ貼付消印スヘキ旨ヲ定メタリ尋テ同年十一月一日勅令第九十號ヲ以テ狩獵及獵區決定ニ關スル免許料ハ其金額ニ相當スル登記印紙ヲ以テ當該管廳ニ差出サシムルモノトシ同月二日農商務省令第十五號ヲ以テ狩獵規則細則中ヲ左ノ如ク改正セリ

第四條 狩獵規則第九條ノ免許料ハ狩獵免狀下付ノ際其金額ニ相當スル登記印紙ヲ免狀ノ受領書ニ貼付消印スヘシ

狩獵規則第十三條第二項ニ據リ免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手數料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第二項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第三款 狩獵稅ノ第三期

明治二十五年十月ノ公布ニ係ル狩獵規則ハ保護鳥獸鳥獸保護期限及狩獵者資格等實際ニ適合セサルモノアルヲ認メ明治二十八年三月二十七日法律第二十號ヲ以テ更メテ狩獵法ヲ制定シ前キ

ノ狩獵規則ヲ廢止ス新狩獵法ノ重ナル條項ハ左ノ如シ

狩獵法（抄錄）

第一章 獵具獵法

第一條 此法律ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器各種ノ網放鷹繩又ハ撲ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二章 狩獵免許

第八條 免狀ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲナス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲナス者ニ下付スルモノトス

第九條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等（所得稅拾五圓若クハ地租貳百圓以上納ムル者）（甲種金五圓）（乙種金拾圓）

二等（所得稅參圓以上若クハ地租四拾圓以上納ムル者又ハ一等ニ相當スル者ノ家族）（甲種金壹圓五拾錢）（乙種金五拾錢）

三等一等二等以外ノ者（甲種金壹圓）

第十條 甲種免狀ノ有效期限ハ十月十五日ヨリ滿一ケ年トシ乙種免狀ノ有效期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

地方長官ハ土地ノ狀況ニ因リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ前項ノ期限ヲ三十日以內伸縮スルコトヲ得

又同日第四號農商務省令ヲ以テ狩獵法施行細則ヲ制定セリ其狩獵稅ニ關スル個條ヲ摘載スレハ左ノ如シ

狩獵稅施行細則

第三條 狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所族籍職業氏名年齡ヲ詳記シ且狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ

第四條 狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手數料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

前項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

斯ノ如ク免狀ノ再渡書換ノ手數料ニ限リ登記印紙ヲ以テ徵收スルノ官民ニ便宜ナルヲ認メ明治三十年三月十七日法律第七號ヲ以テ稅額ニ相當スル印紙ヲ以テ納付スルコトヽ爲シタリシカ免許稅モ亦隨時ノ收入ニ屬シ印紙ヲ以テ徵收スルノ官民ニ便宜ナルヲ認メ明治三十年三月十七日法律第七號ヲ以テ稅額ニ相當スル印紙ヲ以テ納ムルモノトシ同年四月一日ヨリ施行スルコトヽセリ

仍テ狩獵免許稅ヲ登記印紙ニテ納付スル件ニ付明治三十年八月十九日農商務省告示第三十號ヲ以テ「狩獵免許稅ハ本年法律第七號及本年大藏省告示第十六號ニ依リ登記印紙ヲ以テ納ムヘキニ付テハ狩獵免許出願者ハ其願書ニ貼付シタル印紙ニ消印ヲ爲サス當該官廳ニ差出スヘシ當該官廳ハ免許ヲ與ヘタルトキ之ニ消印スヘシ」ト定メタリ

第四款 狩獵稅ノ第四期

従來ノ狩獵法ハ時世ノ進歩ニ從ヒ不備ノ點少ナカラサルノミナラス免許稅モ亦タ增加スルノ必要アルヲ以テ明治三十四年四月十二日法律第三十三號ヲ以テ狩獵法ヲ改正セリ其全文左ノ如シ

狩獵法（抄錄）

第一章 獵具獵法

第一條 本法ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、網、翦繩又ハ擾ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ
前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條 爆發物、劇藥、毒藥、据銃又ハ危險ナル罠若ハ陷穽ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス
前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ揭ケサルモノニ就テハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條 日出前、日沒後又ハ市街、人家稠密ノ場所衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ處アル建物、船舶若ハ汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ニ揭クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

一 御獵場
二 禁獵區
三 公道
四 公園
五 社寺境內

六 墓地

第五條 欄、柵、圍障若ハ作物植物アル他人ノ所有地ニ於テハ所有者又ハ占有者、他人ノ共同狩獵地ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 地方長官ハ鳥獸ノ蕃殖保護ノ爲又ハ土地所有者ノ出願其他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ十箇年以內ノ期間ヲ以テ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第七條 地方長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ區域ヲ限リ銃獵ヲ禁スルコトヲ得

第二章 狩獵免許

第八條 狩獵ハ地方長官ニ願出テ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ欄、柵、圍障アル宅地內ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此限リニ在ラス第二十二條ノ處罰ヲ受ケタルモノハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域內ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受クルコトヲ得但シ其出願ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十條 免狀ヲ分チテ甲乙ノ二種トス
甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第十一條 免狀ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

一等（所得稅百五十圓以上、地租五百圓以上若ハ營業金二十圓以上ヲ納ムル者又ハ其家族）
二等（所得稅二十圓以上、地租三十圓以上若ハ營業金十圓以上ヲ納ムルモノ又ハ其家族）

三等　一等二等以外ノ者　金二圓

第十二條　免狀ノ有效期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

前項期間內ニ非ラサレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス

第十四條　獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帶スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ檢查スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ檢查ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條　免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ屆出ツヘシ

免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ手數料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十六條　未成年者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得

第十七條　免狀ハ其效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以內ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十八條　學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ理由ニ由リ保護鳥獸又ハ其ノ他ノ鳥獸ノ捕獲ヲ要スルトキハ地方長官ハ何時タリトモ特ニ之カ許可ヲ與フルコトヲ得但シ捕獲シタル鳥獸ハ之ヲ賣買スルコトヲ禁ス

前項ノ場合ニ於テハ第十一條ヲ適用セス

第四章　罰則

第二十一條　第八條第一項第十二條第二項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ狩獵免狀若ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケ又ハ詐リテ共同狩獵地ヲ表示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル器具ハ之ヲ沒收ス

第二十二條　第二條第一項第三條若ハ第四條ニ違背シタル者ハ罰前條ニ同シ

前項ノ處罰ヲ受ケタルモノヽ免狀ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

第二十三條　第五條第十四條第三項第十九條第一項第二十條ニ違背シタル者ハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス但第五條ニ付テハ土地所有者占有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタルモノヽ告訴ヲ待テ處斷ス

第二十四條　第十四條第一項第十五條第一項第十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第二十五條　本法ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條　本法施行前ニ免許ヲ受ケタル獵區及共同獵地ハ本法施行後ト雖其免許期間仍從前ノ規定ヲ適用ス

第二十七條　本法施行前ニ受ケタル狩獵免狀ハ本法施行後仍其ノ效力ヲ有ス

第二十八條　本法施行前ニ明治二十八年法律第二十號狩獵法ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタ

ルトキハ本法施行後仍其ノ罰則ヲ適用ス

第二十九條　明治二十八年法律第二十號狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルモノハ滿一箇年ヲ經過スルニ非サレハ本法ニ依リ狩獵免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第三十條　本法中地方長官ノ職務ハ東京市ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

本法中市町村長ノ職務ハ北海道沖繩縣ノ區ニ於テハ區長町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ町村長ニ該當スヘキ者之ヲ行フ

狩獵法ノ施行ニ關シテハ明治三十四年六月農商務省令第七號ヲ以テ狩獵法施行規則ヲ公布シタリ但シ稅法ニ關スルモノナキヲ以テ之ヲ略ス

銃獵稅收入額

年度	職獵免許稅	遊獵免許稅	免狀再渡及書換手數料	合計
第六期	○円	○円	○円	七、八四〇、五七五
第七期	○	○	○	四五、九九二、二五〇
第八期	○	○	○	三六、四〇九、三〇七
明治八年度	○	○	○	四六、九二〇、六〇〇
同九年度	四四、八二二、一七一	一、八一〇、〇〇〇	○	四六、六三二、一七一
同十年度	三八、六八五、二三六	三、七二〇、〇〇〇	○	四二、四〇五、二三六
同十一年度	四四、六二八、四四八	三、九一〇、〇〇〇	○	四八、五三八、四四八
同十二年度	五九、〇八〇、〇四〇	四、九〇〇、〇〇〇	○	六三、九八〇、〇四〇
同十三年度	七三、六二八、一二七	五、六三〇、五〇〇	○	七九、二五八、六二七
同十四年度	八三、七二二、五五〇	六、五九二、四〇〇	○	九〇、三一三、九五〇
同十五年度	七八、九四一、四〇〇	六、九五〇、七五〇	○	八五、八九二、一五〇
同十六年度	六一、九六八、〇〇〇	六、八八三、二五〇	○	六八、八五一、二五〇
同十七年度	四九、六七四、二五〇	六、五四一、〇〇〇	○	五六、二一五、二五〇
同十八年度	四三、四三六、二五〇	六、五八一、五〇〇	○	五〇、〇一七、七五〇
同十九年度	四一、五六一、〇〇〇	六、八六〇、〇〇〇	三七七五〇	四八、四五八、七五〇
同二十年度	四九、八七二、〇〇〇	七、六四〇、〇〇〇	三八五〇〇	五七、五五〇、五〇〇
同二十一年度	六三、七五五、〇〇〇	八、六七〇、〇〇〇	五四、〇〇〇	七二、四七九、〇〇〇
同二十二年度	八一、四二一、〇〇〇	一〇、五二〇、〇〇〇	〇	九一、九四一、〇〇〇
同二十三年度	八六、五三四、二五〇	一〇、〇一三、七五〇	〇	九六、五四八、〇〇〇
同二十四年度	八八、六七七、二五〇	一三、三一二、五〇	〇	一〇一、九八九、五〇〇
同二十五年度	一七、二一一、五〇〇	一、九六〇、〇〇〇	〇	一九、一七一、五〇〇
同二十六年度	〇	〇	〇	〇
同二十七年度	〇	〇	〇	〇
同二十八年度	〇	〇	〇	一四九、一九八、六〇〇

同	二十九年度	○		○		○		一八七、九一八	○○○
同	三十年度	○		○		○		二〇四、五八九	○○○
同	三十一年度	○		○		○		二一一、一六六	○○○
同	三十二年度	○		○		○		二三七、七六三	○○○
同	三十三年度	○		○		○		二四四、九五三	○○○
同	三十四年度	○		○		○		二七二、六一六	○○○
同	三十五年度	○		○		○		二五四、一〇六	○○○

（備考）

一 第五期以前ニ於ケル收入額ハ運上諸冥加金中ニ合算シ本稅各期間ノ收入額不明ナリ

一 第六期ヨリ明治八年度ニ至ル本稅收入額ハ其細別不明ナルヲ以テ其合計額ヲ示ス

一 明治二十八年度以降ハ稅法改正ノ爲メ遊獵職獵ノ別ヲ存セサルヲ以テ其合計額ノミヲ示ス

一 明治二十五年度ヨリ同三十五年度迄ハ印紙貼用ノ法ニヨリ徵稅セルヲ以テ此期間ニ屬スル各年度ノ狩獵免許ニ對スル課稅額ヲ掲出ス

一 明治二十五年十月勅令第八十四號ニ依リ明治二十五年十月十五日ヨリ明治二十八年三月三十一日迄ハ本稅ハ手數料トシテ徵收セラレタルヲ以テ其收納額ヲ示サス

第十七節 車稅

車ノ使用ニ對シテ課稅スルノ制ハ維新以前ニ於テモ已ニ存在セリト雖モ纔ニ都府ニ於ケル貨物運搬ノ車輛ニ課スニ止マリタルモノヽ如シ然ルニ維新以來各地車輛ノ用途歳ヲ逐ウテ開ケ就中明治四年ヨリ六年ノ際ニ及ヒ人力車ノ流行一時ニ盛ントナリ隨テ道路橋梁ヲ破損スルコト少カラサルニ至レルヲ以テ明治四年五月二十四日太政官布告第二百五十六號ヲ以テ先ツ東京府下ニ於テ所用ノ諸車ニ限リ租稅ヲ課徵シ以テ道路修繕費ニ充ルコトヲ定メタリ其布告文ハ左ノ如シ

今般東京府下道路修繕ニ付商賈所用大小ノ車取入賃銀百分ノ三ヲ以テ右入費ヘ爲差出候間在府ノ諸官員及華士族卒タリ共馬車人力車所持致候者右定額ニ準シ入費可差出事

右ノ布告ハ車稅ニ關スル規定ノ嚆矢ナリト雖モ未タ國稅ノ性質ヲ備フルニ至ラサリシカ明治六年一月布告第三十一號ヲ以テ馬車人力車稅ヲ新設シ全國一般ニ之ヲ施行スルコトヽセリ右布告ニ依レハ馬車ハ輪數及馬匹ノ數ニヨリ稅額ヲ異ニシ人力車ハ輪數及構造ノ大小ニヨリ其稅額ヲ別チ營業者ニ對シテハ其稅額ヲ半減セリ而シテ右布告ハ車稅ノ外僕婢駕籠乘馬遊船等諸稅ヲ併セ規定シタルヲ以テ今車稅ニ關スル部分ノミヲ左ニ抄錄スヘシ

布告第三十一號（明治六年一月三十日）

一 今度馬車人力車稅被相定國內一般施行被仰出候ニ付テハ各管內ニ於テ別紙規則ニ照準シ明治六年一月一日ヨリ收稅ノ儀可取計事

一 右稅金ハ半年分ツヽ相纏メ前半年分ハ其年八月後半年分ハ翌年三月限リ可相納其節現額員數增減ノ廉々別紙表式ノ通相製シ租稅寮ヘ可差出事

但別紙表式ハ不日可相達候事

一 從來取立來候納稅ノ內今度被定候馬車人力車稅ト同種ニ屬シ候向ハ都テ別紙規則ノ通改正可致事

一 右諸稅ハ全國一般ノ稅ニテ全國ノ經費ニ相充候儀ニ付其土地限リ道路橋梁ノ修復或ハ貧

民救育小學費用遷卒入費等ニ宛テ候爲メ同種ノ諸品上ニ付テ別ニ稅額ヲ立テ幾分ヲ增稅セシメ增分ヲ以テ右ノ入費ニ宛テ候儀適宜次第不苦候得共其都度都度租稅寮へ届出可申事

一 從前伺ノ上取立候分又ハ伺ヲ不經其廳限リ取立候分トモ今般更ニ租稅寮へ届出可申事

僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船等諸稅規則

第二條 車駕籠稅

第一則

一 皇族ノ外華士族平民自分用ノ馬車人力車等ハ第二則ヨリ第四則ニ照準納稅可致事

第二則

一 四輪以上ニテ貳疋立以上之馬車ハ一ヶ年金五圓四輪以上ニテ一疋立ハ一ヶ年金四圓三輪以下ニテ二疋立ハ三圓一疋立ハ金二圓可相納事

第三則

一 人力車四輪以上ハ一ヶ年金二圓三輪以下二人乘ハ一ヶ年金一圓五十錢一人乘ハ金壹圓可相納事

（第四則略）

第五則

免許ノ上馬車人力車等ヲ以テ渡世相營候者ハ都テ前定稅ノ半高可相納事

第六則

一 荷物運送之爲メ相用候馬車大八車手車小車等ハ此稅則ニ不入事

但府縣廳限リ道路橋梁修覆等ノ爲メ取立候儀ハ此限ニ非ス

第七則

一 從來相用居候分モ此度限リ所持ノ分員數取調其所屬戶長へ可届出事

第八則

一 有稅無稅ノ論ナク以來新調ノ車ハ其都度々々戶長へ届出檢印可申受事

第九則

一 新調ノ分納稅ノ儀六月以前ノ分ハ全年分七月以後ノ分ハ半年分上納ノ儀ト可相心得事

第十則

一 右上納ハ年々兩度ニ區別シ半年分ツヽ其地ノ戶長へ相集メ戶長ヨリ管轄府縣廳へ可相納事

第五條

一 無届ニテ馬車人力車受用致シ居ル者後日露顯致スニ於テハ過料トシテ一箇年定稅ノ五倍ツヽ可爲差出事

以上述フル如ク車稅ハ當初婢僕遊船等ト一括シテ規定セラタリシト雖モ此ノ如キハ錯雜ヲ免カレサルノミナラス僕婢駕籠乘馬等ハ寧ロ廢稅ト爲スノ便ナルヲ認メタルヲ以テ茲ニ明治八年二月二十日第二十七號布告ヲ以テ車稅規則ヲ定メ同時ニ從來行ハレタル僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸稅規則ヲ廢止セリ該車稅規則ノ全文左ノ如シ

車稅規則

第一則

一 馬車二匹立以上　壹箇年稅金三圓
一 同　一匹立　壹箇年稅金二圓
一 荷積馬車　壹箇年稅金一圓
一 人力車二人乘　壹箇年稅金二圓
一 同　一人乘　壹箇年稅金一圓
一 牛車　壹箇年稅金一圓
一 荷積大七大八車　壹箇年稅金一圓
一 荷積中小車但大六以下　壹箇年稅金五拾錢

第二則

一 新調ノ車ハ總テ其都度區戶長ヘ屆出檢印可申受事
但從來所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則

一 新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅候儀ト可相心得事

第四則

一 右稅金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戶長ヘ取集メ其管轄廳ヘ可相納事

但前半年分ハ其年七月三十一日限リ後半年分ハ翌年一月三十一日限リ其管轄廳ヘ可相納事

第五則

一 荷積車ノ內耕作一途ニ相用候分ハ免稅タルヘキ事

第六則

一 諸車類無屆ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科料タルヘキ事

斯クテ明治八年三月二十四日大藏省達乙第四十號ヲ以テ右車稅規則第五則荷積車ノ內耕作一途ニ用ソル車ハ車稅免除ノ檢印ヲ爲シ之ヲ取締ルヘキ旨ヲ達シ尋テ明治十一年二月十五日布告第四號ヲ以テ納稅期ヲ改正シ稅金前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ其管轄廳ヘ納付スヘキ旨ヲ定メ同年七月十五日大藏省達乙第三十五號ヲ以テ大車及中小車ノ區別ヲ明ニスルタメ左ノ如ク之ヲ達セリ

大藏省達乙第三十五號（明治十一年七月十五日）

車稅規則中荷積車ノ儀ハ荷臺（全ク荷物ヲ積載スル場所）ノ縱橫相乘尺積十四坪以上ヲ以テ大七車以上トシ右未滿ヲ以テ中小車（大六以下）ト相心得更ニ區別可致此旨相達候事

更ニ明治十三年六月十一日大藏省達乙第二十三號ヲ以テ車輛ニ修繕ヲ加ヘ爲メニ稅額ニ增減ヲ生シタルトキハ新調ト認メ更ニ該期ヨリ相當ノ稅金ヲ徵收スルコト、爲シ同年十月十五日同達乙第三十五號ヲ以テ自轉車ヲ人力車同樣取扱フヘキ旨ヲ布達セリ

大藏省達乙第三十五號（明治十三年十月十五日）

自轉車之儀各地取扱方區々相成居候趣相聞候處右ハ素ヨリ人力車部中ノモノニ付同樣課稅可致儀ニ候條爲心得此旨相達候事

尋テ明治十四年九月二十二日大藏省達乙第三十二號ヲ以テ人力車壹人乘二人乘ノ區別ヲ明ニシ橫巾內法曲尺二尺未滿ヲ以テ壹人乘トシ右以上ヲ以テ二人乘トナス旨ヲ達セリ而シテ自轉車ニ關シテハ明治十三年達ヲ以テ人力車同樣取扱フヘキ旨ヲ達シタリシカ明治十六年八月十五日大藏省達第五十四號ヲ以テ右達ヲ廢止シ之ニ車稅ヲ課セサルコトヽセリ

斯ノ如ク車稅規則ニ關シテハ隨時疑義ノ生スルニ應シテ布達ヲ發シテ規則ノ意義ヲ明ニシタリト雖モ如何セン其條文ノ不備ナル往々百民ヲシテ識ラス知ラス稅則違犯ニ陷ラシメ他ノ一面ニハ動モスレハ稅則上稅務官吏ノ間ニ異見ヲ生スルノ例頻々相接セリ是ニ於テカ明治二十年十一月大藏省訓示第六二五三號ヲ以テ該則適用ノ要點ヲ詳示セリ車稅規則取扱心得是ナリ其全文ハ左ノ如シ

大藏省訓示第六二五三號（明治二十年十一月二十五日）

從來車稅規則取扱ニ關シ各地ニ於テ往々一定ナラサルモノアリ右ハ自今左ノ各項ニ據リ區々ニ相成ラサル樣取扱フヘシ

右訓示ス

車稅規則取扱心得

第一項　凡ソ物品運搬ノ用ニ供使スル車ハ總テ稅則第一則第七項第八項ニ準シ其稅ヲ徵收スヘシ

第二項　稅則第五則ノ耕作一途用車トハ稅則第一則第三項第六項第七項第八項ニ該當シ若クハ第七項第八項ニ準スルモノニシテ農家ニ於テ農具種子肥料塵芥收穫物ヲ運搬スル自家所用ノ車ヲ云フ

第三項　耕作一途用車ト雖モ前第二項ニ揭クル物品ヲ販賣ノ爲メ運搬スルモノハ免稅ノ限ニアラス

第四項　耕作一途用車ノ外左ノ場合ニ供使スルモノハ其用途ヲ烙記シ免稅ノ取扱ヲ爲スヘシ

一　非常專用ノ車

一　郵便物遞送ニ專用スル車ニシテ遞信省ノ指定ニ據リ構造スルモノ

一　公立幼稚園所屬ノ車ニシテ育兒ノ用ニ供スルモノ

一　避病院所屬ノ車ニシテ傳染病患者消毒藥品若クハ死體汚穢物ヲ運搬スルモノ

第五項　製造所若クハ鑛山借區內ノ如キ一場內ニ專用スルモノ又ハ祭典專用ノ山車ノ如キハ課稅ノ限ニアラス

第六項　免稅車及前項ノ車ヲ普通ノ用途ニ供使セント欲スルモノアルトキハ郡區役所ニ願出更ニ普通車ノ檢印ヲ請ハシムヘシ

第七項　馬車壹疋立ヲ貳疋立ニ兼用スルモノハ兼テ郡區役所ニ屆出馬車貳疋立ノ檢印ヲ受ケシムヘシ

第八項　普通荷臺ノ外別ニ積載ノ場所ヲ架設シ其坪數ヲ增加シテ使用スルモノハ其本車ト共ニ郡區役所ニ屆出檢印ヲ受ケシムヘシ

第九項　馬車荷積馬車人力車牛車荷積車ノ各類中其車類ヲ變更シ若クハ其一類中馬車馬ノ匹數人力車乘臺ノ橫巾（曲尺貳尺未滿ヲ貳尺以上ニ改造スルノ類）荷積車ノ坪數（曲尺十四坪未滿ヲ十四坪以上ニ改造スルノ類）ヲ增加シテ稅金ニ增差ヲ生シタルトキハ該期ヨリ其增差ニ係ル金額ヲ徵收スヘシ

第十項　車ノ檢印ヲ爲ストキハ稅則第一則ノ各類ニ從ヒ第一號ヨリ逐次其番號ヲ烙記スヘシ

但再記スルトキ舊番號ハ之ヲ缺號トナスヘシ

第十一項　車體ノ檢印等ヲ磨滅毀損シ若クハ左ノ場合ニ係リタルトキハ速ニ郡區役所ニ屆出檢印ヲ請ハシムヘシ

一　車類ヲ變更シタルトキ

一　馬車馬ノ匹數ヲ增減シタルトキ

一　車ニ修繕ヲ加ヘ稅金ニ差異ヲ生シタルトキ

第十二項　車ヲ解撤シ又ハ之ヲ亡失シ若クハ改姓名代替轉居シタルトキハ其始末ヲ詳記シ速ニ郡區役所ニ屆出サシムヘシ

第十三項　車ヲ賣拂ヒ若クハ讓渡シタルトキハ其買受人若クハ讓受人ト連署ノ上郡區役所ヘ屆出サシムヘシ

其買受人若クハ讓受人ト郡區役所ヲ異ニスルトキハ連署ヲ以テ仍ホ其買受人若クハ讓受人ノ郡區役所ニ於テハ第十三項第二節ノ屆出ヲ受ケタルトキハ

第十四項　買受人若クハ讓受人ノ郡區役所ニ於テハ第十三項第二節ノ屆出ヲ受ケタルトキハ車臺帳ヘ登記シ速カニ其旨ヲ賣拂人若クハ讓渡人ノ郡區役所ヘ報道スヘシ

尋テ明治二十一年二月二十四日勅令第七號ヲ以テ車稅規則ヲ實施セリ是レ當時北海道ニ於テハ大ニ拓地殖民ヲ奬勵スルノ際交通運輸ノ機關タル諸車ニ課稅スルカ如キハ全ク其趣旨ニ反スルノミナラス其稅額甚タ些少ニシテ之ヲ免除スルモ敢テ歲入ニ影響ヲ及ホスノ虞ナキヲ以テナリ

勅令第七號（明治二十一年二月二十四日）

明治八年二月第二十七號布告車稅規則ニ附則ヲ追加シ本年七月一日ヨリ施行ス

附則

北海道廳管內ニ限リ第一則ニ揭クル諸車ノ內荷積馬車牛車荷積大七大八車荷積中小車ハ當分ノ內稅金ヲ免除ス

明治二十一年十月大藏省訓示第四三八號ヲ以テ車稅規則取扱心得第四條中「烙印シ」ノ三字ヲ「檢定シ」ノ三字ニ改メ明治二十二年六月大藏省訓示第二七〇三號ヲ以テ車稅規則取扱心得中第十項ヲ削除シ更ニ同年三月大藏省達第五六六號ヲ以テ車稅規則取扱心得第十四項ヲ左ノ如ク改正セリ

是レ從來車輛賣買ノ甲乙兩管廳ニ交涉スルモノニ付テハ乙廳ハ賣買ノ事實ノ屆出アリタル後臺帳ニ登記スルノ手續ナルニ依リ其屆出ヲ怠リ又ハ屆出サルモノアリテ徵稅上不都合少カラサリシニ由ルナリ

第十四項　第十三項第二節甲乙兩管廳ニ交涉スルモノハ甲廳ハ直チニ乙廳ニ通牒シ乙廳ハ之ニ依リ臺帳登記ノ手續ヲ爲シ其旨更ニ甲廳ニ通牒スヘシ

而シテ同年市制町村制ノ實施アリ是ニ於テカ五月七日大藏省令第七號ヲ以テ諸車ノ檢印ヲ請求

スヘキ官署ヲ明示シ市ニ於テハ府縣知事町村ニ於テハ郡長ト爲セリ斯クテ車稅規則ハ別段ノ變更ヲ受クルコトナクシテ施行シ來タリシカ遂ニ明治二十九年四月六日法律第六十九號ヲ以テ明治二十九年限リ該規則ヲ廢止スルコトヽ爲レリ是レ當時新ニ國稅トシテ營業稅法ノ制定アリ從テ車稅ハ之ヲ地方ノ稅源ニ移スノ必要アリタルニ由ルナリ

車稅收入額

年度	馬車稅	人力車稅	牛車稅	荷車稅	合計
第八期	円	円	円	円	円
明治八年度	○	○	○	○	○
同九年度	一〇一八〇〇〇	一六〇、〇〇七三〇二	一、四三九、〇〇〇	七二、四三七三四〇	二三四、九〇六四一
同十年度	一四七八、五〇〇	一七四、三五八、三〇〇	一、六六四、五〇〇	八四、三五七八八〇	一、九六四、七五八、三〇七
同十一年度	一、九八八、〇〇〇	一八一、九五四、八五八	一、八一八、二五〇	一〇三、三七三、一四二	二八九、一三四、二五〇
同十二年度	二五六一、五〇〇	一九九、六二一、六一九	二、三九一、五〇〇	一三一、三二三、九七三	三五五、九三九、二五二
同十三年度	三、二九六、五〇〇	二一〇、三四二、六五一	三、一〇三、五〇〇	一六二、七四四、一五	四七九、九三八、六七六
同十四年度	四、九九一、五〇〇	二三〇、〇二四、〇六七	三、四〇六、五〇〇	一九九、七八八、七九八	五四二、八二〇、八六五
同十五年度	七、三四七、〇〇〇	二二六、二九四、四二八	三、六七三、〇〇〇	二一六、五五四、七五五	五四五、八九九、一八三
同十六年度	九、二三三、〇〇〇	二二七、七六八、三五九	三、九二四、一〇〇	二二七、一七三、三九九	五四九、六二八、一五八
同十七年度	二一、五六〇、〇〇〇	二二七、八〇〇、二七五	四、九一九、〇五〇	二三三、一三三、三二五	五六二、七八八、一六五〇

年度	馬車稅	人力車稅	牛車稅	荷車稅	合計
同十八年度	一二、七九〇、三四〇	二一八、九七九、六四	五、七八〇、五七〇	二四六、四七八、四三九	四八四、〇二九、三一二
同十九年度	一五、五三四、〇六〇	二二九、七一二、六九三	六、八五三、八四八	二七九、〇〇二、〇三三	五三一、一〇二、八〇三
同二十年度	二〇、六八七、一三八	二三五、九三四、〇〇八	七、一〇〇、五五〇	三一三、六六八、六三七	五七七、三九〇、三三三
同二十一年度	二六四一九、〇〇〇	二二八、五三〇、〇〇〇	三四七、五〇七、〇〇〇	三四七、五〇七、〇〇〇	六一一、三三九、〇〇〇
同二十二年度	三三、四八一、〇〇〇	二二〇、九八六、〇〇〇	一〇、四三〇、〇〇〇	三八三、一九九、〇〇〇	六四八、〇九六、〇〇〇
同二十三年度	三六、〇七八、五〇〇	二一三、〇三七、一〇六	一一、〇九一、八五八	四〇三、七六四、二三九	六六三、九七一、七〇三
同二十四年度	三六、九六五、九二三	二一四、六一三、六九四	八、八八三、〇〇〇	三四七、五〇七、〇〇〇	六一一、三三九、〇〇〇
同二十五年度	四一、九六八、三四〇	二一三、四七八、八六五	一一、六二四、二五〇	四一九、六〇七、八四三	六八二、八一一、七〇九
同二十六年度	四七、九二五、〇〇	二二八、〇四七、〇六九	一二、六三五、九一六	四五一、五五一、一二一	七二九、六三四、二四二
同二十七年度	五一、九四五、九七五	二三〇、一三四、〇二一	一四、三六五、〇二七	四八三、六一〇、四二五	七七三、九四八、〇二一
同二十八年度	五九、四六八、七九八	二三二、九一五、七三八	一八、五九五、七五〇	五五〇、九七〇、四八六	八六一、九五〇、七七二
同二十九年度	三六、一二八、三五〇	二一三、六一四、一九二	一〇、八〇六、五〇〇	二九八、九四一、八一四	四六九、四九〇、七五六

（備考）

一　明治六年布告第三十一號ニ依ル車稅ハ駕籠稅ノ部ニ出ツ

一　第八期及明治八年度ハ本稅收入額細別不明ナルヲ以テ其合計額ノミヲ示ス

第十八節　船稅

第一款　船稅ノ第一期